

浦幌町立博物館

年報

第 21 号



Historical Museum of Urahoro

2020

11

浦幌町立博物館

年報

第21号



Historical Museum of Urahoro

2019 (令和元) 年度事業報告
(2019.4.1~2020.3.31)

2020

11

序

『浦幌町立博物館年報』第21号をお届けします。この年報は、2019年平成時代から令和への移り変わりの時代となる記念すべき本館の活動状況を取りまとめたものです。

平成11年の年、開町100年からの入館者は、町内外より多くの方々から愛され18万6千人を突破、平成25年度以降絶えず年間1万人を割ることがない博物館でしたが、平成29年度は9千人と1万人を割りました。その後、平成30年度はまた1万人を突破し、多くの方々に愛される博物館であることに感謝を申し上げる次第です。

しかし、これまで皆様方に愛されてきた博物館も、新型コロナウイルス感染症の拡大により北海道は「緊急事態宣言」を出し、国では小・中学校や高等学校に春休みまでの休業を要請する事態となり、本博物館も臨時休館を余儀なくされました。

現在、「新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」に沿って適切な対応を行いながら開館を行っております。

さて、そのような状況の中でも、本年度の主な活動としては、収蔵庫の移転により集約された資料の整理・登録、講座の開催や、見学会、図書館・博物館開館20年記念講座を開催することで、将来的な展望について意見交換を行ってきました。

主な企画展では、廃止となった「上厚内駅回顧展」、池田教会が廃止されたことをうけての「福音ルーテル池田教会と吉田康登牧師の足跡」を企画しました。さらに1900（明治33）年の生剛村外二カ村戸長役場設置から120年を迎え、写真や資料で町史を振り返り開催しました。博物館活動の基本要素である、収集保存・調査研究・展示教育の3分野について、あらためて事業内容を点検しながら進めてまいりました。

老朽化した大型モニターとタッチパネル操作盤の撤去後、再利用について常設展示室改修のめどが立ったことで、将来的な持続可能な博物館の姿が映し出されることとなりました。

アイヌ文化については、浦幌アイヌ協会と連携した初心者アイヌ文様刺繍教室と受講生による製作作品を展示、冬休みこども博物館では「アイヌ文化で遊ぼう！」と題し、遊びの中からアイヌ語について学ぶことが出来ました。

2019（令和元）年度における博物館は、多様な歴史、自然、文化に関する資料と情報を幅広く収集・保全し、地域の財産として将来へ引き継ぎ、各種史跡・文化財の環境整備と関連団体等と連携した総合的な活用の推進や、多方面で活用いただきながら、今後も学校と連携・協働した事業を展開してまいりたいと思いますので、引き続き変わらぬご支援をよろしくお願い申し上げます。

2020年11月30日

浦幌町立博物館長 高 橋 慎

● 目 次

序	i
目 次	ii
I. 施設の概要	1
II. 常設展示構成	2
III. 資料の受け入れ	13
(1) 主な受贈資料	13
(2) 主な採集資料	15
(3) 受贈図書資料	16
IV. 資料の提供	22
V. 博物館の事業	24
VI. 出版・広報活動	41
VII. レファレンス業務	41
VIII. 博物館ボランティア	44
IX. 博物館日誌（抄）	45
X. 博物館の利用状況	52
XI. 博物館の組織	53
XII. 学芸員の執筆活動・依頼講演・社会活動等	54
XIII. 博物館活動のマスコミ報道	56
XIV. 条例、教育委員会規則、教育委員会規程	93
XV. 令和元年度予算	105

本書は2019（令和元）年度（2019年4月1日～2020年3月31日）までの博物館事業を報告するものです。

I. 施設の概要

名 称 浦幌町立博物館 (英文表記 Historical Museum of Urahoro)

所 在 地 〒089-5614 北海道十勝郡浦幌町字桜町16番地 1

電 話 015-576-2009 (直通)

ファックス 015-576-2519 (図書館)

ホームページアドレス

<http://www.urahoro-kyouiku.jp>

メールアドレス

museum@urahoro.jp

建 物 構 造 鉄筋コンクリート造・地上2階建 最高の高さ 10.45m (最高軒高 9.70m)

総 工 費 983,514千円 (備品購入費を含む)

敷地面積 4,575.907㎡

建築面積 1,804.34㎡

延床面積 2,542.17㎡ (1階:1,518.48㎡ 2階:1,023.69㎡)

博物館単独スペース

常設展示室	378.56㎡
学芸員室	45.50㎡
整理室	78.40㎡
写真室	19.50㎡
収蔵庫	71.50㎡
計	593.46㎡

博物館・図書館・教育委員会事務局共有スペース

視聴覚室	172.90㎡
調整室	19.98㎡
キッズルーム	7.29㎡
1階ホール	182.17㎡
2階ホール	166.50㎡
会議室	63.00㎡
書庫	29.75㎡
機械室	31.08㎡
休憩室	11.55㎡
計	684.22㎡

駐 車 場 正面 普通乗用車用 23台分 (うち身体障害者用 2台分)

裏面 普通乗用車用 19台分

計 42台分

開館時間 午前10時～午後6時

休 館 日 月曜日 (月曜日が国民の休日の場合は翌日)・国民の休日の翌日。ただし、土曜日、日曜日及び国民の休日に当たるときを除く・年末年始・その他館長が認めた日

入 館 料 無料

交 通 ・JR根室線浦幌駅下車 徒歩7分
・とかち帯広空港から車で約60分 ・釧路空港から車で約80分

施設設備 エレベーター 1基
車椅子 2台

常設展示室設備

プロローグ音響システム

I. 施設の概要、II. 常設展示構成

アオサギ営巣地ジオラマ音響システム

浦幌町の概要紹介（町の概要・町の花鳥木・産業・イベント・文化・歴史）

5つのエリア（上浦幌・中浦幌・市街地・下浦幌・東部地区）

施設紹介メインマップ

映像情報メニュー（遺跡探検・浦幌川河口から源流まで・野鳥観察・浦幌の四季）

ポイント情報メニュー（自然観察・先史遺跡・チャシ跡観察ポイント）

DVD映像システム（うらほろの歴史・十勝ゆかりの人々・地図でたどるうらほろ）

開拓獅子舞音響システム

II. 常設展示構成

博物館の常設展示は、次の6コーナーで構成されている。

I. 自然からのメッセージ（プロローグ）

II. アオサギの世界

III. 十勝・浦幌の自然誌

IV. 石器と土器の文化

V. アイヌの暮らし

VI. 十勝・浦幌のあゆみ

これらのコーナーはそれぞれ、次のような展示から構成される。

I	1	魚	ヤマメ、イワナ、フクドジョウ、イバラトミヨ、ハナカジカ、イトウ、チョウザメ
	2	昆虫	
	3	鳥	オオヒシクイ、ノスリタカ、クマゲラ、キレンジャク、ヤマセミ、オオルリ、アマサギ、カワアイサ②、エトピリカ
	4	花	ウラボロイチゲ
II	1	アオサギの世界	アオサギジオラマ展示、採捕中のアオサギ、飛行中のアオサギ
	2	浦幌町の自然	月別平均気温と雨量、浦幌の四季、エゾシカ、ヒグマ、タンチョウ
	3	鳥類個体展示	エゾフクロウ、オオコノハズク、コノハズク、クマタカ、カケス、アカショウビン、コルリ、メジロ、センダイムシクイ、ツミタカ、チゴハヤブサ、エゾライチョウ♂、エゾライチョウ♀、マガモ、コガモ、オンドリ、オオワシ②、エトピリカ
III	1	十勝川下流域の地質時代史	十勝川下流域の河岸段丘、アンモナイト化石
	2	十勝川下流域の地質時代史	K-Pg境界、デスモスチルス想像図、デスモスチルス臼歯化石③、シンカイヒバリガイ化石、アロデスミス化石（レプリカ）

VI	1	発掘の様子	発掘前、測量、表土の剥ぎ取り、発掘、住居跡覆土採取用メッシュ、住居跡の発掘、地層の図面づくり、出土した土器、固形剤塗り、住居床面の土の採取、住居跡全景、実測、土の天日乾燥、極小品の選別②、ラジコンヘリコプターによる空中撮影・整理・水洗い、図面づくり、報告書の完成
	2	十勝太若月遺跡土坑墓	土坑墓ジオラマ展示
	3	北海道の先史文化のうつりかわり	図入り年表
	4	北海道の初期の土器文化	研究のはじめ、尖底土器と平底土器、河野広道、澤四郎、テンネル・暁式土器群、下頃辺式土器
	5	シベリアから来た石刃鏃文化	研究のはじめ、北海道の石刃鏃文化遺跡、シベリアの石刃鏃文化遺跡、斎藤米太郎、名取武光、浦幌式土器、石刃鏃、石核、石錐、搔器、削器、石刃槍、彫器、石錘、砥石、敲石、石斧
	6	縄文文化と墓	縄文文化と十勝太若月遺跡、墓の大きさ比べ、土坑墓52の配置図、十勝太若月遺跡の土坑墓、縄文時代前期の土器、後北CⅠ式土器、コハク製玉類、ガラス小玉、砥石、銚先
	7	擦文ムラと住居	住居と生活用具、十勝の擦文文化遺跡、擦文文化の遺跡分布、十勝太若月遺跡、十勝太地区の擦文住居跡分布、擦文住居の復元図、擦文土器、柱、木器、紡錘車
	8	擦文文化の鉄と農耕	鉄と農耕の普及、全道各地出土の鍬の羽口、擦文時代の植物栽培図、鉄斧、刀子、鉄滓、オオムギ・キビ・シソの炭化種子、オニグルミ堅果
	9	いろいろな土器	縄文文化と土器、作り方、形、文様、変遷
	10	いろいろな石器	石器の材料、作り方、黒曜石原材産地、使い方
	11	土器の個体展示	縄文土器⑥、縄文土器⑥、擦文土器⑥
IV	1	アイヌの暮らし	アイヌ酒宴の図、マレク漁の図、蝦夷島奇観
	2	チャシ	史跡オタフンベチャシ跡、礼文内神社チャシ跡、アツナイチャシ跡、チプネオコッペチャシ跡、十勝川口チャシ跡、十勝太Dチャシ跡、旅来チャシ跡、安骨チャシ跡、霧止山チャシ跡、帯富チャシ跡、稲穂チャシ跡
	3	伝製品	シントコ③、イタ、ニンカリ、イクパスイ③、タマサイ③、ツキ、バッチ、エムシ
	4	送り場	十勝太海岸段丘遺跡出土品

II. 常設展示構成

V	1	トカチの成立とトカチ場所	正保日本図、トカチ場所の主な産物、松浦武四郎、最上徳内、近藤重蔵、トカチ御場所山川沼地名里数粗絵図扣
	2	オヘチコカシ村の成立と初期の開墾	7郡51ヶ村のうつりかわり、殖民地区画作業、河合牧場、岐阜農場、開墾風景、サケ漁、斎藤漁場
	3	新しいムラづくり	下浦幌市街都市計画図、明治43年主要市街地戸数人口、戸長役場、浦幌駅開業、第一浦幌尋常小学校と養老尋常小学校との連合運動会、黒岩農場、斎藤牧場
	4	新しいマチづくり	昭和27年十勝沖大震災で震度7を記録、昭和24年ころの市街大通り、開村50年記念乳牛共進会、校内マラソン、昭和35年チリ地震による津波の被害、森永乳業、ロランC局、市街商店街、開町70年記念パレード、十勝バス運行風景
	5	着る	蓑、くけ台、ミシン、火のし、ハンドバッグ、開墾たび、アイロン、バスケット、深わら靴
	6	食べる	膳、櫃、食器、木鉢、砂糖入れ、重ね鉢、弁当箱、石臼、壺、鉄びん、カツオ削り器、野菜削りカンナ
	7	住む	ローソク立て、自在鍵、石油ランプ、柱時計、手下げランプ、ネズミ捕り、電気アンカ、薬箱
	8	農	亜麻播種器、一斗杵、からさお、風呂鍬、窓鍬、平鍬、豆播種器
	9	林	トビ、村田銃、ガンタ、サッティ、刃広、くさび、杙打ち用具、窓鋸、天王寺鋸
	10	鉱	キャップランプ、革手袋、ベルト、ガス自動警報器、測風器微風計、工類表入れ、工類表、安全靴、携帯用ガス警報器、風測計、携帯用坑内誘導無線機、カンテラ、一酸化炭素検知管、救命器
	11	浦幌開拓獅子舞	住吉神社と加賀団体開拓記念碑、浦幌開拓獅子舞、浦幌開拓獅子舞の獅子頭、稲穂獅子舞の獅子頭、初期の浦幌開拓獅子舞の姿、浦幌開拓獅子舞おはやしの音響
	12	生活資料ディスプレイ	ラジオ、選択バサミ、算盤、下駄、かんじき、ノンコ、SPレコード盤、藁靴の型、提灯用箱、湯たんぽ、壁付け式電話
	13	37インチ映像コーナー	うらほろの歴史、十勝ゆかりの人々、地図でたどるうらほろ

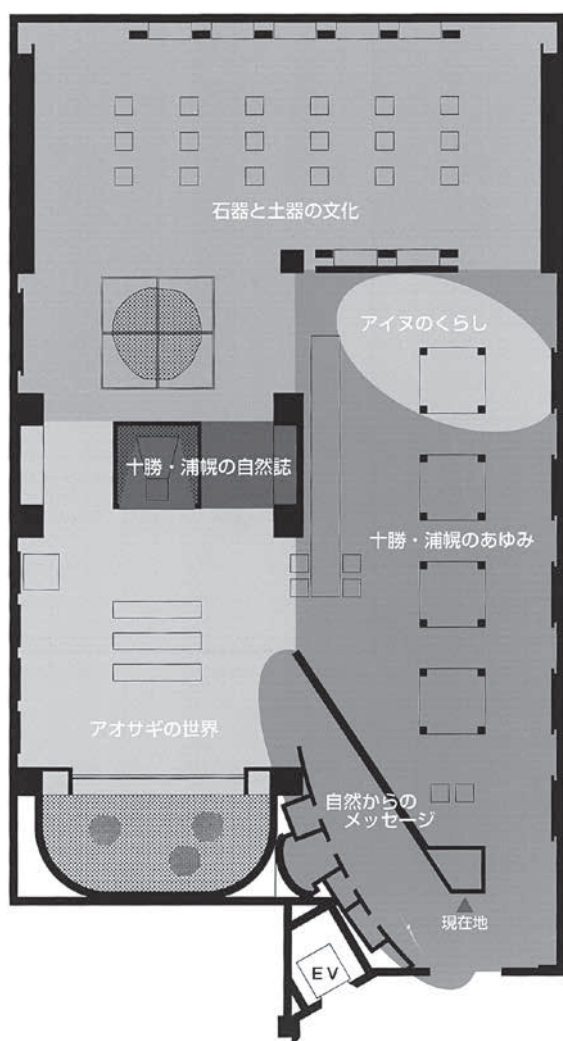


Fig.1 常設展示ゾーニング図



Fig.2 ヒグマ シンボル図



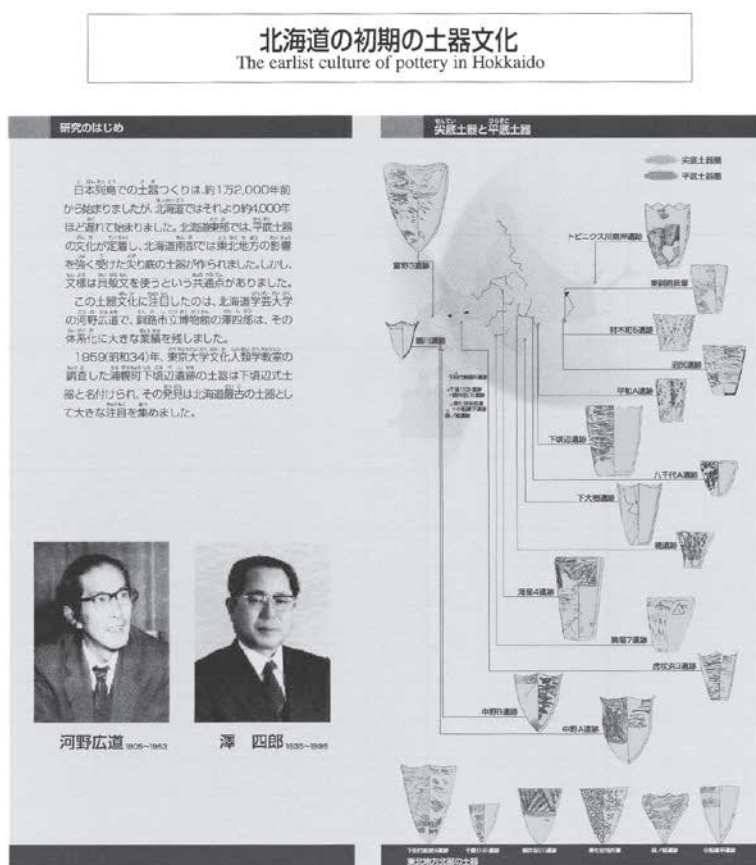


Fig.5 北海道の初期の土器文化

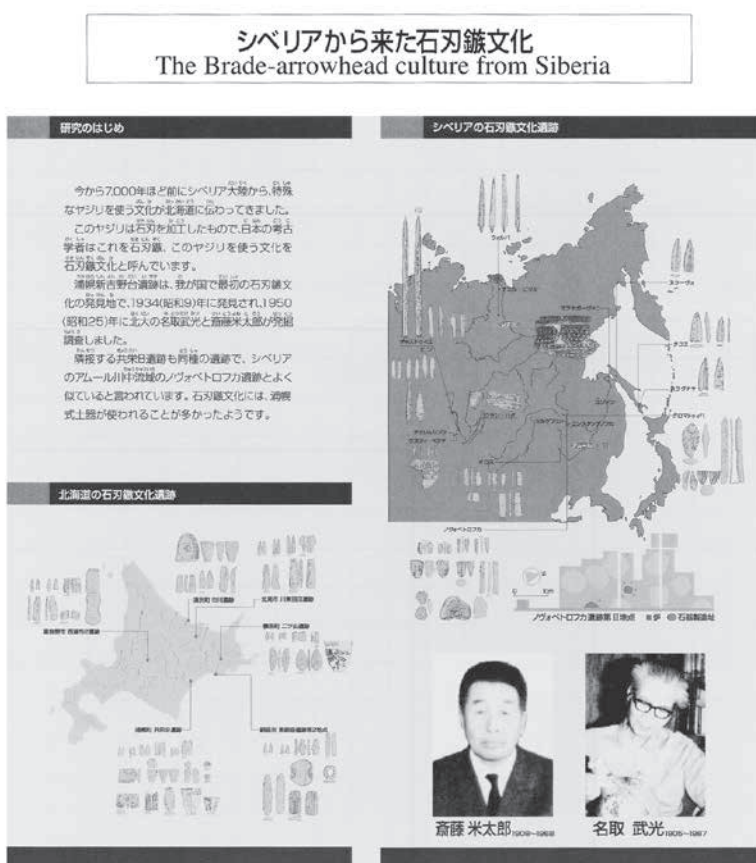


Fig.6 シベリアから来た石刃鎌文化

II. 常設展示構成

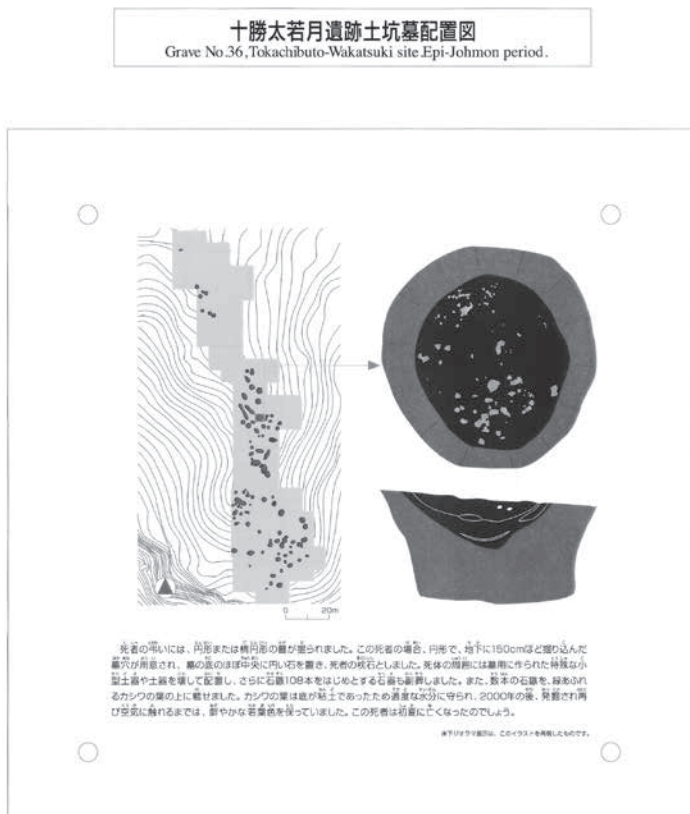


Fig.7 十勝太若月遺跡土坑墓配置図



Fig.8 続縄文文化と墓



Fig.9 擦文ムラと住居



Fig.10 擦文文化の鉄と農耕

II. 常設展示構成

いろいろな土器
Potteries

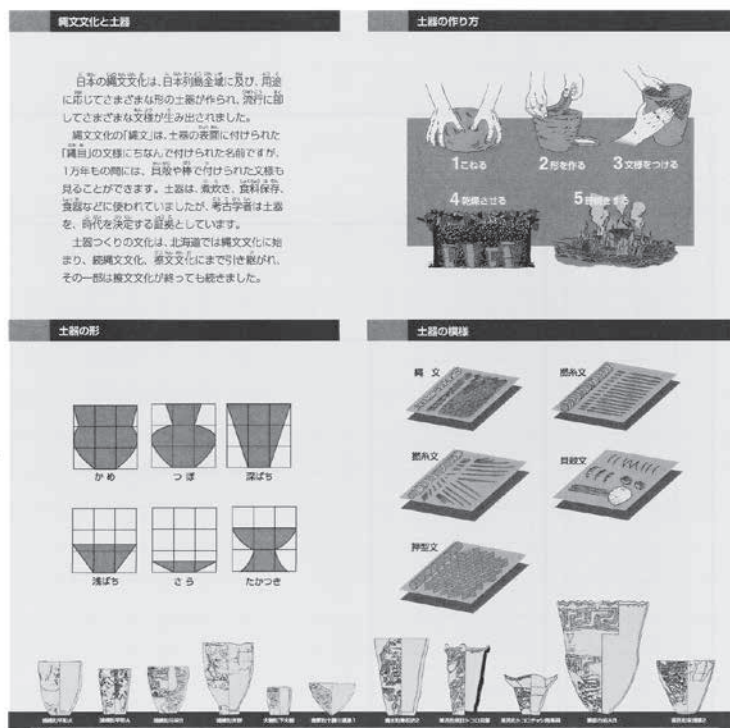


Fig.11 いろいろな土器

いろいろな石器
Stone tools

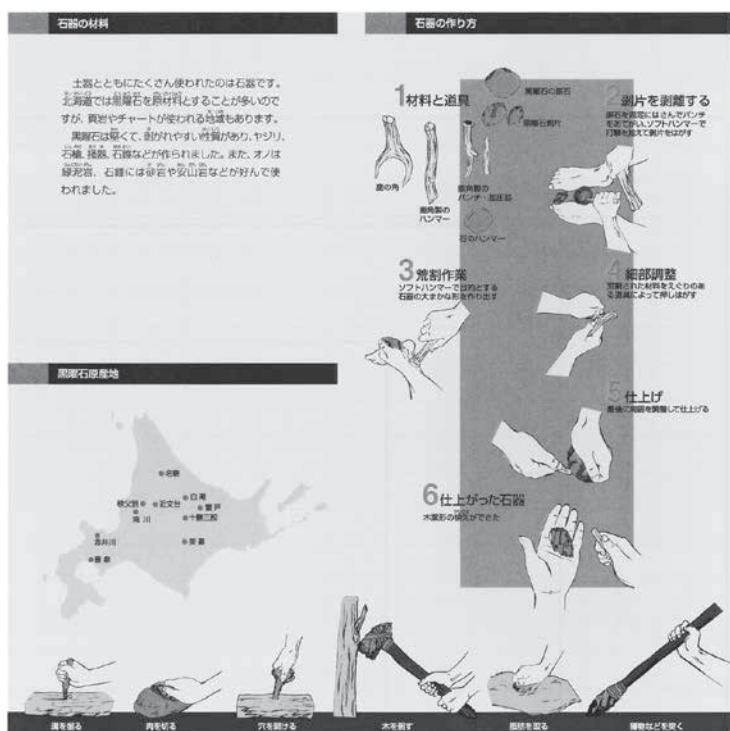


Fig.12 いろいろな石器

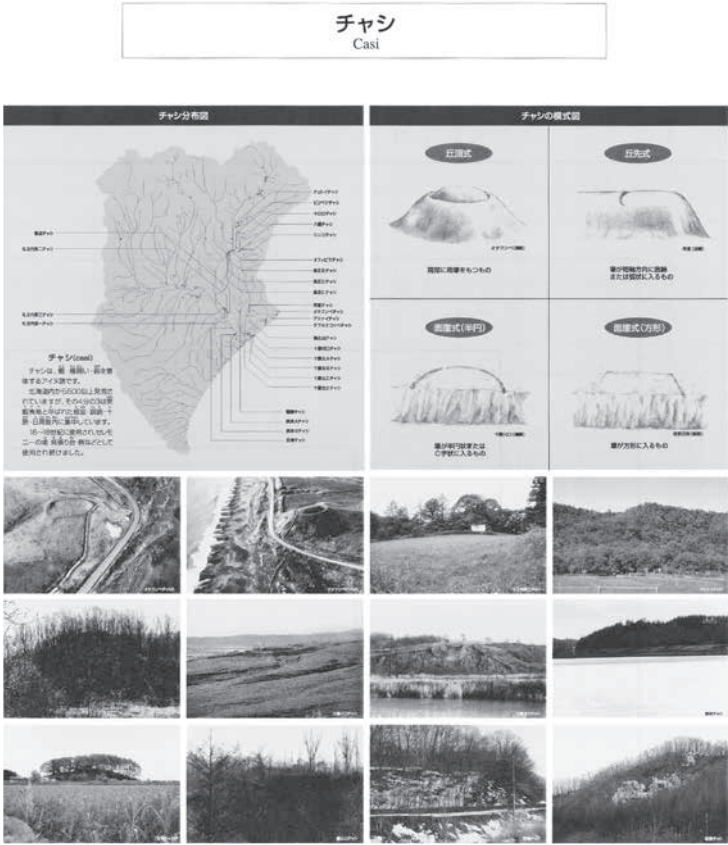


Fig.13 チャシ

送り場
funerary site and that surroundings

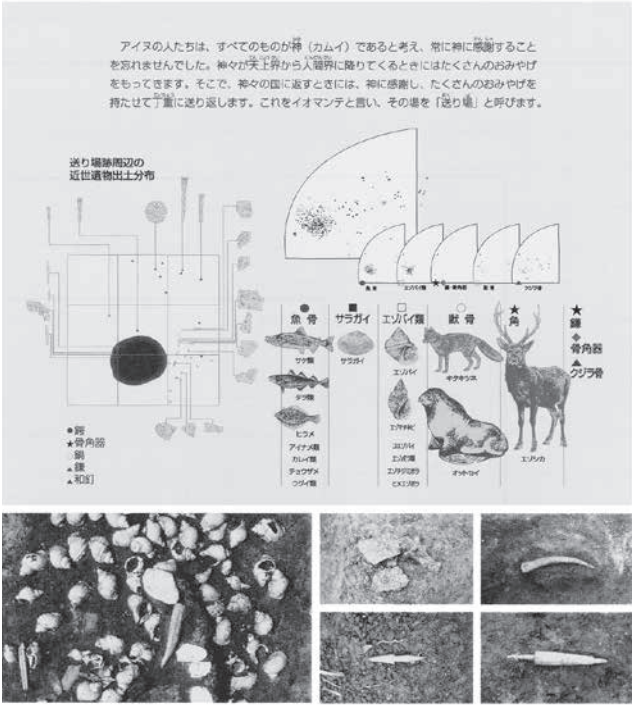


Fig.14 送り場

II. 常設展示構成

トカチの成立とトカチ場所



Fig.15 トカチの成立とトカチ場所

オヘチコカシ村の成立と初期の開墾



Fig.16 オヘチコカシ村の成立と
初期の開墾

Ⅲ. 資料の受け入れ

博物館資料の新規受入件数

(件)

内 訳	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
寄 贈	251	187	440	453	466	531	371
採 集	106	767	122	234	357	272	551
図 書 資 料	704	277	533	315	312	291	445
合 計	1061	1231	1095	1002	1135	1094	1367

※2019年度の寄贈・採集件数は、資料番号「2019-」の件数（2019年1月～12月に受入・登録）。図書資料は年度件数。

(1) 主な受贈資料

月 日	氏 名	住 所	品 名	数量
1・8	久 我 サトエ	本 町	瓶子（へいじ）	93
1・30	松 本 英 俊	末 広 町 1 3	てぬぐい・タオル	20
1・30	JR北海道 浦幌駅	本 町	カレンダー 2019 北海道旅客鉄道株式会社	1
1・30	久 我 サトエ	本 町	北海道浦幌高等学校 第34回浦高祭ポスター	1
1・30	久 我 サトエ	本 町	2018年度版郵便番号簿	1
2・2	久 我 サトエ	本 町	タオル 株式会社 北村商店	2
2・5	稲 垣 和 幸	新 町	レストランうらほろ亭関係資料	156
2・28	持 田 誠	新 町	特殊切手 天皇陛下御即位三十年記念	1
2・28	山 岸 嘉 一	本 町	浦幌炭礦事務所集合写真など写真	6
3・5	楫 省 造	宝 町	メンコ	2
3・5	楫 省 造	宝 町	大正十三年 留真小学校集合写真	1
3・20	宮 崎 一 市	共 栄	音盤 LP	47
3・26	九 谷 ミツ子	南 町	タオル（北洋舎ドライクリーニング）	1
3・30	宮 崎 一 市	共 栄	アサヒグラフなど雑誌・新聞	5
4・4	久 我 サトエ	本 町	カレンダー	1
4・5	齊 藤 亜希子	南 町	浦幌町開町100記念町勢要覧など	4
4・7	持 田 誠	浦 幌 町 字 新 町	毎日新聞お知らせなど	3
5・5	大 村 博	浦 幌 町	浦幌炭礦トロッコ車輪	1
5・5	佐 藤 芳 雄	浦幌町字住吉町	十勝石（黒曜石）	1
5・11	前 出 彰 子	万 年	厚内保育園・厚内幼稚園資料	4
5・19	NTTタウンページ北海道営業本部	札 幌 市	2019タウンページなど電話帳	38
5・22	宮 川 カヅエ	宝 町	煙草入れ・大皿	各1
5・30	中 田 千 晶	東 山 町	教科書 新版国語5下	1
5・30	齊 藤 亜希子	南 町	教科書・副読本	37
5・30	大 本 眞里子	幸 町	卒業のしおりなど浦幌高校関係資料	5
5・30	津 田 悠 作	酪農学園大学	大学卒業論文	1
5・30	林 麟太郎	酪農学園大学	大学卒業論文	1
5・30	大 石 涼 平	酪農学園大学	大学卒業論文	1
5・30	下 村 芳 大	酪農学園大学	大学卒業論文	1
5・30	小 宮 真 樹	酪農学園大学	大学卒業論文	1
5・30	濱 田 桜	酪農学園大学	大学卒業論文	1
5・30	津 田 涼 夏	酪農学園大学	大学卒業論文	1
5・30	吉 川 絢 子	酪農学園大学	大学卒業論文	1
5・30	合 川 由 香	酪農学園大学	大学卒業論文	1

Ⅲ. 資料の受け入れ

月 日	氏 名	住 所	品 名	数量
5・30	堀 内 美 歩	酪農学園大学	大学卒業論文	1
5・30	加 藤 亜友美	酪農学園大学	大学院修士論文	1
6・1	前 出 彰 子	万 年	記念切手・テレホンカード・バッジなど	8
6・1	円 子 紳 一	帯 富	釧路炭田 炭鉱遺産を尋ねて DVD	1
6・1	浦幌ヒグマ調査会	酪農学園大学	ヒグマ2019年5月号(浦幌ヒグマ調査会ニュースレター)	1
6・4	久 我 サトエ	本 町	平成24年 うらほろ留真温泉無料バス運行表など	3
6・4	氏 名 非 公 開	南 町	浦幌小学校通知表	9
6・7	佐 藤 里 香	苫 小 牧 市	掛け時計などマルサ理容室関係資料	4
6・7	久 我 サトエ	本 町	上棟式幣串(へいぐし)	1
6・7	楫 省 造	宝 町	十円紙幣A号券など	5
6・7	楫 省 造	宝 町	吉野小学校閉校記念マグカップ	2
6・7	天 野 和 孝	上越教育大学	論文別刷り	2
6・13	齊 藤 亜希子	南 町	同窓会規約など浦幌小中高等学校関係資料	4
6・23	佐 藤 芳 雄	住 吉 町	浦幌高校創立二十周年記念誌	1
6・23	佐 藤 芳 雄	住 吉 町	池田高校浦幌分校 通知箋	1
6・23	山 本 ひとみ	幸 町	テレホンカード 1995成人式など	6
6・26	久 我 サトエ	本 町	十勝毎日新聞 通算3万号記念号	1
7・23	高 室 景 子	本 町	浦幌小学校・浦幌中学校・浦幌高校 徽章	12
7・23	久 我 サトエ	本 町	切手	1
7・24	荒 川 和 子	南 町	上浦幌小学校閉校記念マグカップなど	2
7・25	厚 内 公 民 館	厚 内	厚内中学校校舎落成記念品(灰皿) など	3
7・25	佐 藤 芳 雄	住 吉 町	狩猟者記章など	9
7・26	NTTタウンページ㈱	東 京 都	2019年度版 防災・防犯タウンページなど電話帳	29
7・26	久 我 サトエ	本 町	タオル (旬)タナカ電器	3
8・8	久 我 サトエ	本 町	十勝毎日新聞(東日本大震災関係)	1
8・14	佐 藤 芳 雄	住 吉 町	弾帯と狩猟関係資料など	6
8・16	齊 藤 亜希子	南 町	浦幌小学校文集『はまなす』など	9
8・18	土 本 伸 重	常 豊	浦幌炭鉱の鉄道ボール、常室地区のスライド	各1
8・20	山 本 浩 宣	住 吉 町	黒電話など	3
8・27	高 室 景 子	本 町	浦幌勤労者野外活動施設パンフレットなど	20
8・30	齊 藤 亜希子	南 町	浦幌小・中学校卒業証書など	16
9・18	三宅正誠(まさし)	東 山 町	浦幌町成人式記念 テレホンカード	1
9・20	齊 藤 亜希子	南 町	浦幌小学校・浦幌中学校 記章など	8
9・21	松 井 繁 實	西 町	木綿製の着物と帯	1
9・25	山 本 ひとみ	幸 町	回覧 秋の博物館・中央公民館講座	1
9・28	久 我 サトエ	浦 幌 町 本 町	十勝毎日新聞 創刊100年記念号	2
10・12	齊 藤 亜希子	南 町	浦幌中学校 生徒手帳など	5
10・15	栗 本 真由美	栄 町	自治労加盟25年記念テレホンカードなど	3
10・16	持 田 誠	新 町	浦幌町要覧など	3
10・23	持 田 誠	浦 幌 町 新 町	毎日新聞など	4
10・23	久 我 サトエ	浦 幌 町 本 町	十勝毎日新聞 2019年10月21日付	2
10・23	齊 藤 亜希子	浦 幌 町 字 南 町	聖教新聞 2019年10月23日付	1
11・26	NTTタウンページ㈱	東 京 都	2019職業別タウンページ など電話帳	31
12・11	土 本 伸 重	常 豊	写真	5
12・11	楫 省 造	宝 町	天秤棒・風	各1
12・11	天 野 和 孝	上越教育大学	ウラホロミガキボラ化石	1

月 日	氏 名	住 所	品 名	数量
12・17	河 合 勝 隆	帯 広 市	槍	1
12・18	久 我 サトエ	本 町	衛生組合だよりなど	各1
12・18	浦 幌 神 社	東 山 町	開道百五十年奉祝記念品	1
12・18	久 我 サトエ	本 町	十勝テレマップ1997など	2
12・18	持 田 誠	新 町	文集『青さぎ』第20号	1
12・18	浦幌町役場産業課	桜 町	ポスター「しゃっこいフェス2019×うらほろ冬花火」	1
12・18	J R 浦 幌 駅	本 町	2020カレンダー 光と風の物語	1
12・20	久 我 サトエ	本 町	北海道浦幌高等学校 閉校記念式典プログラムほか一式	1
12・27	坂 下 禮 子	万 年	まえかけ	1

(2) 主な採集資料

月 日	資 料 名	数量	摘 要
1・8	モンキチョウ	67	採集-荒川和子
2・12	ダイヤ改正チラシ	1	浦幌駅にて採集
2・25	瓶入り飲料	8	アサヒビールほか
2・28	第2回音楽発表会プログラム	1	採集場所：中央公民館
2・28	北方領土復帰促進運動促進チラシ	1	採集場所：中央公民館
3・21	浦幌駅 釧路・帯広・札幌方面列車時刻表	2	2018年3月17日ダイヤ改正
3・21	浦幌神社関係文書	8	
3・21	新聞折込広告	1	2018年1月28日
3・21	ファイターズ帯広戦 チケット先行販売	176	2018年8月1日
4・1	浦幌町立図書館エプロン	2	2種類
4・2	平成31年度 浦幌町立小・中学校 教職員辞令伝達式次第	1	
5・1	第19回統一地方選挙 浦幌町議会議員選挙資料	8	8点
5・22	浦幌町・浦幌町商工会カレンダー	4	
6・5	開町120年記念式典 式次第	1	2冊
7・10	厚内幼稚園関係資料	223	
8・16	貴老路小学校学校日誌	10	
9・12	うちわ	1	北海道179市町村応援大使FIGHTERS
9・30	消費税軽減税率チラシ	3	3点
10・1	消費税関係チラシ	2	2点
10・15	浦幌偉人カード(浦幌町立図書館)	1	図書館まつりで製作・頒布
10・22	日誌 浦幌町青少年会館	16	
11・16	うらほろサロンコーラス 44th concert プログラム	1	
12・27	学校印・ゴム印	13	

(3) 受贈図書資料

【北海道】

(公財) アイヌ民族文化財団

平成29年度アイヌ文化伝承活動
アーカイブス「技」vol.2 (DVD)
アイヌ生活文化再現マニュアル踊り
〔ウポポ・ホリッパ・リムセ〕(DVD付)
アイヌ関連総合研究等助成事業研究報告第18号(上・下)
アイヌ関連総合研究等助成事業研究報告第19号
どっち？どっち？アイヌはどっち？
2019年度アイヌ語ラジオ講座 vol.2、3、4
アイヌ民族：歴史と現在－未来と共に生きるために
(小学生用、中学生用、教育用指導書)
アイヌ生活文化再現マニュアル捧酒箸〔イクパスイ〕
平成30年度アイヌ文化伝承活動
アーカイブス「技」vol.3
アイヌの美しき手仕事
柳宗悦と芹沢銈介のコレクションから
令和元年度アイヌ文化伝承活動
アーカイブス「技」vol.4 (DVD)

旭川市北邦野草園

旭川市北邦野草園研究報告 第8号

浦幌ヒグマ調査会

浦幌ヒグマ調査会20周年記念誌：地域で学んだ自然と
人との関わり～浦幌で学び羽ばたいた学生たち～
浦幌クマ便り vol.20

エゾリスの会

エゾリス 会報120号

恵庭市教育委員会

恵庭市内遺跡発掘調査等報告書 3

NTTタウンページ(株)北海道営業本部

北海道各地方タウンページ 6冊
北海道各地方ハローページ 企業・個人 32冊
職業別タウンページ十勝地方版
十勝中部地方版 防災・防犯タウンページ
職業別タウンページ(北海道各地方版) 4冊
ハローページ企業名(北海道各地方版) 12冊
ハローページ個人名(北海道各地方版) 12冊
職業別タウンページ後志地方版ほか4冊
ハローページ企業名小樽市版ほか17冊
ハローページ個人名小樽市版ほか7冊

NPO法人日本野鳥の会十勝支部事務局

十勝野鳥だより No.202

江別市郷土資料館

江別市文化財調査報告書126 高砂遺跡 (23)
江別市内遺跡分布調査 (5)

えりも町郷土資料館

えりも町郷土資料館ほろいずみ
えりも町漁業振興センター水産の館
平成30年度(2018年度)活動報告書
えりも研究 No.16

小樽市総合博物館

稲垣益穂日誌 三十四巻
小樽市総合博物館紀要 第2号

帯広大谷短期大学

帯広大谷短期大学紀要 第56号
帯広大谷短期大学地域連携推進センター紀要 第6号

帯広市教育委員会

帯広市埋蔵文化財調査報告 第31冊：帯広・川西C遺跡4

オホーツクミュージアムえさし

オホーツクミュージアムえさし年報 枝幸研究 第11号

神田日勝記念美術館

神田日勝記念美術館だよりNo36
神田日勝 作品集

神田日勝記念美術館友の会

神田日勝記念美術館友の会通信画室 vol.54-55

北見市教育委員会

北見博物館研究報告 第1号

釧路市立博物館

釧路市立博物館館報 No422-423
釧路市立博物館紀要 第38輯
博物館ブックレット あなたとカラスのおつきあい
釧路市立博物館 CROW PHOTO BOOK

釧路短期大学

釧路短期大学紀要 第46号
釧路短期大学付属図書館報 第23号

国立アイヌ民族博物館設立準備室

ウポボイ パンフレット
ウポボイ パンフレット (教育関係者用)

札幌国際大学縄文世界遺産研究室

縄文 年報3

札幌市公文書館

公文書館だより 第7号
札幌市公文書館年報 第6号

札幌市博物館活動センター

Muse Letter No.71、No72

札幌市埋蔵文化財センター

市内遺跡発掘調査報告書11
平成30年度調査報告書
札幌市文化財調査報告書106 N434遺跡
札幌市文化財調査報告書107 K435遺跡第3次調査

沙流川歴史館

シシリムカ文化材だより No.2、No.4
沙流川歴史館年報 第20号

JR北海道

THE JR Hokkaido No.378

自然ウォッチングセンター

北海道ウォッチングガイド No.355-366

士別市立博物館

ここにしかない士別の夏
120年がおりなす士別の春

斜里町立知床博物館

丘に眠るオホーツク文化
知床博物館研究報告 第41集

千歳市教育委員会

千歳市文化財調査報告書44
史跡キウス周堤墓群総括報告書

東京農業大学オホーツクキャンパス

東京農業大学オホーツクキャンパス学芸員情報課
程年報2018
学術情報課程年報2019博物館と学芸員を目指す

(一財) 道南歴史文化振興財団

函館市日吉町A遺跡 (5)
函館市臼尻A遺跡 (2)
函館市大船H遺跡

十勝総合振興局

～北海道の野生動物～北の大地で、ともに暮らす
仲間たち
改訂版ストップ・ザ・ヒアリ

十勝自然保護協会

記録集 第3回シンポジウム

十勝海岸の自然を考える

～湿地・湖沼・海岸線の現状と将来～

十勝幌尻農場

縄文の里通信 第8号

縄文の里通信—十勝幌尻農場から— 第9号

苫小牧市美術博物館

苫小牧市美術博物館年報 第4号、第5号

苫小牧市美術博物館紀要 第4号、第5号

美術博物館だより No.6

苫小牧市埋蔵文化財調査センター

北海道苫小牧市市内遺跡発掘調査等事業報告書2

(公財) 日本野鳥の会 鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリ

鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリ Annual Report 2018

ぴっけるぴっけ 2020年冬号

沼田町化石館

沼田町化石館年報 第18号

根室市歴史と自然の資料館

根室市歴史と自然の資料館紀要 第31号

根室市歴史と自然の資料館だより くるまいし No.34

ひがし大雪自然館

ひがし大雪自然館研究報告 第6号

上士幌町ひがし大雪博物館の図録第3展示室

美幌博物館

美幌町埋蔵文化財各種開発確認調査報告書

美幌博物館月刊情報誌 GREEN LETTER

vol.256号～266号

絵を描く心～岸本裕躬作品より

美幌博物館館報 2017

2018年度 博物館講座

美幌博物館研究報告 第26号

よみがえれ！駒生川 手作り魚道が生み出す生物多様性

平取町立二風谷アイヌ文化博物館

2017年度平取町立二風谷アイヌ文化博物館年報

シリムカ文化財だより 第3号

富良野市博物館

Museum Letter vol.31

富良野市博物館報告 第1号

別海町教育委員会

史跡旧奥行白駒通所主屋保存修理工事報告書

保存修理工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

別海町郷土資料館

別海町郷土資料館だより No.237-248

北翔大学北方圏学術情報センター

北翔大学 北方圏学術情報センター年報vol.11 2019

星の降る里百年記念館

平成30年度版年報Vol.26

北海学園大学

北海学園大学学芸員課程学事報告書 第31号

北海学園大学学術研究会

学園論集 第178、179、180号

(一社) 北海道自然保護協会

NC HOKKAIDO No.175～177

北海道の自然No.57

北海道大学アイヌ・先住民研究センター

民族のあり方と先住民族政策

—台湾平埔族の原住民族認定をめぐる—

2019年アイヌ・先住民言語アーカイブプロジェ

クト報告書 和田文治郎樺太アイヌ説話集4

アイヌ語および先住民の言語アーカイブ・

プロジェクト報告書アイヌ語調査資料のデータ

ベース化に関する基礎的研究 (8)

アイヌヘリテージトレイルガイドブック増毛

古文書プロジェクト報告書5

「蝦夷語集」索引アイヌ語—日本語編

古文書プロジェクト報告書6

「蝦夷語集」索引アイヌ語—日本語編

北海道アイヌ民族生活実態調査報告書その6

旭川市におけるアイヌ民族の現状と地域住民

アイヌ語および先住民の言語アーカイブ

プロジェクト報告書

アイヌ語調査資料のデータベース化に関する
基礎的研究 (9)

絵本ラッコパッコ

北海道大学総合博物館

北海道大学総合博物館ニュース 第38号、第39号

考古学からみた北大キャンパス5,000年

北海道大学北方生物園フィールド科学センター植物園

北大植物園研究紀要 第17号

北海道大学埋蔵文化財調査センター

北大構内の遺跡 XXV

北海道大学埋蔵文化財調査センター

ニュースレター30～32号

北海道博物館

北海道博物館研究紀要 第4号

北海道博物館アイヌ民族文化研究センター

研究紀要 第4号

森のちゃれんがニュース

vol.15、16、2019秋号、第19号

第5回特別展アイヌ語地名と北海道

北海道博物館要覧 2018

北海道博物館資料目録第2号

北海道博物館研究紀要 第5号

北海道文化遺産活用活性化実行委員会

地域の文化財総合パンフレットシリーズ1

北海道の古代集落遺跡群

Remains of Ancient Settlements in Hokkaido

(公財) 北海道埋蔵文化財センター

北海道立埋蔵文化財センター重要遺跡確認調査

報告書 第14集

北の発掘物語 遺跡と遺物は語る

北海道埋蔵文化財センター年報 20

調査年報32

北海道立旭川美術館

氷華 No.61、No.62

北海道立オホーツク流水科学センター

流水ミニ百科事典

北海道立近代美術館

北海道立近代美術館・芸術館紀要 第29号

北海道151年ヴンダーカンマー

Caravaggio2019-2020 カラヴァッジョ展

テレビ北海道開局30周年記念 東山魁夷

唐招提寺御影堂障壁画展

北海道立函館美術館

北海道立函館美術館 開館30周年記念

コレクション50選

開館30周年記念・生誕110年記念

金子鷗亭の世界

III. 資料の受け入れ

ニッポンの実写 そっくりの魔力

北海道立北方民族博物館

北海道立北方民族博物館研究紀要 第28号

北海道立北方民族博物館研究紀要 第29号

第33回北方民族文化シンポジウム網走報告書

環太平洋地域の伝統と文化 3カムチャッカ半島、千島列島
民族資料目録7

北海道立北方民族博物館第34回特別展図録

北欧サミの暮らしと工芸

平成30年度 年報

北海道立北方民族博物館資料目録15絵はがき1

第34回北方民族文化シンポジウム網走報告書

環北太平洋地域の伝統と文化4アラスカ・ユーコン地域

北方民族博物館だより No.112、113、114、115、116

北海道歴史文化財団

北海道の年中行事と食（春・夏・秋・冬）

本別町歴史民俗資料館友の会

会報 神居山 第126号

幕別町教育委員会

マクベツウシクル幕別におけるアイヌ文化の記録

三笠市立博物館

三笠市立博物館紀要 第21号

森町教育委員会

森町埋蔵文化財調査報告書 第26集

鷲ノ木2台場跡Ⅱ 鳥崎遺跡Ⅲ 森棧橋跡

森町埋蔵文化財調査報告書 第27集

鷲ノ木2台場跡Ⅸ

湧別町ふるさと館JRY

北海道指定史跡シブノツナイ竪穴式住居

発掘調査概要報告書（2019年度）

余市町教育委員会

余市町八幡山遺跡

陸別町郷土研究会

『郷土研究』24号収録集 祖先からの手紙

『郷土研究』25号特別企画 陸別物語前編

『郷土研究』26号特別企画 陸別物語後編

関寛斎関連文献資料目録 関寛斎を究めた人たち

利尻町立博物館

利尻研究 利尻町立博物館年報 第39号

【青 森 県】

青森県立郷土館

青森県立郷土館報 平成31（2019）年度版 通巻46号

八戸市博物館

博物館だよりNo.56

【岩 手 県】

一関市博物館

平成30年度骨寺村荘園遺跡村落調査研究報告書

一関市博物館研究報告 第22号

岩手県立博物館

岩手県立博物館だより No.161、162、163、164

北上市立鬼の館

北上市立鬼の館だより No.50、51号

北上市立博物館

北上市立博物館研究報告第21号

博物館だよりNo.40

洋野町教育委員会

洋野町埋蔵文化財調査報告第4集

西平内Ⅰ遺跡ハンドボーリング調査報告書

宮沢賢治記念館

平成30年度宮沢賢治記念館年報

【宮 城 県】

仙台市富沢遺跡保存館 仙台市縄文の森広場

地底の森ミュージアム・縄文の森広場

研究報告2018

地底の森ミュージアム

特別企画展 センダイ遺跡の記憶

【秋 田 県】

秋田県立博物館

秋田県立博物館年報 2019年度

Museum News秋田県立博物館ニュース No.168、169、170

【山 形 県】

山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館

2018 年報 No.26

うきたむ 第53、54号（館報）

2019年度特別テーマ展

花沢A遺跡と置賜の縄文時代中期後半の世界

第27回企画展 縄文時代後期の山形

【新 潟 県】

新潟県立歴史博物館

新潟県立歴史博物館年報 第18号

新潟県立歴史博物館研究紀要 第20号

移民物語～弁当からミックスプレートへ～

多文化社会ハワイの日系アメリカ人

絵馬―生業絵馬尽―

ジョウモンネスク・ジャパン

古代ペルシア展

―シルクロードに栄えた工芸と王朝文化―

奥三面展

シャルジャ、砂漠と海の文明交流

―アラビアの歴史遺産と文化―

捕る・愛でる・拝む ―人と動物展―

世界大風呂敷展 布で包むものと心

信玄・謙信、そして伝説の軍師

あ、コレ知ってる！はにわどぐう かえんどきの昭和平成

新潟県立歴史博物館年報 第19号

新潟県立歴史博物館研究紀要 第21号

【茨 城 県】

大洗町幕末と明治の博物館

大洗町幕末と明治の博物館報 第8号

第5回特別展 センチメンタル 池田修三木版画展

―少女・こども・ふるさと―

第6回企画展 水戸と明治維新の先人たち

～光圀・斉昭・龍馬・西郷どん・そして明治維新～

ミュージアムパーク茨城県自然博物館

自然博物館ニュース A・MUSEUM vol.99、100

年報 第25号 平成30年度

茨城県自然博物館研究報告 第22号

【群 馬 県】

みどり市岩宿博物館

笠懸村誌 上巻・下巻・別巻3・別巻4

大間々町誌通史編 上巻・下巻、別巻1-9

大間々町誌 基礎資料Ⅱ～ⅩⅢ

岩宿博物館年報 平成17・19・20・22-30年度
 常設展示解説図録岩宿時代
 笠懸町指定重要無形民俗文化財 横町太々神楽
 岩宿人の暮らしをさぐる学習シート
 笠懸野岩宿文化資料館研究紀要 岩宿第2号2006
 第8回岩宿フォーラム/シンポジウム
 「槍先形尖頭器文化期の集落と武井遺跡」 予稿集
 第10回岩宿フォーラム/シンポジウム
 「石斧の系譜」 予稿集
 第11回岩宿フォーラム/シンポジウム
 「刺突具の系譜」 予稿集
 第12回岩宿フォーラム/シンポジウム
 「武井遺跡の槍先形尖頭器」 予稿集
 岩宿フォーラム2005/シンポジウム
 「石器石材Ⅲ」 予稿集
 岩宿フォーラム2006/シンポジウム
 「岩宿時代はどこまで遡れるか」 予稿集
 岩宿フォーラム2007/シンポジウム
 「敲石・叩き石」 予稿集
 岩宿フォーラム2008/シンポジウム
 「更新世の地形発達史と遺跡群の形成」 予稿集
 岩宿フォーラム2010/シンポジウム
 「北関東地方の石器文化の特色」 予稿集
 岩宿フォーラム2011/シンポジウム
 「上白井西伊熊遺跡と東日本の瀬戸内技法」 予稿集
 岩宿フォーラム2012/シンポジウム
 「北関東地方の細石刃文化」 予稿集
 岩宿フォーラム2013/シンポジウム
 「槍先形尖頭器文化の大規模遺跡と
 遺跡の広がり」 予稿集
 岩宿フォーラム2014/シンポジウム
 「石器の変遷と時代の変革
 ー旧石器から縄文石器へー」 予稿集
 岩宿博物館研究紀要 岩宿 第3号 2014
 岩宿フォーラム2015/シンポジウム
 「石器製作技術」 予稿集
 岩宿フォーラム2016/シンポジウム
 「ナイフ形石器文化の発達期と変革期」 予稿集
 岩宿フォーラム2017/シンポジウム
 「石器群の地域性」 予稿集
 岩宿フォーラム2018/シンポジウム
 「大形突頭器の技術組織」 予稿集
 岩宿フォーラム2019/講演会シンポジウム 岩宿遺
 跡発掘70周年記念「岩宿遺跡と日本列島の旧
 石器時代研究」 予稿集
 第45回企画展「みどり市周辺の鉱業遺産
 ー鉄・銅・マンガンの生産と技術ー」
 第46回企画展「縄文ムラができるころ
 ー稲荷山遺跡発掘30周年ー」
 岩宿博物館企画展「みどり市の縄文土器」
 第49回企画展「岩宿遺跡を学ぶ」
 第50回企画展「群馬の岩宿時代partⅡ」
 第51回企画展「みどり市ゆかりの考古学者
 ー個性が発揮された調査ー」
 第52回企画展「岩宿時代の東西交流
 ー瀬戸内技法と上白井西伊熊遺跡ー」
 第53回企画展「醸造の文化史
 ーみどり市の酒・醤油ー」
 第54回企画展「人が動く、時代も動く
 ー東日本の細石刃文化を追うー」

第55回企画展「山の恵みーみどり市の林業史ー」
 第56回企画展「巨大遺跡の謎を追う
 ー武井遺跡発掘60周年ー」
 第57回企画展「足尾鉄道全線開通100年
 ーわたらせ渓谷鐵道の歴史ー」
 第58回企画展「石器が語る時代の変化」
 第59回企画展「戦後70年戦時下の記憶とくらし」
 第60回企画展「二山山麓の考古学
 ー香芝市の歴史と文化財ー」
 第61回企画展「考古学から見た群馬の戦国時代」
 第62回企画展「ナイフ形石器
 ー発達期の石器群を追うー」
 第63回企画展「方形周溝墓の世界」
 第64回企画展「石器から地域の違いをみる」
 第65回企画展「地震・雷・火事・オヤジ?!
 ーみどり市の災害史ー」
 第66回企画展「石槍 時代を変えた
 石器ライフヒストリー」
 第67回企画展「地中からのメッセージ
 ー遺跡から読み解く“みどり市”の歴史ー」
 岩宿遺跡発掘70周年記念特別展①
 「相澤忠洋ーその生涯と研究ー」
 岩宿遺跡発掘70周年記念特別展②
 「岩宿遺跡と日本の近代考古学」
 事業実施報告書2008岩宿博物館
 岩宿博物館20周年のあゆみ 2013岩宿博物館
 第9回岩宿フォーラム 生命の発見
 第16回国民文化祭・ぐんま2001シンポジウム
 「日本人のルーツを探る」
 ー衣・食・住を中心としてー
 岩宿博物館開館20周年記念・東国文化周知事業
 シンポジウム「岩宿遺跡とその時代」
 まんが おおまの歴史
 Origin (オリジン) vol.5、6、9、18、19、21、
 23、25、34、35、47、48、49、50、51、52、
 53、56、岩宿遺跡発掘60周年記念号、59、60、
 63、65、66、67、69、70、71、72、73、75、
 76、78、79、80、83、84、85、86、87、88

【千葉県】

市立市川考古博物館

館報 第37・38・41・42・43・44・45・46号

国立歴史民俗博物館

令和元（2019）年度国立歴史民俗博物館要覧
 企画展示ハワイ：日本人移民の150年と憧れの島のなりたち
 国際企画展示昆布とミョク潮香るくらしの日韓文化誌

千葉県立中央博物館

千葉県博図公連携事業 事業報告書：「本」をめぐ
 る博図公連携
 千葉県立中央博物館自然誌研究報告 第14巻2号
 ニュースレターしいむじな 第61-64号
 生態園観察ノートNo.20
 「改定 生態園の鳥チェックリスト」
 特別展「恐竜ミュージアムinちば」パンフレット
 ツノシマクジラ～千葉にやってきた幻のクジラ～
 海の生きもの観察ノート6
 「イソギンチャクを観察しよう」

野田市郷土博物館・市民会館

野田市郷土博物館・市民会館年報・紀要 第11号
 郷土史へのまなざし～博物館誕生のものがたり～

【埼 玉 県】

春日部市郷土資料館

第61回企画展示 成金 鈴木久五郎

鉄道博物館

鉄道博物館企画展 走るレストラン～食堂車の物語～

【東 京 都】

青山学院大学文学部史学科研究室

青山史学 第37号

出光美術館

出光美術館 館報 第186、187、188、189、190号

江戸東京博物館

江戸東京博物館NEWS vol.105、106、107、108

ABAJ日本古書籍商協会事務局

国際稀覯本フェア 日本の古書 世界の古書

國學院大學博物館

國學院大學博物館研究報告第36

(公財) 渋沢栄一記念財団

青淵 第841-853号

(公財) 渋沢史料館

渋沢史料館 年報2015

渋沢資料館 年報2016

渋沢研究 第32号

世田谷区立郷土資料館

資料館だより No.70、71

世田谷区編さんだより 第2号、第3号

世田谷叢書第十三集 旧太子堂村森家文書 御用留 6

近代世田谷消防史 町の発展と防災

玉川大学教育博物館

玉川大学教育博物館紀要 第16号

博物館ニュース SHÛ No.52、No.53

玉川大学教育博物館館報 第17号

地方史研究協議会

地方史研究 第398号、第402号

東京家政学院 生活文化博物館

2019東京家政学院生活文化博物館移管資料展(6)

染：しぼる、ふせる、おく

東京家政学院生活文化博物館年報 第28号

豊島区立郷土資料館

生活と文化 研究紀要 第29号

かたりべ No.132～135号

雑司が谷旧宣教師だより 第64・65号

鈴木信太郎記念館だより 創刊号・第2号

(独) 日本芸術文化振興会

芸術文化振興基金

令和2年度助成対象活動募集案内ーその3ー

法政大学史学会

法政史学 第91、92号

明治大学 学芸員養成課程

MUSEUM STUDY 30号

MUSEOLOGIST 34号

明治大学駿台史学会

駿台史学 第166、167号

明治大学博物館

明治大学博物館研究報告 第23号、第24号

郵政博物館資料センター

郵政博物館研究紀要 第10号

立正大学史学会

立正史学 第125号、第126号

【神 奈 川 県】

あつぎ郷土博物館

みる、しる、たのしむ浮世絵の世界

ー歌麿・北斎・広重ー

あつぎ郷土博物館基本展示図録

神奈川県立 生命の星・地球博物館

自然科学のとびら Vol.25, No.2、No.3、No.4

自然科学のとびら Vol.26, No.1

神奈川県立生命の星・地球博物館年報 第24号 (2018) 年度

神奈川大学日本常民文化研究所

民具マンスリー 第52巻1-12号

歴史と民俗 36

川崎市市民ミュージアム

川崎市市民ミュージアム紀要 第31集

日本大学 生物資源科学部

人間科学研究 第17号

日本大学生物資源科学部博物館

博物館研究報告・館報 生物資源科学 vol.28

日本郵船歴史博物館

就航90周年記念客船浅間丸サンフランシスコ航路をゆく

平塚市博物館

平塚市博物館年報 No.42、No.43

平塚市博物館研究報告 自然と文化 No.42

平塚学入門

横浜市歴史博物館

横浜市歴史博物館NEWS No.46、47

企画展図録「横浜の野を駆ける」

横浜市歴史博物館資料目録 第27集

横浜市歴史博物館調査報告 vol.15

横浜市歴史博物館紀要 vol.23

【富 山 県】

魚津市教育委員会

富山県魚津市日尾神明社遺跡発掘調査報告書

魚津歴史民俗博物館

魚津市立博物館紀要 第10号

富山県中央植物園

富山県中央植物園研究報告 第24号

富山県埋蔵文化財センター

富山埋蔵文化センターニュース

埋文とやま VOL.143-149

富山県出土の重要考古資料11 とやまの古墳出土品

令和元年度特別展図録<第1期>

HYOUSHIKI標識土器！

～私たち研究者の縄文時代の編み上げ方～

特別展「HYOUSHIKI 標式土器」図録<第1期・第2期>

氷見市立博物館

ドブネをつくる

漁撈用具を活かした「海の地域回想法」

プログラム事業報告書

ドブネをつくるー復元、オモキ造りの造船技術ー

(DVD)

氷見市立博物館年報 第37号

嶋尾家文書目録

特別展ドブネ復元ー日本海沿岸の船づくりー

特別展応響雑記の世界ー近世の氷見町を訪ねるー

【石 川 県】

石川県立歴史博物館

石川れきはく No.128、130、131、132

珠洲市立珠洲焼資料館

珠洲焼—中世・日本海の華ひらいたやきものの
美展図録
珠洲焼—珠洲焼資料館収蔵品図録

【福 井 県】

越前町織田文化歴史館

越前町織田文化歴史館研究紀要 第4集

【滋 賀 県】

滋賀県立琵琶湖博物館

びわはく No.3

【愛 知 県】

名古屋市博物館

名古屋博物館研究紀要 第42巻

南山大学人類学博物館

南山大学人類学博物館紀要 第38号

【京 都 府】

(公財) 古代学協会

古代学協会だより 土車 第135、136号
初音 (公財) 古代学協会年報 9

【三 重 県】

皇學館大学

天皇陛下御即位記念 即位礼と大嘗祭 (パンフレット)
天皇陛下御即位記念 即位礼と大嘗祭 (図録)

皇學館大学研究開発推進センター

皇學館大学研究開発推進センター年報 第6号
皇學館大学研究開発推進センター紀要 第6号

【奈 良 県】

天理大学附属天理参考館

天理参考館報 第32号

(公財) 奈良人権文化財団 水平社博物館

水平社博物館研究紀要 第21号
LUCIFER 第22号

奈良大学文学部文化財学科

文化財學報 第37集

(独) 奈良文化財研究所

埋蔵文化財ニュース No.174~177
奈良文化財研究所紀要 2019
奈良文化財研究所概要 2019

【大 阪 府】

大阪大谷大学

大阪大谷大学歴史文化研究 第19号

大阪大谷大学博物館

大阪大谷大学博物館報告書 第66冊 河南町の古文書
博物館だより No.126、127

大阪市立自然史博物館

大阪市立自然史博物館研究報告 第73号
大阪市立自然史博物館館報 第44号 (平成30年度)

関西大学博物館

関西大学博物館紀要 第25号

吹田市立博物館

音楽会 貴志康一 生誕110年
～吹田に生まれた若き天才～展示図録
吹田市立博物館館報19

令和元年度 (2019年度) 秋季特別展

大塩平八郎展 四海因窮いたし候はば・・・
吹田市立博物館だより No.80

【兵 庫 県】

(公財) 竹中大工道具館

竹中大工道具館NEWS vol.41、vol.42

【広 島 県】

(株)熊平製作所

拔萃のつゞり その79

庄原市立比和自然科学博物館

比婆科学 第265-267号
庄原市立比和自然科学博物館 標本資料報告 第19号
比和科学博物館研究報告 第61号

【島 根 県】

島根県立三瓶自然館

島根県立三瓶自然館年報 平成30年度
島根県立三瓶自然館研究報告 第18号

【山 口 県】

山口県立山口博物館

山口県立山口博物館研究報告 第45号
山口県立山口博物館館報 41
山口の自然 第79号

【愛 媛 県】

愛媛県歴史文化博物館

歴博だより No.97-99
伊予かすり絁文様の世界
高橋幸意コレクションⅠ:旧石器・縄文時代遺物 (1)
研究紀要 第24号

【高 知 県】

高知県立牧野植物園

高知県立牧野植物園年報 第18号
高知県立牧野植物園だより No.77-80

【宮 崎 県】

九州保健福祉大学博物館研究室

九州保健福祉大学博物館年報 7、8

IV. 資料の提供

収蔵資料の利用状況

(件)

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
特別利用（館外貸し出し）	5	4	3	4	1	5
特別利用（来館調査）	3	4	5	5	5	11
出版利用	3	5	4	3	3	5
合 計	11	13	12	12	9	21

* 博物館活動、博物館紀要における調査研究利用・出版利用をのぞく

1. 出版物掲載などの画像利用

利 用 者	株式会社宝島社（製作:神奈川県横浜市青葉区新石川 角田陽一）
資 料 名	オタフンベチャ写真
目 的	宝島新書『カラー版 1時間でわかるアイヌの文化と歴史』出版・掲載のため
期 間	平成31年4月18日（画像データでの提供）

利 用 者	釧路市立博物館 石川孝織
資 料 名	『入坑五分钟前』no.270
目 的	釧路市立博物館ブックレット『尺別駅と直別駅』出版・掲載のため
期 間	令和元年9月10日（画像データでの提供）

利 用 者	株式会社ぶらんとマガジン社
資 料 名	浦幌炭鉱小学校沿革史・斉藤家文書・エムシ（副製品資料）
目 的	雑誌『HO』2020年1月2日発売号掲載のため
期 間	平成30年11月1日（複製画像を提供）

2. 資料の貸出

利 用 者	上浦幌中学校 三浦雅司
資 料 名	土器
目 的	上浦幌中学校社会科授業
期 間	令和元年6月8日～30日

利 用 者	帯広百年記念館 大和田努
資 料 名	大正拾年上浦幌灌漑溝組合同規約ほか関連資料4点
目 的	企画展「十勝開拓日記」における展示のため
期 間	令和元年7月9日～10月11日

利 用 者	浦幌町老人クラブ連合会
資 料 名	レコード、蓄音機、上浦幌地区写真
目 的	上浦幌老人クラブ忘年会
期 間	令和元年12月20日～24日

利 用 者	上浦幌中学校 三浦雅司
資 料 名	広報うらほろ・新聞記事記録票
目 的	上浦幌中学校卒業展示のため
期 間	令和2年3月7日～17日

利 用 者	NPO法人うらほろスタイルサポート 中村陸二
資 料 名	浦幌炭鉱写真パネル32点
目 的	浦幌炭鉱写真展開催のため
期 間	令和2年3月28日～5月15日

3. 来館調査・閲覧

利 用 者	宮崎一市
資 料 名	大正12年浦幌村役場会議案
目 的	個人調査
期 間	平成31年4月29日～令和元年5月10日

利 用 者	北海学園大学 内田和浩
資 料 名	獅子頭・富山県獅子舞資料・民俗芸能保存団体資料・その他関連資料
目 的	開拓獅子舞関係調査研究
期 間	令和元年6月23日

利 用 者	熊野正徳
資 料 名	開校70年記念誌常室・地形図常室
目 的	個人調査
期 間	令和元年6月8日

利 用 者	帯広百年記念館 大和田努
資 料 名	大正拾年上浦幌灌漑溝組合規約ほか関連資料4点
目 的	調査研究
期 間	令和元年6月14日

利 用 者	北海道立総合研究機構地質研究所 林圭一
資 料 名	浦幌炭礦入山記録帳ほか浦幌炭礦関係資料
目 的	石炭資源マップのための資料調査
期 間	令和元年10月16日

利 用 者	九州大学総合研究博物館 伊藤泰弘
資 料 名	アンモナイトほか収蔵化石全般
目 的	日本古生物標本データベースおよび国内古生物標本ネットワーク参加のための資料調査
期 間	令和元年10月26日

利 用 者	アイヌ民族文化財団 川上将史
資 料 名	イクパスイ、シントコ、ニンカリ、タマサイ、イタ（アイヌ伝世品資料）
目 的	長濱清蔵氏寄贈アイヌ民具取材及びSTVラジオ放送
期 間	令和元年10月26日

利 用 者	北海道博物館 圓谷昂史
資 料 名	アンモナイト化石・K/Pg境界はざとり標本
目 的	北海道博物館2020年度特別展にかかる資料調査
期 間	令和元年10月30日

利 用 者	岡田愛啓
資 料 名	浦幌炭鉱関係資料
目 的	個人調査
期 間	令和2年1月9日

利 用 者	北海道科学大学工学部建築学科 伊藤雅寛
資 料 名	十勝太関係資料・鉄道史資料
目 的	卒業論文調査
期 間	令和2年2月19日

利 用 者	土本伸重
資 料 名	福澤バット工場製バット
目 的	個人調査
期 間	令和2年3月22日

V. 博物館の事業

令和元年度浦幌町立博物館運営方針

浦幌町の多様な歴史、自然、文化に関する資料と情報を幅広く収集・保全し、地域の財産として将来へ引き継ぎ、多方面で活用していくために、浦幌町立博物館は次のような活動を展開します。

1. 町立博物館開館20年を迎えるとともに、国際博物館会議（ICOM）が初めて日本で開催される年にもあたるから、博物館活動の基本要素である、収集保存・調査研究・展示教育の3分野について、あらためて事業内容を点検し、改善を検討します。
2. 前身である郷土博物館の時代を含め、博物館自体の歴史を振り返り、記録をまとめます。
3. まちづくり計画における常設展示室の一部更新を実現するため、さまざまな検討を行います。
4. 各種助成金や補助金など、外部資金を活用した調査研究や展示の取り組みについて検討を進めます。
5. 問い合わせや利用希望の多い資料、広域的な研究資料の情報について、インターネットを活用した情報発信の整備に向けて、具体的にシステムの構築を始めます。
6. 開町120年を節目に、収蔵資料や町内に存在する各種事物を、新規に文化財として指定することを目指した取り組みを進めます。
7. 博物館の将来像について方向性を定め、博物館法にもとづく登録博物館化の推進や、学芸員の調査研究体制のあり方など、体制の見直しをはかります。
8. アイヌ文化については、新たに収蔵した副葬品資料の保存環境を整えて文化財化を推進するとともに、公開と利用の方法を検討し、歴史性や地域性に着目したアイヌ文化の継承と普及事業の充実を図ります。
9. 町立図書館との連携を深め、博物館・図書館へ足を運んでくれる人の掘り起こしや環境を整えるとともに、浦幌町立博物館の認知度を高めるために、全国へ向けた広報活動を強化していきます。
10. 「国際博物館の日」や「文化財保護強調月間」「近代化遺産の日」などを軸に、全国の博物館や文化機関と連携した、多様な博物館事業を展開していきます。

令和元年度 博物館教育普及事業報告

分類	領 域	No.	事業名	事業概要	期 日	来場者または参加者数	備 考
展 示	企画展	1	上厚内駅回顧展	上厚内駅回顧展	3月2日 ～4月21日	519名 (記帳者のみ)	協力：小さな鉄道博物館十勝晴駅、釧路市立博物館、JR北海道釧路支社
		2	アイヌ伝統文化作品展	浦幌アイヌ協会主催のアイヌ刺繍教室の受講生が製作作品を展示	4月25日 ～5月14日	165名 (記帳者のみ)	浦幌アイヌ協会共催
		3	収蔵資料展「端午の節句展」	収蔵資料の五月人形等を展示・公開し、こどもの日には撮影会を開催する。	4月18日 ～5月10日	未計数／ 撮影会は1家族2名	5月5日 記念撮影会
		4	浦幌開町120年	1900(明治33)年の生剛村外二カ村戸長役場設置から120年を迎える事を記念し、写真や資料で町史を振り返る。	5月20日 ～6月12日	154名 (記帳者のみ)	浦幌町役場総務課主催/博物館共催
		5	浦幌に生きる植物はいま	浦幌町一帯の植物の現状について、豊北植物調査会やフラワーソンなど、町民と共に調査した結果も交えながら紹介する。	7月27日 ～9月29日	263名 (記帳者のみ)	
		6	帯広百年記念館移動展「十勝開拓日記」	開拓事業や、ビートやバター工場など産業の発展、観光業の起こりなど、歴史のなかで現在の十勝の社会がどのように形成されてきたのか、パネルで紹介。	10月17日 ～11月15日	129名 (記帳者のみ)	帯広百年記念館運営連絡協議会共催
		7	信仰の灯は永遠に：福音ルーテル池田教会と吉田康登牧師の足跡	浦幌に集団帰農で入植した吉田康登牧師が建設した池田教会が今年で廃止されたことから、同牧師と教会の歴史を浦幌との関わりを含めて紹介する。	11月23日 ～1月19日	536名 (記帳者のみ)	日本福音ルーテル帯広教会共催
		8	孔版画年賀状展	うらほろ孔版画サークルが全国と交換した孔版画年賀状を公開。	1月24日 ～2月6日	84名 (記帳者のみ)	うらほろ孔版画サークル・浦幌文化協会共催
		9	ぼくのわたしの書き初め展	小中学生の書き初めの展覧会	2月8日 ～20日	41名 (記帳者のみ)	もみじ子会共催
		10	ひな人形をさがせ！	収蔵するひな人形3点を博物館1階ロビーに展示。	2月11日 ～3月17日	未計数	
		11	紙の宝石：千葉定是の書票 浦幌展	千葉定是氏の書票(蔵書票：エクスプリクス)の展覧会	3月5日 ～4月7日		新型コロナウイルス蔓延防止のため延期
教育普及	夜学講座	12	豊頃のマルミノウルシ	春、まだ木々の葉が展開する前にしか咲かない植物の生態について紹介。	4月17日	16名	講師 持田学芸員
		13	小説ができるまで	小説の書き始めから完成までの一連の流れについて紹介	7月3日	20名	講師 杉山未樹
		14	<企画展関連事業> シカ、出没注意。対策すべき畑と林	いつどこにシカが出やすい？十勝での研究をわかりやすく紹介します。	9月18日	7名	講師：大熊 勲(まちなか生きものガイドしぜんたい)
		15	日本の向こう側：奄美群島ってどんなところ？	薩摩藩の支配、戦後の米国統治と本土復帰運動などの歴史を紹介	10月9日	21名	講師：斎藤 憲(大阪府立大学名誉教授)
		16	十勝開拓日記	松浦武四郎が国や郡の選定に携わったあと、どのような人々が十勝を探査し記録して、開拓事業の枠組みを構築し、本州から移り住んだ人々の生活はどう変わり、十勝らしさはいつ生まれなどを紹介。	11月13日	26名	講師：大和田 努(帯広百年記念館学芸員)
		17	上厚内駅回顧展と鉄道資料	上厚内駅回顧展で展示した資料や、寄せられた写真などを通じ、鉄道資料の現状と課題を解説。	4月13日	24名	企画展関連講座／講師：持田学芸員
	博物館講座 (うらほろスタイルゼミナール)	18	上厚内駅回顧展展示解説	上厚内駅回顧展の展示資料や映像などにもとづき、同駅の歴史や資料について解説する。	4月7日 20日	未計数 (概数は約12名)	企画展関連講座／講師：持田学芸員
		19	国際博物館の日記念講座「文化をつなぐミュージアム」	今年の「国際博物館の日」のテーマ「文化をつなぐミュージアム」について、博物館と文化継承との関係、現状と課題、浦幌町立博物館がいま為すべきことなどについて議論。	5月19日	8名	講師：持田学芸員
		20	こどもヒグマの学校	浦幌でヒグマ研究に取り組む大学生たちによる、ヒグマに関する子供向け講座。スライドや実物標本、着ぐるみを使って、わかりやすくヒグマの生態や「もしヒグマと出会ってしまったら？」を講義。	10月	—	講師：「浦幌ヒグマ調査会」との日程調整がつかず中止
		21	野鳥写真家 大橋弘一氏特別トークショー「北海道の野鳥観光 その現状と展望」	北海道の野鳥観光推進に尽力し、各自治体等の野鳥観光のサポート業務にも取り組む野鳥写真家大橋弘一氏の活動や道内での野鳥観光の成功例、成功に至るまでの経緯について紹介。	10月26日	24名	主催：浦幌農泊観光促進協議会 共催：(有)ナチュラリー、浦幌町立博物館
		22	図書館・博物館開館20年記念講座	第1部：町立博物館を考える。浦幌町立博物館のいまとこれからの課題。 第2部：町立図書館を考える。	12月8日	延べ38名	講師(第1部)：田野美妃(本別町歴史民俗資料館館長)、持田学芸員 (第2部)：吉田真弓(大谷短期大学教授・副学長)
		23	[企画展関連講座] 信仰の灯は永遠に展覧会解説	企画展「信仰の灯は永遠に：福音ルーテル池田教会と吉田康登牧師の足跡」の展示解説を実施	12月29日	未計数	講師：持田学芸員

V. 博物館の事業

分類	領 域	No.	事業名	事業概要	期 日	来場者または参加者数	備 考
教育普及	博物館講座 (うらほろスタイル ゼミナール)	24	[企画展関連講座] 植物研究家としての吉田牧師	企画展関連事業として、植物研究家としての吉田康登牧師を紹介。	1月11日	26名	講師：持田学芸員
		25	卒業論文大発表会「浦幌のヒグマこんなに調べました2020」	ヒグマを研究する大学生・大学院生たちを集め、自らの研究内容について直接紹介してもらう。	2月8日	61名	講師：酪農学園大学学生・大学院生など
		26	地球上でもっとも重要なイネ科植物を知ろう	人々の生活と密接な関係にあるイネ科植物の特徴や面白さについて紹介。	2月29日		新型コロナウイルス蔓延防止のため中止
		27	[企画展関連講座] 書票の愉しみ	美しく技巧を凝らした書票(蔵書票)の魅力について、製作者の千葉氏が自ら解説。	3月8日		新型コロナウイルス蔓延防止のため中止
	町民座談会	28	本の座談会	本に関する話題で自由に歓談し、読書の楽しさや本の楽しみ方を知る。	夏季に 数回開催	未計数	浦幌読書会共催
	夏休み子ども博物館	29	ウチダザリガニ・バスターズ	特定外来生物ウチダザリガニの捕獲を体験し、生態系について学ぶ。	7月28日	参加者なし	浦幌の自然を楽しむ会共催 (会と学芸員で調査の実施)
		30	ブラバンちようちよづくり	特殊なプラスチック板に描かれたチョウに色鉛筆で自由に色を塗り、オーブントースターで熱をかけると、オリジナルのチョウのキーホルダーが出来る体験講座。	8月2日	54名	講師：持田学芸員
		31	毛糸でヤチボウズづくり	浦幌の湿地帯に広くみられるヤチボウズの人形を、毛糸と輪ゴムを使って作ってみる体験講座。	8月5日	37名	講師：持田学芸員
		32	葉っぱのかたちどり絵はがき	森林公園に生えている樹木3種類の葉の上に質紙をあてて、鉛筆でこすると葉の形と葉脈が浮き上がる。最後に切り取ってはがきの裏に貼り、オリジナルの暑中見舞いはがきを作る体験講座。	8月6日	48名	講師：持田学芸員
	冬休み子ども博物館	33	ブラバンちようちよづくり	特殊なプラスチック板に描かれたチョウに色鉛筆で自由に色を塗り、オーブントースターで熱をかけると、オリジナルのチョウのキーホルダーが出来る体験講座。	1月7日	37名	講師：持田学芸員
		34	アイヌ文化で遊ぼう!	トランプのようなカードを自分たちでつくり、カードゲームをしながら数字のアイヌ語を覚える遊びをした。	1月9日	32名	講師：長谷仁美(帯広百年記念館学芸調査員)、柴田多恵子(帯広市アイヌ文化推進員)
	移動講座	35	<月例調査観察会> 豊北植物調査会	毎月1回豊北原生花園を歩き、植物のフェノロジー(生物季節観測)を調査・記録する。	5月～11月 毎月1回	48名	5/7名、5/4名、6/7名、7/9名、8/3名、9/7名、10/6名、11/5名
		36	<自然観察会> ウラホロイチゲ観察会	日本では浦幌で最初に発見された植物ウラホロイチゲの自生地を巡って観察する講座	4月29日	12名	講師 坂下禮子
		37	<自然観察会> 「青い鳥を探そう」	夏鳥オオルリの美しい姿を、木々の葉が茂って観察しづらくなる前の初夏に観察する	5月2日	7名	講師 春日基江(トリおばさん)
		38	<自然観察会> マルミノウルシ観察会	昨年に十勝から初めて確認されたトウダイグサ科のマルミノウルシについて	6月9日	11名	
		39	<ふるさと探訪> 知っとこ浦幌	浦幌の史跡をまる一日かけて巡る。	—	—	日程調整がつかず未開催
		40	<企画展関連講座> 攪乱跡地の海岸草原の植生観察会	台風などによる高波で打ち寄せられた瓦礫の撤去後の海岸草原の現状を観察する。	8月11日	6名	講師：持田学芸員
		41	<自然観察会> まちなか雑草観察会	市街地に生えている植物、いわゆる雑草を中心とした観察会。	9月14日	7名	講師：持田学芸員
		42	<ふるさと探訪> 列車で鉄道遺産	列車を活用した鉄道遺産と地理歴史巡検	10月12日	1名	北海道文化財保護強調月間/全国近代化遺産一斉公開2019
		43	<自然観察会> 秋の渡り鳥観察会	ハクガン、シジュウカラガン、マガン、ヒシクイなど秋に大終結する渡り鳥を観察する。	11月3日	8名	講師：春日基江(トリおばさん)
		44	<自然観察会> 春の渡り鳥観察会	ハクガン、シジュウカラガン、マガン、ヒシクイなど春に北上する渡り鳥を観察する。	3月28日		新型コロナウイルス蔓延防止のため中止
	ロビーコンサート	45	レコードコンサート	収蔵資料のレコードを活用し、ロビーに音楽を流して休憩場所を提供。	毎月1回	未計数	3月は新型コロナウイルス蔓延防止のため中止
		46	クリスマス讃美歌コンサート	企画展関連事業として、日本では一般的の馴染みのうすい讃美歌、聖歌やキリスト教文化に触れると共に、池田教会やゆかりの人物に関する想い出などを語る場の提供をした。	12月21日	31名	企画展関連事業/日本福音ルーテル帯広教会共催
	浦幌アイヌ協会共催	47	「初心者アイヌ文様刺繍講座」	アイヌ文様刺繍について、その独特の技法を伝承者から学ぶ連続講座	不定期		講師 廣川和子 浦幌アイヌ協会共催

V. 博物館の事業

分類	領 域	No.	事業名	事業概要	期 日	来場者または参加者数	備 考
外部依頼受託 (町内巡検・講義)			浦幌町内小中学校授業指導(展示見学・職場見学・野外巡検)		随時		
			東十勝ロングトレイル協議会森のルート旧浦幌炭鉱と山菜採りツアー(町内)		5月25日	東十勝ロングトレイル協議会主催	
			ひがし大雪自然館友の会観察会講師「不二川周辺の植物観察会」(上土幌町)		6月16日	ひがし大雪自然館友の会主催	
			北海道教育大学釧路校浦幌バスツアー実習講師(町内)		6月13/27日	うらほろスタイル推進協議会・北海道教育大学主催	
			令和元年度浦幌町教職員ふるさと移動研修会講師(町内)		6月25日	浦幌町教育委員会主催	
			東十勝ロングトレイル協議会北海道150年記念松浦武四郎を辿るツアーPART2(町内・豊頃町)		6月29日	東十勝ロングトレイル協議会主催	
			第68回十勝女性大会基調講演「歴史と自然から知る浦幌・十勝」(中央公民館)		6月30日	十勝女性団体連絡協議会主催	
			柏樹学園自治会役員研修会講師(博物館)		7月3日	めむろ柏樹学園主催	
			日本福音ルーテル教会北海道特別教区2019年修養会講演「池田教会の形成と吉田康登牧師」(音更町)		7月14日	日本福音ルーテル帯広教会主催	
			旧浦幌炭鉱跡地巡検案内講師(町内)		7月24日	めむろ歴史探訪会主催	
			厚岸ふるさと友の会視察旅行講師(博物館)		9月26日	厚岸ふるさと友の会主催	
			幕別町立幕別小学校野外学習指導		10月3日	小学6年生理科	
			ニセコ町鉄道遺産を考える講演「博物館が鉄道遺産を収集する意義」(ニセコ町)		10月6日	ニセコ町鉄道文化協会・ニセコ町教育委員会主催	
			地域マイスター講座2019「国道38号線 雑草の旅」(帯広市)		11月14日	市民活動プラザ六中ソフト事業推進室主催	
			十勝植物の会講演会「東十勝の植物をめぐる最近の話題」(帯広市)		11月23日	十勝植物の会主催	
			浦幌町内神社に関する講話(町内)		11月23日	浦幌神社新嘗祭・収穫勤労感謝祭	
			帯広市環境交流会2019講演会講師(帯広市)		12月5日	帯広市主催	
			2019年度全道図書館専門研修(サービス/地域資料)講師(新ひだか町)		12月13日	北海道図書館振興協議会主催	
			シンポジウム「十勝海岸の自然を考える:湿地・湖沼・海岸線の現状と将来」講師(帯広市)		12月15日	十勝自然保護協会主催	
			北海道教職員組合浦幌支会2019年度平和学習会「北海道空襲:浦幌における空襲について」講師(町内)		1月29日	北境祖浦幌支会主催	
			とかちエルダー倶楽部第137回学習会「十勝とキリスト教」講師(帯広市)		2月20日	とかちエルダー倶楽部主催	
			その他学校・団体見学指導、博物館講座講師等		随時		
会議・研修等			浦幌町立図書館・博物館協議会	浦幌町立図書館・博物館の運営に関する館長諮問機関	5月、8月、3月実施		
			帯広百年記念館館運営連絡協議会	帯広百年記念館の活用をはかる十勝管内全市町村の協議体。共同展示など各種事業実施			
			道東3管内博物館施設等連絡協議会	共同展示・研修会など事業実施。10月に交流推進会議を開催(厚岸町)	交流推進会議:10月8-9日		
			東十勝ロングトレイル協議会	浦幌・豊頃 naturally 産業・歴史を生かした新たな散策ルート開発	随時		
			浦幌町着地型観光推進委員会	浦幌町の着地型観光ルート開発に伴う研究	随時		
			北海道博物館大会	北海道内の博物館の連携・振興をはかる協議体。第58回北海道博物館大会(北見市)開催	7月17-18日		
			北海道博物館協会学芸職員部会	全道の学芸職員の連合組織。2019年度総会・研修会をで開催(白老町)	9月25-27日		
			十勝管内学芸職員等協議会	動物園・美術館を含む十勝管内の全学芸職員の連合組織。	随時		
			一般道道モアショロ原野螺旋足寄停車場線モアショロ原野地区の環境影響に関する懇談会	北海道十勝総合振興局帯広建設管理部主催	随時		
			アイヌ民族文化財団事業運営委員会	アイヌ文化振興・研究推進機構による各種事業・助成活動の企画審査等	随時		
実習受入			北海道大学総合博物館資料部	北海道大学総合博物館の外来研究員。	随時		
			酪農学園大学野生動物保全技術学実習	博物館見学および町内にて野生生物調査の実習。	8月28-31日		
			職業体験実習	浦幌中学校より受入	今年度は実施なし。		
研究者等受入			博物館実習	大学より単位取得のため学生を受入。	今年度は実施なし。		
			酪農学園大学	ヒグマ生態研究	随時		
			上越教育大学・金沢大学	貝化石調査	8月		
			帯広百年記念館	漂着物・古文書・埋蔵文化財調査	随時		
			早稲田大学	浦幌炭鉱関係資料調査	7月～9月		
			北海道教育大学	地質調査	随時		

V. 博物館の事業



PL.1 企画展
「上厚内駅回顧展」
(2019.3.2～4.21)



PL.2 企画展
「上厚内駅回顧展」
(2019.3.2～4.21)



PL.3 企画展
「アイヌ伝統文化作品展」
(2019.4.25～5.14)



PL.4 企画展
「浦幌開町120年展」
(2019.5.20～6.12)



PL.5 企画展
「浦幌に生きる植物はいま」
(2019.7.27～9.29)



PL.6 帯広百年記念館移動展
「十勝開拓日記」
(2019.10.17～11.15)



PL.7 企画展
「信仰の灯は永遠に：福音ルーテル
池田教会と吉田康登牧師の足跡」
(2019.11.23～2020.1.19)



PL.8 企画展
「全国孔版画年賀状展」
(2020.1.24～2.6)

V. 博物館の事業



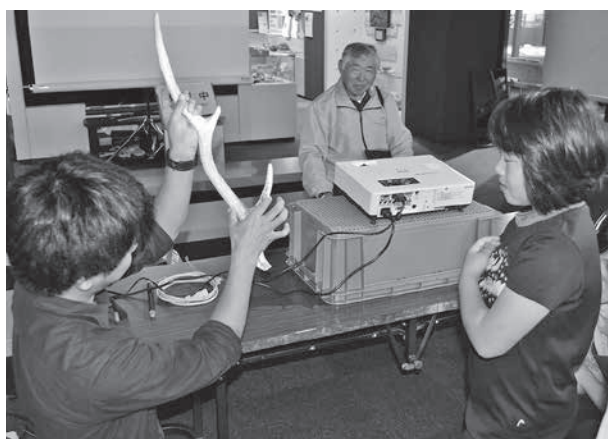
PL.9 企画展
「ぼくの、わたしの書き初め展」
(2020.2.8～20)

PL.10 夜学講座
「豊頃のマルミノウルシ」
〔講師：持田誠学芸員〕
(2019.4.17)



PL.11 夜学講座
「小説ができるまで」
〔講師：浦幌町立図書館
杉山末樹司書〕
(2019.7.3)

PL.12 夜学講座
「シカ、出没注意。対策
すべき畑と林」
〔講師：まちなか生きもの
ガイドしぜんたい
大熊勲氏〕
(2019.9.18)





PL.13 夜学講座
「日本の向こう側：奄美群島
ってどんなところ？」
〔講師：大阪府立大学 斎藤憲
名誉教授〕
(2019.10.9)



PL.14 夜学講座
「十勝開拓日記」
〔講師：帯広百年記念館
大和田努氏〕
(2019.11.13)



PL.15 博物館講座
「上厚内駅回顧展展示解説」
〔講師：持田誠学芸員〕
(2019.4.20)



PL.16 国際博物館の日記念講座
「文化をつなぐミュージアム」
〔講師：持田誠学芸員〕
(2019.5.19)

V. 博物館の事業



PL.17 野鳥写真家大橋弘一氏特別トークショー
「北海道の野鳥観光 その現状と展望」
(2019.7.11)
〔講師：ナチュラリー 大橋弘一氏〕
(2019.10.26)

PL.18 浦幌町立図書館・博物館開館
20年で講師の吉田真弓教授より
贈られた花束を飾る図書館
(2019.12.8)



PL.19 図書館・博物館開館20年記念講座
〔講師：本別町歴史民俗資料館
田野美妃館長〕
(2019.12.8)

PL.20 図書館・博物館開館20年
記念講座
〔講師：帯広大谷短期大学
吉田真弓副学長・教授〕
(2019.12.8)





PL.21 企画展関連事業
「クリスマス讃美歌コンサート」
〔お話しびあのの会・日本福音
ルーテル帯広教会〕で吉田康登
牧師の思い出を語る杉江英雄氏
(2018.12.21)

PL.22 企画展関連事業
「クリスマス讃美歌コンサート」
で伴奏する西田祐子氏と合唱す
るお話しびあのの会のメンバー
(2018.12.21)



PL.23 企画展関連事業
「クリスマス讃美歌コンサート」
で挨拶する日本福音ルーテル帯広
教会の岡田薫牧師
(2018.12.21)

PL.24 企画展関連講座
「植物研究家としての吉田牧師」
〔講師：持田誠学芸員〕
(2020.1.11)





PL.25 卒業論文大発表会
「浦幌のヒグマこんなに調べま
した！2019」（2019.2.8）で
発表する酪農学園大学生

PL.26 卒業論文大発表会
「浦幌のヒグマこんなに調べ
ました！2019」で講評する
酪農学園大学の佐藤喜和教授
(2019.2.8)



PL.27 月例調査観察会
「豊北植物調査会」
(原則として毎月第1土曜日に開催)

PL.28 自然観察会
「ウラボロイチゲ観察会」
〔講師：坂下禮子氏〕
(2019.4.29)





PL.29 自然観察会
「青い鳥を探そう！」
〔講師：トリおばさん〕
(2019.5.2)

PL.30 自然観察会
「マルミノウルシ観察会」
〔講師：持田誠学芸員〕
(2019.6.9)



PL.31 自然観察会
「攪乱跡地の海岸草原の
植生観察会」
〔講師：持田誠学芸員〕
(2019.8.11)

PL.32 自然観察会
「秋の渡り鳥観察会」
〔講師：トリおばさん〕
(2019.11.3)





PL.33 夏休みこども博物館
「プラバンちょうちょづくり」
〔講師：持田誠学芸員〕
(2019.8.2)

PL.34 夏休みこども博物館
「プラバンちょうちょづくり」
で子ども達が製作したプラバ
ンちょうちょ
(2019.8.2)



PL.35 夏休みこども博物館
「毛糸でヤチボウズづくり」
〔講師：持田誠学芸員〕
(2019.8.5)

PL.36 夏休みこども博物館
「毛糸でヤチボウズづくり」
で子ども達が製作したヤチ
ボウズ
(2019.8.5)





PL.37 夏休みこども博物館
「葉っぱのかたちどり絵はがき」
〔講師：持田誠学芸員〕
(2019.8.6)

PL.38 夏休みこども博物館
「葉っぱのかたちどり
絵はがき」で子ども
達が製作した作品
(2019.8.6)



PL.39 冬休みこども博物館
「アイヌ文化で遊ぼう」で講師を
務める帯広市アイヌ文化推進員
の柴田多恵子氏（左）と帯広百
年記念館の長谷仁美学芸調査員
(2020.1.9)

PL.40 冬休みこども博物館
「アイヌ文化で遊ぼう」
(2020.1.9)





PL.41 博物館で保管されてきた十勝太若月遺跡第三次発掘調査で発掘された近世アイヌ女性の遺骨を地域返還。再埋葬のため、浦幌墓地で浦幌アイヌ協会の差間正樹会長へ文書を手渡す久門好行教育長。教育長の後には熊谷晴裕教育次長、高橋慎博物館長（2019.8.17／浦幌墓園）

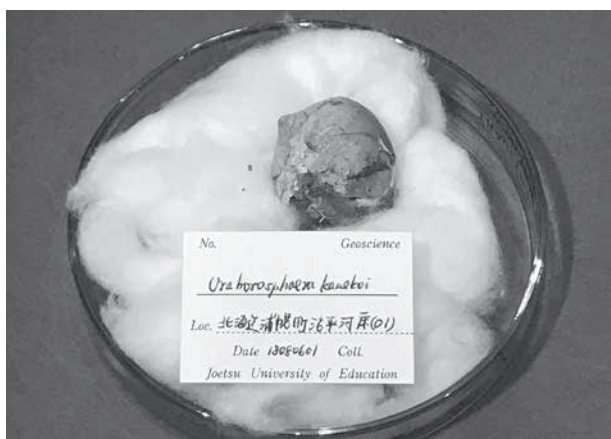
PL.42 札幌医科大学からの返還遺骨とともに再埋葬される、博物館で保管されてきた十勝太若月遺跡第三次発掘調査で発掘された近世アイヌ女性の遺骨（2019.8.17／浦幌墓園）



PL.43 再埋葬された遺骨を慰霊するイチャルパ（2019.8.18／浜厚内生活館）

PL.44 再埋葬された遺骨を慰霊するイチャルパにて、イナウを捧げる浦幌アイヌ協会の差間正樹会長（中央）（2019.8.18／浜厚内生活館）





PL.45 新種発表者である上越教育大学の
天野和孝名誉教授より提供を受
け、常設展示室内で公開をはじめ
たウrahoroミガキボラの化石

PL.46 毎月第3土曜日にロビーで
開催しているレコードコン
サート
(2019.4.20)



PL.47 浦幌小学校授業
「むかしの暮らし」で開拓獅子
舞を解説する佐藤芳雄ボラン
ティア
(2020.2.13)

PL.48 浦幌小学校による昆虫に関する授
業で、採集法や昆虫の種類につい
て解説する、帯広百年記念館の伊
藤彩子学芸員
(2019.9.18／うらほろ森林公園)





PL.49 台風による土砂災害で埋まったK/pg境界層を掘り起こす、北海道教育大学釧路校地学研究室の松原尚志教授と研究室のメンバー
(2019/7/13／茂川流布川のK/Pg境界)

PL.50 クリスマス讃美歌コンサートでのブックトークを行なう柴田ほのか司書
(2019.12.21)



PL.51 日常的な博物館の清掃管理を委託しているサンビーム興産の岩崎小百合氏（右）と岩崎幸子氏（左）
(2019.12.26)

PL.52 退職した図書館司書たち。左から柴田ほのか氏、杉山未樹氏、中川菜都紀氏。3名とも博物館係を兼務し、レファレンスやブックトークなど、さまざまな連携事業を担ってきた
(2020.1.31)



VI. 出版・広報活動

- 『浦幌町立博物館年報』第20号発行（2019年11月30日）
- 『浦幌町立博物館紀要』第20号発行（2020年3月31日）
 - ・論文、資料紹介5編を掲載
 - ・第16号より国際逐次刊行物番号（ISSN）を付与（ISSN 2189-4787）
 - ・年報と共に全国の主な大学、博物館、図書館へ発送。
- 『浦幌町立博物館だより』発行（毎月1日発行）
 - ・町内および十勝・釧路管内の主な博物館、図書館等で配付。PDF版をホームページにて公開。
- 『広報うらほろ』に「博物館の窓」を連載

VII. レファレンス業務

レファレンス対応状況

(件)

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
来館・町内呼出によるもの	-	32	28	35	55	57
通信および他部局より転送	-	85	102	62	112	72
合 計		117	130	97	167	129

*2014年以前のレファレンス受付件数については記録が無い（主なレファレンス内容のみ年報へ記載）

2019年度において、照会などのあった内容は概ね次のようなものである。

<人文・社会科学分野>

- 浦幌炭鉱の現状について
- 留真温泉源泉探査
- 炭鉱・アイヌ文化・留真温泉・浦幌の歴史について
- 鉄道史関係
- 吉田康登牧師について
- 十勝沖地震のあと浦幌中学校で歌われるようになった亡くなった先生を偲ぶ歌について
- 炭山への行き方について
- 十勝太若月遺跡出土人骨について
- チャシについて
- 麻布（まふ）・保道車について
- 浦幌の近代建築について
- 擦文時代・アイヌ文化期の特徴について
- 浦幌村での戦没兵士の村葬記録について
- 浦幌町内におけるアイヌの染織技術の伝承について
- 日本福音ルーテル池田教会資料について
- 上厚内駅資料について
- 根室本線の史跡について
- 浦幌炭鉱鉄道用地における国鉄線路用地取得の経緯について
- 浦幌からのブラジル移民について
- 上西晴治について
- 近代初期アイヌ集落分布について

VII. レファレンス業務

- 鉄道資料の保存方法について
- 昭和40年十勝太遺跡の資料について
- 鉄道資料の収集方法の相談
- 町内工事に係る史跡の照会
- 浦幌の歴史などの問い合わせ
- 戦時中～1950年（昭和25年）くらいまでの紙芝居を保管しているかとの問い合わせ
- キリスト教会史研究について
- 浦幌の縄文遺跡について
- アイヌの鮭漁の先住権について
- 十勝川～浦幌十勝川の遺跡分布とアイヌについて
- 新聞資料問合せ
- 白糠丘陵～北見山地の高山性植物について
- 十勝太の鉄道計画について
- ソコベの湧水について、名称の由来や利用の歴史を知りたい
- 吉野小学校文集「よしのっこ」について
- 千葉大学アイヌ言語資料について
- 浦幌開拓農業協同組合について
- アイヌ副葬品資料について
- 福澤バット工場の資料がないか
- 釧路市の公民館の歴史について
- 常盤小学校があった頃の地図が欲しい
- 福澤バット工場で製作していたバットの種類について
- 養老小学校の校歌作成者と新養老小学校の校歌作成者の違いについて
- 幸福駅・広尾線の歴史問合せ
- 浦幌炭鉱跡地に残るコンクリート構造物について
- 淡路島からの入植者について
- オホーツク文化について
- 開拓獅子舞について
- 渡船について
- 今村浅次郎について
- 昭和35年頃の常室の地図がみたい
- 土器の使い方
- 写真の年代特定及び場所の同定
- オタフンベチャシについて

<自然科学分野>

- 植物同定依頼
- ウラボロイチゲについて
- アオサギコロニーについて
- キクザキイチゲの同定と分布確認
- ミズキの生えている場所
- エゾノコリンゴに大量発生した幼虫について
- イオルの植物について
- コケモモの生態について

- 豊北海岸で見られる花について
- ヌタベツト湿原について
- チョウの同定（写真）依頼
- ハマナスの生態・分類・民俗について
- 十勝石の産地について
- 浦幌におけるヒグマの生息状況及び研究状況について
- エゾオヤマリンドウについて（種類・和名問い合わせ）
- 化石林における植物同定に関する相談
- 豊頃駅裏のスズラン沼の魚類相について
- 厚内海岸における植生変遷について
- ミミズの同定依頼
- 十勝2番目のアンモナイトについて
- カニとウサギに関する情報の問い合わせ
- 十勝太展望台で見つけた石について問い合わせ
- 植物化石の相談
- 石の鑑定
- 雑草の名前の調べ方
- 広尾の「緑の海岸」（海藻）について
- 豊北海岸の植生について
- 白糠丘陵の範囲と成り立ちについて
- 化石鑑定依頼
- アオサギの数と環境の変化について
- 帯広市内平野部の残存湿地について
- 文化センターにある植物の問い合わせ（ラベンダーに似た花ネペタ）
- 十勝川流域の沼地の形成要因・年代について

<文化財・博物館制度・博物館学について>

- 雪の博物館をやっているかという問い合わせ
- 図書館・博物館の連携について
- 博物館情報のデジタル化調査
- 文化財レスキューについて
- 北海道の博物館地図について
- 学芸員の職務内容・身分について
- 登録博物館制度について
- 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策について
- 博物館の閉館時間、休館日、料金についての調査

VIII. 博物館ボランティア

博物館活動の一環として、博物館ボランティアによる活動がある。博物館ボランティアの業務は、①資料整理等の補助業務 ②新聞資料等の整理 ③博物館図書の登録と整理 ④簡易な展示解説 ⑤調査研究活動の補助 ⑥その他館長が適当と認めた業務等が想定されるが、本館では①～③業務を主に行い、他に古文書解説も行われている。現在の登録者は10名であるが、日常的に活動している者は6名である。

なお、古文書解説の成果は、「浦幌町立博物館紀要」第20号に掲載した。

●博物館ボランティア活動日数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
氏 名 別	3	3	3	3	2	3	3	3	3	5	6	4	41
延 人 数	27	29	25	27	24	24	26	28	26	35	33	32	336
磨 く 会*	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	0

磨く会＝お茶を飲みながら資料を磨く会

●博物館ボランティア登録者

北 町	春日 基江	本 町	久我サトエ	北 栄	円子 紳一	南 町	荒川 和子
万 年	坂下 禮子	住吉町	佐藤 芳雄	光 南	前出 彰子	幸 町	大本眞里子
幸 町	山本ひとみ	団 体	浦幌の自然を楽しむ会			常 豊	土本 伸重
住吉町	持田 直也	住吉町	持田 百恵	南 町	コレット・イングリッシュ		

IX. 博物館日誌（抄）

2019（平成31）年

- 4月1日(月) 浦幌町職員辞令交付式。アイヌ刺繍講座（浦幌アイヌ協会）開催。浦幌アイヌ協会1名来館。
 4月2日(火) アイヌ刺繍講座（浦幌アイヌ協会）開催。浦幌アイヌ協会1名、円子紳一氏、(株)北海道建設新聞社帯広支社：阿部みほ氏、(株)北海道建設新聞社札幌本社：大坂力氏来館。
 4月3日(水) アイヌ刺繍講座（浦幌アイヌ協会）開催。浦幌アイヌ協会3名、大盛哲男氏来館。
 4月4日(木) アイヌ刺繍講座（浦幌アイヌ協会）開催。浦幌アイヌ協会1名来館。
 4月5日(金) アイヌ刺繍講座（浦幌アイヌ協会）開催。浦幌アイヌ協会1名、菅谷明氏、浦幌野鳥倶楽部：武藤満雄氏、奥山道紀氏、小樽総合博物館：佐藤卓司氏来館。
 4月6日(土) 大盛哲男氏来館。
 4月7日(日) 企画展展示解説「上厚内駅回顧展展示解説」開催。
 4月9日(火) アイヌ刺繍講座（浦幌アイヌ協会）開催。浦幌アイヌ協会2名、円子紳一氏、北海道新聞池田支局長：岩瀬貴弘氏来館。
 4月10日(水) アイヌ刺繍講座（浦幌アイヌ協会）開催。浦幌アイヌ協会3名来館。
 4月11日(木) アイヌ刺繍講座（浦幌アイヌ協会）開催。浦幌アイヌ協会2名来館。
 4月12日(金) アイヌ刺繍講座（浦幌アイヌ協会）開催。浦幌アイヌ協会2名、円子紳一氏、NHKプラネット北海道支社：加藤誠也氏、美園婦人部8名来館。
 4月13日(土) 図書館布絵本づくりボランティア活動日、企画展関連講座「上厚内駅回顧展と鉄道資料」開催（24名参加）。帯広市：大笹健郎氏、帯広市：伊藤貴一氏、円子紳一氏、榊原政裕氏、更別村：斉藤憲氏来館。
 4月14日(日) 足寄町：狭間淳一氏ご夫妻、帯広市：岩田好孝氏ご夫妻、上浦幌中学校教諭：三浦雅司氏来館。
 4月16日(火) アイヌ刺繍講座（浦幌アイヌ協会）開催。浦幌アイヌ協会2名、文化財サポート：田才雅彦氏、(株)イビソク：岡本香奈氏来館。
 4月17日(水) アイヌ刺繍講座（浦幌アイヌ協会）、夜学講座「豊頃のマルミノウルシ」開催（16名参加）。浦幌アイヌ協会5名、円子紳一氏、北海道新聞池田支局長：岩瀬貴弘氏来館。
 4月18日(木) アイヌ刺繍講座（浦幌アイヌ協会）開催。浦幌アイヌ協会2名、円子紳一氏来館。
 4月19日(金) 持田誠学芸員：NHK取材対応。
 4月20日(土) 企画展示解説「上厚内駅回顧展展示解説」、レコードコンサート開催。更別村：斉藤憲氏来館。
 4月21日(日) 企画展「上厚内駅回顧展」最終日。
 4月23日(火) 円子紳一氏、佐藤芳雄氏、出口和枝氏来館。
 4月24日(水) アイヌ刺繍講座（浦幌アイヌ協会）開催。浦幌アイヌ協会6名、円子紳一氏、大同出版紙業(株)：藤井陸香氏来館。
 4月25日(木) 企画展「アイヌ伝統文化作品展」開始。円子紳一氏来館。
 4月27日(土) 図書館布絵本づくりボランティア活動日。
 4月29日(月) 移動博物館「ウラホロイチゲ観察会」開催（12名参加）。円子紳一氏、差間正樹氏来館。
 4月30日(火) お茶を飲みながら資料を磨く会開催。

2019（令和元）年

- 5月2日(木) 移動博物館「青い鳥をさがそう！」開催（7名参加）。横浜市：須田智子氏来館。
 5月3日(金) 移動博物館「マルミノウルシ観察会」開催（11名参加）。
 5月4日(土) 月例植物調査会「豊北植物調査会」開催（7名参加）。
 5月5日(日) 持田誠学芸員：キクザキイチゲ自生地現地確認のため帯広市岩内へ出張。端午の節句撮影会開催（1組来館）。北海道大学植物園：倉博子氏、飯居紹一、大村博氏来館。
 5月6日(月) 持田誠学芸員：十勝植物の会観察会案内のため町内出張（12名参加）。上浦幌中学校教諭：三浦雅司氏来館。
 5月8日(水) 飯山祐敏氏、大同出版紙業(株)：藤井陸香氏、北村敦子氏、池田町：川内和博氏来館。
 5月10日(金) 円子紳一氏来館。
 5月11日(土) 図書館布絵本づくりボランティア活動日。菅谷明氏、大盛哲男氏、榊原政裕氏、役場総務課：渡部裕貴氏来館。
 5月12日(日) 円子紳一氏来館。
 5月14日(火) 企画展「アイヌ伝統文化作品展」最終日。円子紳一氏、大同出版紙業(株)：藤井陸香氏来館。
 5月15日(水) 企画展「アイヌ伝統文化作品展」撤収（5名来館）、アイヌ刺繍講座（浦幌アイヌ協会）開催。浦幌アイヌ協会2名来館。
 5月16日(木) 企画展「浦幌町開町120年展」設営開始（～5月19日）、本の座談会（会場：カフェ・デグー）開催。
 5月18日(土) 月例植物調査会「豊北植物調査会」（4名参加）、レコードコンサート開催。
 5月19日(日) 国際博物館の日記念講座「文化をつなぐミュージアム」開催（8名参加）。

IX. 博物館日誌（抄）

- 5月20日(月) 企画展「浦幌開町120年展」開始。
- 5月21日(火) 持田誠学芸員：布絵本の会と浦幌神社へ外勤。
- 5月22日(水) アイヌ刺繍講座（浦幌アイヌ協会）開催。浦幌アイヌ協会3名、宮川カヅエ氏、出口和枝氏、本間悠資氏来館。十勝総合振興局帯広建設管理部ほか6名がモアシヨロ道路環境影響評価事前説明のため来館。
- 5月23日(木) タンチョウ保護研究グループ釧路：百瀬邦和氏、アメリカ：CJ.Blair氏、国際タンチョウネットワーク釧路：百瀬ゆりあ氏、浦幌野鳥倶楽部：武藤満雄氏来館。
- 5月24日(金) 持田誠学芸員：浦幌中央寿大学巡検に同行。北海道新聞池田支局長：岩瀬貴弘氏来館。
- 5月25日(土) 持田誠学芸員：ロングトレイル炭山に同行（午前）、帯広百年記念館へ出張（午後）。図書館布絵本づくりボランティア活動日。
- 5月29日(水) アイヌ刺繍講座（浦幌アイヌ協会）開催。浦幌アイヌ協会3名、飯山祐敏氏来館。
- 5月30日(木) 円子紳一氏、宮崎一市氏来館。
- 5月31日(金) 令和元年度浦幌町立図書館・博物館協議会開催。
- 6月1日(土) 月例植物調査会「豊北植物調査会」開催（7名参加）。
- 6月5日(水) 帯広市：大西忠光氏、札幌市：田中隆氏、カナダ：西里静彦氏、宮川カヅエ氏、円子紳一氏、出口和枝氏、北村敦子氏来館。浦幌中学校S26同期会7名来館。
- 6月6日(木) 飯居紹一氏来館。
- 6月7日(金) 持田誠学芸員：植物調査のため釧路方面に出張。榎省造氏来館。
- 6月8日(土) 図書館布絵本づくりボランティア活動日。豊北：窪田輝秋氏、上浦幌中学校教諭：三浦雅司氏来館。帯広百年記念館主催「郷土学習バス見学会」参加者30名来館。
- 6月12日(水) 持田誠学芸員：ロングトレイル会議のため豊頃町へ出張。アイヌ刺繍講座（浦幌アイヌ協会）、本の座談会開催（7名参加）。企画展「浦幌開町120年展」終了。浦幌アイヌ協会2名来館。
- 6月13日(木) 持田誠学芸員：北海道教育大学釧路校巡検に同行。北海道教育大学釧路校18名来館。
- 6月14日(金) 持田誠学芸員：モカワルップ・K/Pg境界層案内のため川流布へ出張。帯広百年記念館：大和田努学芸員来館。
- 6月15日(土) レコードコンサート開催。丹野るみか氏、円子紳一氏、上浦幌中学校教諭：三浦雅司氏、北海道民友新聞社：大笹健郎氏来館。
- 6月18日(火) 札幌市：石澤克史氏、札幌市：北室かず子氏、札幌市：田淵立幸氏、北海道大学地震火山センター：西村裕一氏来館。陸別町ことぶき大学31名来館。
- 6月19日(水) 持田誠学芸員：植物調査のため白糠丘陵へ出張。アイヌ刺繍講座（浦幌アイヌ協会）開催。浦幌アイヌ協会6名、釧路市：渡辺博之氏来館。
- 6月20日(木) 円子紳一氏、丹野るみか氏、足寄地域おこし協力隊：細矢千佳氏来館。
- 6月21日(金) 宮崎一市氏来館。
- 6月22日(土) 図書館布絵本づくりボランティア活動日。
- 6月23日(日) 北広島市：丸岡繁喜氏、山本ひとみ氏、佐藤芳雄氏、出口和枝氏、北海学園大学：内田和浩氏、橋枝俊英氏来館。
- 6月25日(火) 持田誠学芸員：教職員ふるさと移動研修に同行。
- 6月26日(水) アイヌ刺繍講座（浦幌アイヌ協会）開催。浦幌アイヌ協会6名、円子紳一氏、大同出版紙業(株)：藤井陸香氏、うらほろスタイル：三村直輝氏来館。
- 6月27日(木) 持田誠学芸員：北海道教育大学釧路校巡検に同行。榎省造氏、円子紳一氏、北海道教育大学釧路校20名来館。
- 6月28日(金) 大本真里子氏、小山妙子氏来館。
- 6月29日(土) 持田誠学芸員：ロングトレイル（豊北）へ同行。東京都小金井市：棟方和典氏来館。
- 6月30日(日) 持田誠学芸員：女性連十勝大会講演講師（午前）、池田町へ出張（午後）。
- 7月2日(火) 東京都：児玉正和氏、菅谷明氏、円子紳一氏、飯山祐敏氏来館。
- 7月3日(水) アイヌ刺繍講座（浦幌アイヌ協会）、夜学講座「小説ができるまで」開催（20名参加）。浦幌アイヌ協会5名、円子紳一氏、北海道大学大学院：和久井彬実氏、北海道大学大学院：大嶋希美氏、大同出版紙業(株)：藤井陸香氏、北海道新聞池田支局長：岩瀬貴弘氏、本間悠資氏、池田町：川内和博氏、芽室町高齢者学級「めむろ柏樹学園」27名、鹿追町新図書館建設検討委員会7名来館。
- 7月5日(金) 飯山祐敏氏、円子紳一氏、杉江英雄氏来館。
- 7月6日(土) 月例植物調査会「豊北植物調査会」開催（9名参加）。
- 7月9日(火) 帯広百年記念館：大和田努学芸員、足寄町立足寄中学校2学年生徒58名・教員5名来館。
- 7月10日(水) 持田誠学芸員：旧厚内幼稚園関係不要物品調査のため厚内に出張。アイヌ刺繍講座（浦幌アイヌ協会）開催。浦幌アイヌ協会7名来館。
- 7月11日(木) 持田誠学芸員：歴史民俗系博物館協議会出席のため札幌市へ出張（～12日まで）。
- 7月12日(金) 佐藤芳雄氏、円子紳一氏来館。
- 7月13日(土) 持田誠学芸員：K/Pg境界層巡検に同行。図書館布絵本づくりボランティア活動日。本の座談会開催（6名参加）。北海道教育大学釧路校地学研究室：松原尚志氏、北海道教育大学釧路校地学研究室学生4名来館。

- 7月14日(日) 円子紳一氏来館。
7月17日(水) 持田誠学芸員：北海道博物館大会に出席のため北見市へ出張（～7月18日）。アイヌ刺繍講座（浦幌アイヌ協会）開催。浦幌アイヌ協会6名、大盛哲男氏、大同出版紙業(株)：藤井陸香氏、円子紳一氏来館。
- 7月19日(金) 持田誠学芸員：浦幌中学校バス巡検に同行。円子紳一氏、飯山祐敏氏、宮崎一市氏来館。
7月20日(土) 図書館布絵本づくりボランティア活動日。レコードコンサート開催。
7月21日(日) 菅谷明氏、飯山祐敏氏来館。
7月23日(火) 円子紳一氏、北海道新聞池田支局長：岩瀬貴弘氏来館。
7月24日(水) アイヌ刺繍講座（浦幌アイヌ協会）開催。浦幌アイヌ協会5名、十勝毎日新聞池田支局長：内形勝也氏、浦幌アイヌ協会会長：差間正樹氏、NHK帯広放送局：兼清光太郎氏、円子紳一氏、佐藤芳雄氏、芽室町歴史探訪会21名来館。
- 7月26日(金) 円子紳一氏来館。
7月27日(土) 企画展「浦幌に生きる植物はいま」開始。穂積規氏、大本真里子氏、円子紳一氏来館。
7月28日(日) ウチダザリガニバスターズを企画するも参加者なしのため浦幌の自然を楽しむ会で調査（オベトン川）のみ実施。
- 7月31日(水) アイヌ刺繍講座（浦幌アイヌ協会）開催。浦幌アイヌ協会6名来館。
8月1日(木) 本の座談会開催（5名参加）。
8月2日(金) 夏休みこども博物館「プラパンちょうちょづくり」開催（51名参加）。森啓之介氏、大盛哲男氏、小松輝氏、池田町：川内和博氏来館。
- 8月3日(土) 月例植物調査会「豊北植物調査会」開催（4名参加）、図書館布絵本づくりボランティア活動日。円子紳一氏、北海道新聞池田支局長：岩瀬貴弘氏来館。
8月4日(日) 持田誠学芸員：白糠町（白糠アイヌ協会）へ出張。
8月5日(月) 夏休みこども博物館「毛糸でヤチボウづくり」開催（37名参加）。円子紳一氏来館。
8月6日(火) 夏休みこども博物館「葉っぱのかたちどり絵はがきづくり」開催（48名参加）。東京都国分寺市：竹腰昭弘氏、円子紳一氏来館。
- 8月7日(水) アイヌ刺繍講座（浦幌アイヌ協会）開催。浦幌アイヌ協会6名、円子紳一氏、帯広第四中学校教諭：梅原翔太氏、上浦幌中学校教諭：三浦雅司氏、高田雅行氏、出口和枝氏、坂下禮子氏、浦幌アイヌ協会会長：差間正樹氏来館。
8月8日(木) 持田誠学芸員：漂着木処理作業打ち合わせ。国土交通省池田河川事務所：村椿俊幸氏、円子紳一氏来館。
- 8月9日(金) 持田誠学芸員：浦幌小学校へ廃棄品の調査。埼玉県：西澤岳亮氏来館。
8月10日(土) 持田誠学芸員：豊北海岸漂着木処理跡地の植生視察案内。十勝自然保護協会8名来館。
8月11日(日) 企画展関連講座「攪乱跡地の海岸草原の植生観察会」開催（6名参加）。
8月14日(水) 佐藤芳雄氏、円子紳一氏来館。
8月15日(木) 宮崎一市氏来館。
8月17日(土) 十勝太若月遺跡出土遺骨再埋葬（浦幌墓園）：久門好行教育長、熊谷教育次長、高橋慎博物館長、持田誠学芸員が出席。
- 8月18日(日) 持田誠学芸員：イチャルパ出席のため浜厚内生活館へ出張。土本伸重氏、大本真里子氏来館。
8月21日(水) 持田誠学芸員：東十勝ロングトレイル協議会会議出席。アイヌ刺繍講座（浦幌アイヌ協会）開催。浦幌アイヌ協会6名、玉川大学農学部：永岡貴美子氏・小雀杏実氏、跡見学園女子大学：水谷長志氏来館。
- 8月22日(木) 飯山祐敏氏、飯居紹一氏、菅谷明氏、オブングク堂：左藤慶氏、和歌山満氏来館。
8月23日(金) 令和元年度浦幌町立図書館・博物館協議会開催。円子紳一氏、NPOタンチョウ保護グループ6名来館。
- 8月24日(土) 持田誠学芸員：大津・十勝川学会巡検案内のため出張。図書館布絵本づくりボランティア活動日。
8月26日(月) 持田誠学芸員：十勝教育研修センター講座（社会科・中学校）講師、帯広市百年記念館：森久大氏・大和田努氏・長谷仁美氏、十勝教育研修センター講座（社会科・中学校）受講生17名来館。
- 8月28日(水) アイヌ刺繍講座（浦幌アイヌ協会）開催。浦幌アイヌ協会5名来館。
8月31日(土) 北海道十勝総合振興局帯広建設管理部：佐々木真哉氏来館。
9月3日(火) 東京都：吉田輝氏来館。
9月4日(水) アイヌ刺繍講座（浦幌アイヌ協会）開催。浦幌アイヌ協会6名来館。
9月6日(金) 丹野るみか氏来館。
9月7日(土) 月例植物調査会「豊北植物調査会」開催（6名参加）。大本真里子氏来館。
9月10日(火) 持田誠学芸員：一般道道モアショロ原野蝶湾足寄停車場線モアショロ原野地区環境影響現地調査のため足寄町へ出張。
9月11日(水) 持田誠学芸員：ロングトレイル会議出席のため豊頃町へ出張。アイヌ刺繍講座（浦幌アイヌ協会）、本の座談会開催。浦幌アイヌ協会5名来館。大盛哲男氏、十勝毎日新聞池田支局長：内形勝也氏来館。

IX. 博物館日誌（抄）

- 9月13日(金) 円子紳一氏、宮崎一市氏、東京都（オブンガク堂）：左藤慶氏来館。
- 9月14日(土) 図書館布絵本づくりボランティア活動日、企画展関連講座「まちなか雑草観察会」開催（7名参加）。円子紳一氏来館。
- 9月15日(日) 図書館布絵本づくりボランティア活動日。森谷安氏ほか1名来館。
- 9月16日(月) 菅谷明氏、上浦幌中学校教諭：三浦雅司氏来館。
- 9月18日(水) 持田誠学芸員：浦幌小学校3年生理科（昆虫）授業のため森林公園を案内。アイヌ刺繍講座（浦幌アイヌ協会）、夜学講座「シカ、出没注意 対策すべき畑と林」開催（7名参加）。浦幌アイヌ協会1名、帯広百年記念館：伊藤彩子氏・大熊勲氏、宮崎一市氏、円子紳一氏、西垣隆夫氏来館。
- 9月19日(木) 宮崎一市氏、飯山祐敏氏、円子紳一氏来館。
- 9月21日(土) レコードコンサート開催。松井繁實氏、宮崎一市氏、岩手県洋野町から9名（まちづくり政策課同行）来館。
- 9月24日(火) 持田誠学芸員：北海道博物館協会学芸職員部会研修会出席のため白老町へ出張（～26日まで）
- 9月25日(水) アイヌ刺繍講座（浦幌アイヌ協会）開催。浦幌アイヌ協会4名、宮崎一市氏、円子紳一氏、和歌山満氏来館。
- 9月26日(木) 厚岸町海事記念館友の会（6名）来館。
- 9月27日(金) 宮崎一市氏来館。
- 9月28日(土) 図書館布絵本づくりボランティア活動日。幕別町：西尾峰明氏来館。
- 9月29日(日) 持田誠学芸員：帯広アイヌ協会マレック漁見学のため帯広市伏古別公園へ出張。
- 10月1日(火) 円子紳一氏、栗山博文町議、沼尾昌也町議来館。
- 10月2日(水) 大同出版紙業(株)：藤井陸香氏、円子紳一氏、飯居紹一氏来館。
- 10月3日(木) 幕別小学校6年生27名来館。
- 10月4日(金) 円子紳一氏、宮崎一市氏来館。
- 10月5日(土) 月例植物調査会「豊北植物調査会」開催（6名参加）。
- 10月6日(日) 持田誠学芸員：ニセコ町へ出張（～7日）。
- 10月8日(火) 持田誠学芸員：道東3管内博物館施設等連絡協議会研修会出席のため厚岸町へ出張（～9日）
- 10月9日(水) 夜学講座「日本の向こう側 奄美群島ってどんなところ？」開催（21名参加）。大同出版紙業(株)：藤井陸香氏、飯居紹一氏、更別村：斎藤憲氏来館。
- 10月10日(木) 上浦幌中央小学校1～2年生13名来館。
- 10月11日(金) ブンガク読みが語り×オンガク生演奏「昔ばなシアター」（オブンガク堂café主催）開催（23名参加）。
- 10月12日(土) 図書館布絵本づくりボランティア活動日。移動博物館「列車と車でめぐる浦幌の史跡・文化財」開催（1名参加）。
- 10月14日(月) 円子紳一氏来館。
- 10月16日(水) アイヌ刺繍講座（浦幌アイヌ協会）開催。浦幌アイヌ協会3名、北海道立総合研究機構地質研究所：林圭一氏、帯広百年記念館：大和田努氏・飯田恵子氏、帯広三条高校放送局教諭：安藤佳寿哉氏、帯広三条高校放送局：川内結愛氏来館。
- 10月17日(木) 帯広百年記念館移動展「十勝開拓日記巡回展」開始。
- 10月18日(金) 飯居紹一氏来館。
- 10月19日(土) レコードコンサート開催。飯山祐敏氏、土本伸重氏、釧路町：遠藤国光氏、上浦幌中学校教諭：三浦雅司氏来館。
- 10月20日(日) 持田誠学芸員：帯広市文化財公開事業出席のため帯広市へ出張。
- 10月24日(木) 持田誠学芸員：北海道高等学校理科教育研究会十勝支部生物部会巡見講師としてk/pg境界・炭山地区へ同行。アイヌ刺繍講座（浦幌アイヌ協会）開催。浦幌アイヌ協会2名、飯居紹一氏、円子紳一氏、北海道高等学校理科研究会十勝支部生物部会7名来館。
- 10月25日(金) 池田町：川内和博氏来館。
- 10月26日(土) 図書館布絵本づくりボランティア活動日。大橋弘一トークショー「北海道の野鳥観光とその現実と展望」開催（24名参加）。飯山祐敏氏、九州大学総合研究博物館：伊藤泰弘氏、産業技術総合研究所地質調査総合センター：兼子尚知氏、(公財)アイヌ民族文化財団：川上将史氏、鎌倉市：瀧口タ美氏、釧路市：瀧口百合子氏ほか2名、STV：須貝秀則氏ほか2名、北海道大学アイヌ・先住民族研究センター：高橋靖以氏、野鳥写真家：大橋弘一氏、(株)ノースプロダクション：高橋匠氏、浦幌農泊観光促進協議会：小松輝氏来館。
- 10月27日(日) 持田誠学芸員：全国石炭産業関連博物館等交流研修会出席のため釧路市へ出張。
- 10月29日(火) アイヌ刺繍講座（浦幌アイヌ協会）開催。浦幌アイヌ協会1名、飯居紹一氏来館。
- 10月30日(水) アイヌ刺繍講座（浦幌アイヌ協会）開催。浦幌アイヌ協会3名、十勝総合振興局帯広建設管理部：時田直樹氏ほか8名、北海道博物館：圓谷昂史氏来館。
- 10月31日(木) 北海道立総合研究機構地質研究所：林圭一氏、円子紳一氏、飯山祐敏氏来館。
- 11月1日(金) (株)HCC釧路市：佐藤隆氏来館。
- 11月2日(土) 月例植物調査会「豊北植物調査会」開催（4名参加）。飯居紹一氏、宮崎一市氏来館。
- 11月3日(日) 移動博物館講座「秋の渡り鳥観察会」開催（6名参加）。宮崎一市氏、札幌市：谷口雅春氏来

- 館。
- 11月6日(水) アイヌ刺繍講座（浦幌アイヌ協会）開催。浦幌アイヌ協会4名、円子紳一氏、宮崎一市氏、大同出版紙業(株)：藤井陸香氏来館。
- 11月7日(木) 円子紳一氏、飯山祐敏氏ほか4名来館。
- 11月8日(金) 円子紳一氏、飯居紹一氏、うらほろスタイル：本間悠資氏来館。
- 11月9日(土) 持田誠学芸員：日本科学者会議十勝分会出席のため帯広市へ出張。図書館布絵本づくりボランティア活動日。円子紳一氏来館。
- 11月12日(火) 円子紳一氏来館。
- 11月13日(水) アイヌ刺繍講座（浦幌アイヌ協会）開催、夜学講座「十勝開拓日記」開催（26名参加）。浦幌アイヌ協会3名、大同出版紙業(株)：藤井陸香氏、円子紳一氏、帯広百年記念館：大和田努氏来館。
- 11月14日(木) 持田誠学芸員：市民プラザ六中市民マイスター講座講師のため帯広市へ出張。アイヌ刺繍講座（浦幌アイヌ協会）開催。浦幌アイヌ協会2名、円子紳一氏来館。
- 11月15日(金) 帯広百年記念館移動展「十勝開拓日記巡回展」終了。飯居紹一氏来館。
- 11月16日(土) レコードコンサート開催。
- 11月20日(水) 持田誠学芸員：社会科研究授業のため上浦幌中学校へ出張。アイヌ刺繍講座（浦幌アイヌ協会）開催。浦幌アイヌ協会4名、飯山祐敏氏、大同出版紙業(株)：藤井陸香氏来館。
- 11月21日(木) 池田町：川内和博氏来館。
- 11月22日(金) 江別市：神武海氏来館。
- 11月23日(土) 持田誠学芸員：十勝植物の会講演会のため帯広百年記念館へ出張。図書館布絵本づくりボランティア活動日。冬の企画展「信仰の灯は永遠に：福音ルーテル池田教会と吉田康登牧師の足跡」開始。標茶町：田中耕三氏夫妻来館。
- 11月24日(日) 飯居紹一氏、お話しびあの会：西田祐子氏・前出彰子氏、榊原政裕氏来館。
- 11月25日(月) 持田誠学芸員：モニタリングサイト1000水生植物・陸水分科会のため東京都へ出張。
- 11月26日(火) 円子紳一氏来館。
- 11月27日(水) アイヌ刺繍講座（浦幌アイヌ協会）開催。浦幌アイヌ協会3名来館。
- 11月28日(木) 池田河川事務所：久田雅也氏・谷田裕明氏、(株)本別建設工業：大和田健治氏、大阪市立自然史館：佐久間大輔氏、北海道博物館：堀繁久氏、円子紳一氏来館。
- 11月29日(金) 持田誠学芸員：会議出席のため帯広開発建設部へ出張。
- 11月30日(土) 円子紳一氏、榊原政裕氏、飯居紹一氏、日本福音ルーテル帯広教会：岡田薫牧師、日本福音ルーテル帯広教会4名来館。
- 12月1日(日) 佐藤芳雄氏、飯山祐敏氏来館。
- 12月4日(水) アイヌ刺繍講座（浦幌アイヌ協会）開催。浦幌アイヌ協会3名、円子紳一氏、大同出版紙業(株)：藤井陸香氏、榊原政裕氏来館。
- 12月5日(木) 十勝毎日新聞社池田支局長：内形勝也氏、浦幌町社会福祉協議会：川上美祐希氏来館。
- 12月8日(日) 浦幌町立図書館・博物館開館20年記念講座開催（延べ38名参加）。
- 12月11日(水) アイヌ刺繍講座（浦幌アイヌ協会）開催。浦幌アイヌ協会4名、大同出版紙業(株)：藤井陸香氏、榊省造氏、土本伸重氏来館。
- 12月12日(木) アイヌ刺繍講座（浦幌アイヌ協会）開催。浦幌アイヌ協会1名来館。
持田誠学芸員：北海道図書館振興協議会「全道図書館専門研修」講師のため、新ひだか町図書館へ出張。
- 12月13日(金) 大本眞里子氏来館。
- 12月14日(土) 図書館布絵本づくりボランティア活動日。
- 12月17日(火) 北海道新聞社池田支局長：岩瀬貴弘氏、浦幌町社会福祉協議会：川上美祐希氏、宮崎一市氏、池田町：川内和博氏来館。
- 12月18日(水) アイヌ刺繍講座（浦幌アイヌ協会）開催。浦幌アイヌ協会5名、大同出版紙業(株)：藤井陸香氏、円子笑氏、円子紳一氏来館。
- 12月19日(木) 円子笑氏来館。
- 12月20日(金) 浦幌町社会福祉協議会：川上美祐希氏、宮崎一市氏、円子紳一氏来館。
- 12月21日(土) クリスマス讃美歌コンサート開催。日本福音ルーテル帯広教会：岡田薫牧師、杉江英雄氏、救世軍帯広小隊長：樋口潔氏、おはなしびあの会：西田祐子氏、前出彰子氏来館。
- 12月22日(日) Art Labo北舟：白濱雅也氏・白濱万亀氏、釧路市立博物館：加藤ゆき恵氏来館。
- 12月24日(火) 宮崎一市氏、杉江英雄氏来館。
- 12月25日(水) アイヌ刺繍講座（浦幌アイヌ協会）開催。浦幌アイヌ協会3名、大同出版紙業(株)：藤井陸香氏、日本福音ルーテル小石川教会：徳野昌博牧師来館。
- 12月26日(木) 円子紳一氏、大本眞里子氏来館。
- 12月27日(金) 帯広聖公会：尾関敏明氏、円子紳一氏、坂下禮子氏、十勝毎日新聞社池田支局長：内形勝也氏来館。
- 12月28日(土) 日本福音ルーテル帯広教会：岡田薫牧師、宮崎一市氏、豊頃町：久木田留萌氏、榊原政裕氏来館。

12月29日(日) 展示解説「ルーテル池田教会と吉田康登牧師」開催（約30名来場）。小樽市総合博物館長・日本基督教団小樽公園通教会：石川直章氏ほか2名、日本福音ルーテル小石川教会：市村圭子氏、池田町：丸山智恵氏、日本基督教団新得教会：西間木公孝氏、帯広栄光教会：津田真希氏来館。

令和2年

1月7日(火) 冬休み子ども博物館「ブラパンちょうちょづくり」開催（37名参加）。榊原政裕氏、弟子屈町：磯貝高士氏夫妻来館。

1月8日(水) アイヌ刺繍講座（浦幌アイヌ協会）開催。浦幌アイヌ協会2名、(株)ぶらんとマガジン社：荒浩昭氏・仙北氏、十勝毎日新聞社：塩原真氏、日本バプテスト連盟釧路キリスト教会：奥村敏夫氏、日本バプテスト連盟小樽バプテスト教会：エイカーズ愛氏、帯広福音教会：羅文塚（ナムンチェ）氏・粥川一成氏来館。

1月9日(木) 冬休み子ども博物館「アイヌ文化で遊ぼう」開催（31名参加）。大本真里子氏、帯広市教育委員会アイヌ文化推進員：柴田多恵子氏、帯広百年記念館学芸調査員：長谷仁美氏、日本基督教団中標津伝道所：石垣弘毅氏、帯広市：松井由孝氏来館。

1月10日(金) 前出彰子氏、オープンガク堂：左藤慶氏来館。

1月11日(土) 図書館布絵本づくりボランティア活動日。企画展関連講座「植物研究家としての吉田牧師」開催（26名参加）。日本福音ルーテル帯広教会：岡田薫牧師、釧路市動物園獣医師：吉野智生氏、宮崎一市氏、榊原政裕氏来館。

1月12日(日) 北海民友新聞社：大笹健郎氏、榊原政裕氏、徳成達廣氏、徳成慶子氏来館。

1月13日(月) 差間正樹氏ほか1名、菅谷明氏、宮崎一市氏、飯居紹一氏、榊原政裕氏来館。

1月15日(水) アイヌ刺繍講座（浦幌アイヌ協会）開催。浦幌アイヌ協会3名来館。

1月16日(木) 飯居紹一氏来館。

1月17日(金) 日本基督教団真駒内教会：間馬須美子氏・松尾みつ子氏・石井美雪氏来館。

1月18日(土) レコードコンサート開催。神奈川県横浜市：横山佳世子氏、池田町：徳永真氏、本別町：河原功典氏・荒ヨシ子氏・林敏子氏・林育雄氏、日本福音ルーテル帯広教会5名来館。

1月19日(日) 冬の企画展「信仰の灯は永遠に：福音ルーテル池田教会と吉田康登牧師の足跡」終了。榊原政裕氏、帯広栄光教会：北嶋清人氏・北嶋静香氏来館。

1月22日(水) 全国孔版画年賀状展開始。アイヌ刺繍講座（浦幌アイヌ協会）開催。浦幌アイヌ協会2名、飯居紹一氏来館。

1月23日(木) 上浦幌中央小学校長：都鳥秀史氏来館。

1月24日(金) 宮崎一市氏、浦幌中学校2年生26名来館。

1月28日(火) 持田誠学芸員：札幌市へ出張。円子紳一氏来館。

1月29日(水) 持田誠学芸員：コスミックホールで教職員組合研修講師。アイヌ刺繍講座（浦幌アイヌ協会）開催。浦幌アイヌ協会3名、大同出版紙業(株)：藤井陸香氏来館。

1月30日(木) アイヌ民具コーナー展示修復。円子紳一氏来館。

1月31日(金) 浦幌小学校教諭：伊藤翔祐氏、円子紳一氏、佐藤芳雄氏、釧路臨港鉄道の会：笹正之氏来館。

2月1日(土) 杉山末樹氏来館。

2月2日(日) 飯山祐敏氏、大盛哲男氏、門馬邦子氏、円子紳一氏、池田町清見：杉山末樹氏、杉山知子氏来館。

2月3日(月) 持田誠学芸員：小学校社会科副読本編集打ち合わせのため上浦幌中央小学校へ出張。円子紳一氏来館。

2月5日(水) 持田誠学芸員：釧路市へ出張。全国孔版画年賀状展終了。アイヌ刺繍講座（浦幌アイヌ協会）開催。浦幌アイヌ協会3名、大同出版紙業(株)：藤井陸香氏、十勝「宮澤賢治を楽しむ会」事務局：菅原紀子氏、十勝勤医協音更東友の会会長：菅原一晴氏来館。

2月8日(土) 卒業論文大発表会「浦幌のヒグマこんなに調べました2020」開催（61名参加）。図書館布絵本づくりボランティア活動日。企画展「ぼくの、わたしの、書き初め展」開始。

2月11日(火) ひな人形設営。円子紳一氏、上浦幌中学校教諭：三浦雅司氏来館。

2月13日(木) 持田誠学芸員：浦幌小学校3年生授業講師。飯居紹一氏、浦幌小学校3年生及び引率教諭38名来館。

2月15日(土) レコードコンサート開催。浦幌アイヌ協会：丹野るみか氏ほか3名来館。

2月16日(日) 円子紳一氏来館。

2月18日(火) 円子紳一氏来館。

2月19日(水) アイヌ刺繍講座（浦幌アイヌ協会）開催。浦幌アイヌ協会3名、北海道科学大学工学部建築学科：伊藤雅寛氏、森啓之介氏来館。

2月20日(木) 企画展「ぼくの、わたしの、書き初め展」終了。浦幌野鳥倶楽部：武藤満雄氏来館。

2月22日(土) 図書館布絵本づくりボランティア活動日。帯広ルーテル帯広教会：岡田薫牧師、円子紳一氏、佐藤芳雄氏来館。

2月23日(日) 円子紳一氏、幕別町：長坂政幸氏来館。

2月26日(水) アイヌ刺繍講座（浦幌アイヌ協会）開催。浦幌アイヌ協会2名、円子紳一氏、飯居紹一氏、大同出版紙業(株)：藤井陸香氏、東京都（オープンガク堂）：左藤慶氏、帯広ルーテル帯広教会：

- 岡田薫牧師、土本伸重氏来館。
- 2月27日(木) 円子紳一氏、大盛哲男氏来館。
- 2月28日(金) 浦幌町立図書館・博物館協議会：新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため中止（書面会議に変更）。円子紳一氏、佐藤芳雄氏、宮崎一市氏、菅谷明氏来館。
- 2月29日(土) 博物館講座「イネ科植物がおもしろい」：新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため中止。円子紳一氏来館。
- 3月3日(火) 円子紳一氏、飯居紹一氏、宮川カヅエ氏来館。
- 3月4日(水) 新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため3月19日(木)まで臨時休館。アイヌ刺繍講座（浦幌アイヌ協会）開催。浦幌アイヌ協会3名、円子紳一氏、佐藤芳雄氏、大同出版紙業(株)：藤井陸香氏、宮崎一市氏来館。
- 3月7日(土) 上浦幌中学校教諭：三浦雅司氏来館。
- 3月8日(日) 窪田輝秋氏来館。
- 3月10日(火) 円子紳一氏来館。
- 3月11日(水) 大同出版紙業(株)：藤井陸香氏来館。
- 3月12日(木) 円子紳一氏来館。
- 3月13日(金) 円子紳一氏、大同出版紙業(株)：藤井陸香氏来館。
- 3月14日(土) 飯居紹一氏、浦幌アイヌ協会来館。
- 3月15日(日) アイヌ資料取材のためNHKおよび共同通信社が入館撮影。ひがし大雪自然館：乙幡康之氏、浦幌アイヌ協会8名来館。
- 3月17日(火) ひな人形撤収。円子紳一氏、楫省造氏来館。
- 3月18日(水) 大同出版紙業(株)：藤井陸香氏、(株)ズコーシャ：堤公宏氏来館
- 3月19日(木) 全道美術協会北見市：射水美栄子氏ほか3名、円子紳一氏来館。
- 3月20日(金) 臨時休館解除。浦幌野鳥倶楽部：武藤満雄氏来館。
- 3月21日(土) アイヌ民族文化財団：杉山未樹氏来館。
- 3月22日(日) 室崎規矩子氏、アイヌ民族文化財団：杉山未樹氏、浦幌野鳥倶楽部：武藤満雄氏、岡田愛啓氏、土本伸重氏、円子紳一氏来館。
- 3月24日(火) 円子紳一氏、学童保育所38名来館。
- 3月25日(水) アイヌ刺繍講座（浦幌アイヌ協会）開催。浦幌アイヌ協会4名、大同出版紙業(株)：藤井陸香氏、窪田輝秋氏来館。
- 3月26日(木) 円子紳一氏、高田雅行氏来館。
- 3月27日(金) 飯居紹一氏、円子紳一氏、佐藤芳雄氏、荒川和子氏来館。
- 3月28日(土) 図書館布絵本づくりボランティア活動日。飯居紹一氏来館。
- 3月29日(日) 更別村：斉藤憲氏、飯山祐敏氏、中村隆二氏来館。
- 3月31日(火) 飯山祐敏氏、円子紳一氏、荒川和子氏来館。

X. 博物館の利用状況

(1) 博物館入館者の推移

(令和2年3月31日現在)

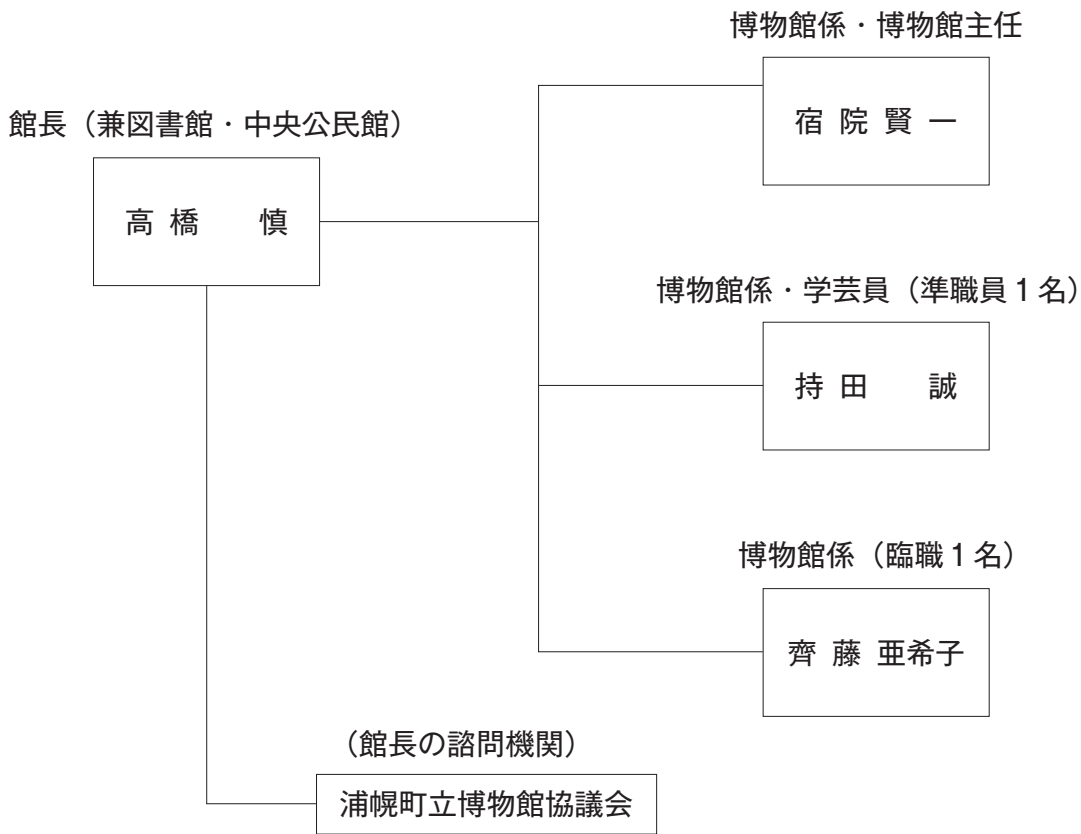
	平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度	
月	開館日数	入館者数	開館日数	入館者数	開館日数	入館者数	開館日数	入館者数	開館日数	入館者数	開館日数	入館者数
4	25	682	25	697	26	927	26	603	27	663	26	777
5	27	856	27	835	25	979	26	806	27	1,045	27	915
6	25	582	25	1,218	26	661	26	670	26	671	26	696
7	27	892	27	754	27	897	26	882	26	1,261	26	1,024
8	27	1,187	26	1,919	25	1,853	28	1,352	28	1,340	27	919
9	24	585	26	807	25	903	26	783	25	872	25	783
10	27	741	27	826	26	472	26	813	27	1,119	26	1,129
11	26	783	24	958	24	807	25	510	26	692	26	657
12	24	990	25	576	26	693	26	929	26	595	25	747
1	24	631	23	701	22	639	23	454	23	799	22	748
2	23	1,012	23	1,025	24	900	24	893	24	957	24	629
3	26	1,104	27	845	27	587	26	708	26	1,248	*12	634
小計	305	10,045	305	11,161	303	10,318	308	9,403	311	11,262	292	9,658
累計	4,604	144,472	4,909	155,633	5,212	165,951	5,520	175,354	5,831	186,616	6,123	196,274

* 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、
3月4～19日臨時休館。

(2) 団体入館者（事前に連絡のあったもの）

4月 12日 美園婦人部	8名	8月 26日 十勝教育研修センター講座社会科(中学生)	17名
5月 22日 十勝総合振興局帯広建設管理部	6名	9月 21日 岩手県洋野町	9名
6月 5日 浦幌中学校S26同期会	7名	9月 26日 厚岸町海事記念館友の会	6名
6月 8日 帯広百年記念館郷土学習バス見学会	30名	10月 3日 幕別小学校6年生	27名
6月 13日 北海道教育大学釧路校	18名	10月 10日 上浦幌中央小学校1～2年生	13名
6月 18日 陸別町ことぶき大学	31名	10月 24日 北海道高等学校理科教育研究会十勝支部生物部会	7名
6月 27日 北海道教育大学釧路校	20名	10月 30日 十勝総合振興局帯広建設管理部	9名
7月 3日 芽室町高齢者学級(めむろ柏樹学園)	27名	11月 30日 日本福音ルーテル帯広教会	4名
7月 3日 鹿追町新図書館建設検討委員会	7名	1月 18日 日本福音ルーテル帯広教会	5名
7月 9日 足寄中学校2学年	63名	1月 24日 浦幌中学校2学年	26名
7月 13日 北海道教育大学釧路校地学研究室	4名	2月 13日 浦幌小学校3年生	38名
7月 24日 芽室町歴史探訪会	21名	3月 15日 浦幌アイヌ協会	8名
8月 10日 十勝自然保護協会	8名	3月 4日 学童保育所	38名
8月 23日 NPOタンチョウ保護グループ	6名	合計	27件 463名

XI. 博物館の組織



平成30年4月1日現在

職 名	氏 名	住 所	備 考
会 長	橋 本 友 子	栄 町 2 区	
副会長	円 子 紳 一	北栄町2区	
委 員	松 橋 達 美	住吉町1区	浦幌中学校長
〃	横 山 利 幸	緑 町	浦幌小学校長
〃	坂 下 禮 子	光 南	
〃	春 日 基 江	北 町 2 区	
〃	西 森 七 枝	新 町	
〃	大 塚 弥 生	美 園	

（任期 令和元年12月18日まで）

XII. 学芸員の執筆活動・依頼講演・社会活動等

1. 当館に配置されている学芸員

- (1) 氏名：持田 誠
- (2) 着任：2015（平成27）年4月1日、浦幌町教育委員会 準職員
- (2) 学位：博士（農学）
- (3) 専門分野：植物学・鉄道史・博物館学
- (4) 現在の主な研究テーマ
 - 浦幌町および白糠丘陵一帯の植物相（標本採集とフロラ調査）
 - 豊北海岸のフェノロジーと植生
 - 十勝の鉄道史と鉄道遺産（根室本線建設史、浦幌炭砒鉄道）
 - 道東におけるルーテル教会の形成史
 - 活平神社史と活平神社に残る丸岡キサノ関係資料

2. 業績

(1) 論文・出版・解説記事等

- Sato, Hiroyuki & Makoto Mochida 2019. 16-year -observation of the vegetation change after sporadic flowering of *Sasa senanensis* in Nopporo Forest Park, Hokkaido Japan. *Bamboo Journal* (31) : 22-30.
- 乙幡康之・持田誠 2019. 北海道十勝地方で確認されたハナシセンボンゴケ（センボンゴケ科，蘚類）. *蘚苔類研究* 12 (1) : 12-13.
- 角野康郎, 池田博, 海老原淳, 上赤博文, 狩山俊悟, 黒沢高秀, 佐久間大輔, 志賀隆, 鈴木 浩司, 鈴木まほろ, 瀬戸口浩彰, 高宮正之, 高野温子, 藤井伸二, 藤川和美, 持田誠 2019. 地域植物研究会等の現状：アンケートに基づく考察. *植物地理分類研究* 67 (2) : 165-178.
- 持田誠 2020. 活平神社に関する一考察. *浦幌町立博物館紀要* (20) : 15-19.
- 持田誠 2020. 活平神社に残る丸岡キサノ奉納の絵馬. *浦幌町立博物館紀要* (20) : 21-29.
- 円子伸一・持田誠 2020. 浦幌川におけるモクズガニの記録. *浦幌町立博物館紀要* (20) : 33-34.
- 持田誠・百瀬邦和 2020. 北海道十勝郡浦幌町でのウズラの確認記録. *浦幌町立博物館紀要* (20) : 35-37.
- 持田誠 2019. <Re：北メール>国際博物館会議の年に. *毎日新聞北海道版* (2019年8月20日付) : 24.
- 持田誠 2019. <Re：北メール>毎日新聞 北海道60年. *毎日新聞北海道版* (2019年9月24日付) : 222.
- 持田誠 2019. 浦幌「信仰の灯は永遠に」展に寄せて. *北海道新聞文化欄* (2019年12月13日付夕刊) : 4.
- 持田誠 2019. 土橋慶吉先生のご帰天の報に接して. *育みの人* (酪農学園大学作物・植物育種学および資源植物学研究室同門会機関誌) (20) : 4.
- 岡田薫・持田誠2020. 浦幌町立博物館で「信仰の灯は永遠に」：日本福音ルーテル池田教会回顧展，信徒の友 2020 (3) : 10.

(2) 研究発表等

- 持田誠. 地域博物館に自然史は必要か？：博物館における広域連携を考える. 第58回北海道博物館大会. 2019年7月18日（北見市）.
- 持田誠. 浦幌炭砒に関する町立博物館の取り組み. 全国石炭産業関連博物館等交流研修会釧路大会. 2019年10月25日（釧路市）.

(3) 共同研究

- 浦幌町内における特定外来生物ウチダザリガニの実態に関する調査（浦幌の自然を楽しむ会）
- 北海道の炭鉱跡地の植生回復に関する研究（釧路市立博物館）
- 北海道産サクラソウの分類地理学的研究（北海道大学環境科学研究所）
- 日本福音ルーテル池田教会・釧路教会の歴史（日本福音ルーテル帯広教会）

(4) 主な依頼講演・講師等

- 持田誠、池田教会の形成と吉田康登牧師、日本福音ルーテル教会北海道特別教区修養会、主催：日本福音ルーテル協会北海道特別教区、2019年7月15日（音更町、十勝川温泉笹井ホテル）。
- 持田誠、博物館が鉄道遺産を収集する意義、ニセコの鉄道遺産を考える、主催：ニセコ町鉄道文化協会、2019年10月9日（ニセコ町、ニセコ倉庫群1号倉庫）。
- 持田誠、東十勝の植物をめぐる最近の話題、十勝植物の会講演会、主催：十勝植物の会、2019年11月23日（帯広市、帯広百年記念館）。
- 持田誠、十勝の原野と市民が直面する課題：ロケット開発から火山防災まで、とかち・市民「環境交流会」、主催：帯広市市民環境部環境都市推進課、2019年12月7日（帯広市、とかちプラザ）。
- 持田誠、地域とつながる浦幌町立博物館の『夜学講座』の取り組み、全道図書館専門研修、主催：北海道図書館振興協議会、2019年12月13日（新ひだか町図書館）。

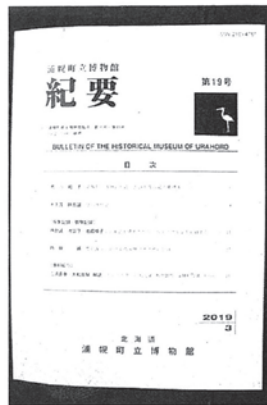
3. 主な社会活動・外部協力

- 北海道立帯広美術館協議会委員
- 一般道道モアショロ原野螺旋湾足寄停車場線モアショロ原野地区環境影響に関する懇談会委員
- アイヌ民族文化財団事業運営委員
- 北海道教育大学非常勤講師（博物館情報・メディア論）
- 北海道大学総合博物館資料部研究員
- 美幌博物館学芸協力員
- 北海道博物館協会学芸職員部会幹事
- 東十勝ロングトレイル協議会オブザーバー
- 浦幌町着地型観光推進委員会委員
- 北海道自然史研究会理事
- 十勝管内博物館学芸職員等連絡協議会幹事
- 大津・十勝川学会理事

XIII. 博物館活動のマスコミ報道

**町の研究内容紹介
「紀要」第19号発刊**
浦幌町立博物館

【浦幌】町内を舞台にしたさまざまな研究内容を紹介する町立博物館の「紀要」第19号が発刊された。今号には、木下茂さん（故人）が1992年6月の厚内神社例祭日に奉納



発刊された「紀要」第19号

「厚内神社史」など

した同神社の歴史を記した「厚内神社の推移に寄せて」を「厚内神社史」として同館の持田誠学芸員との連名で掲載している。

池田守さん・順子さん夫妻（豊頃町）が発見した十勝初のマルミノウルシについて新産地として持田学芸員が紹介。また、三浦直春さん（故人）が進めていた書類解説「大正十五年・昭和元年 教育雑件」の「四」を帯広百年記念館の大和田努学芸員が引き継いで翻刻した。

その他、2018年度採集の蝶標本（荒川和子氏）、豊北海岸での外来種フタクサの記録（持田学芸員）を掲載している。

紀要はA4判32ページ。無料。問い合わせは同館（015・576・2009）へ。（田子紳一通信員）

「十勝毎日新聞」 2019年4月4日

「広域連携で価値残す」

浦幌町博物館
持田学芸員 鉄道資料保存語る

【浦幌】2017年3月3日に廃止となったJR北海道の旧上厚内駅の歴史を振り返る町立博物館の企画展「上厚内駅回顧展」（3月21日～4月21日）にちなんで関連講演会「上厚内駅回顧展と鉄道資料」が13日、同博物館で行われた。講師を務めた同博物館の持田誠学芸員は、廃止駅に残された鉄道資料の保存手続きの難しさや、新しい保存システムを構築する必要性を説いた。



上厚内駅の歴史について解説する持田学芸員（中央奥）

町内外から鉄道ファンら約20人が参加。持田学芸員が上厚内駅の設置から取り壊されるまでの経緯などを紹介。また、回顧展で展示しているJR北海道から寄贈を受けた約100点の展示品について解説した。

回顧展が始まってから20日間ほどが経過する中で、各地から約50点の写真などの鉄道資料が同博物館に寄せられており、随時展示数を増やし、直近の展示数は150点に膨らんでいると持田は話した。

さらに廃止駅に残される鉄道資料については、廃止駅の所在地の自治体の首長だけがJR北海道に提供を求めることができることになっており、それ以外は認められていないと説明。持田学芸員は、人知れず処分されてしまう鉄道資料もあると指摘し、「歴史的な価値がある鉄道資料を保存するために、全道の博物館と鉄道業者との間での広域的な連携が必要」と訴えた。

参加した帯広市の会社員久慈絏子さん（29）は「昔はこの地域に大勢の人がいたことを知って感動した」と話していた。（内形勝也）

「十勝毎日新聞」 2019年4月15日

美園婦人部が博物館で研修

浦幌 フェルト作品作りも



持田学芸員（右）に「上厚内駅回廊展」の説明を受ける婦人部員ら

【浦幌】上浦幌地区で活動している美園婦人部（中川郁子部長、部員10人）が12日、日帰りの研修会で町立博物館を訪れた。8人が参加。開催中の「上厚内駅回廊展」や町内から産出した十勝初のアンモナイト化石、町の鳥アオサギのシオラムなどについて同館の持田学芸員から説明を受けた。池田町にあるス

「十勝毎日新聞」 2019年4月17日

マルミノウルシの植生学ぶ 浦幌

準絶滅危惧種「自生地まだある」



新たな自生地の可能性を示唆する持田学芸員（右奥）

【浦幌】昨年、十勝で初めて自生が確認された、準絶滅危惧種（環境省）指定のトウダイグサ科・マルミノウルシを学ぶ、町立博物館の夜学講座「豊頃のマリモノウルシ」が17日、同館学芸員室で開かれた。講師

マルミノウルシ トウダイグサ科の一種。草丈50センチほどで、山地の林縁に生育し、4～5月に開花する。ノウルシに似ているが、子房にいぼ状の突起がない。環境省のレッドリストで準絶滅危惧種に指定されている。

高山脈以西であり、日高山脈以東からは飛び地的にオホーツク管内置戸町で確認されている（開発工事で消滅）。持田学芸員は（今回の確認により）豊頃町と置戸町の間に（利別川水系、浦幌川水系）の山林にも自生地がある可能性がある」と話した。また、豊頃町の自生地は豊頃丘陵斜面下部の林縁域に集中し、約5平方メートルの範囲に不連続に分布していることを報告。果実が乾燥す

ると裂開して種子をはじき飛ばす自家散布と、地上に落ちた種子はアリを誘引する物質によるアリ散布があること、地上茎は初夏には融けるように消失することなどを解説した。

発見者で豊頃町在住の池田守さん（67）、順子さん（69）夫妻は5日前に開花を確認した。草丈は10センチほどと現在の様子を紹介した。同館の移動博物館「マルミノウルシ観察会」が5月3日に自生地で開催される。申し込みが必要。定員8人。参加者は午前9時に同館に集合する。申し込みは同館（015・576・2009）へ。（田子紳一通信員）

「十勝毎日新聞」 2019年4月23日

五月人形展 楽しく観賞

5日撮影会も

【浦幌】端午の節句にちなんだ「五月人形展」が町立博物館ロビーで開かれている。町民から寄贈された4段飾りをはじめ、かぶとのセトやこいのぼりなどが来場者の目を楽しませている。5月6日まで。

五月人形は、高さ1・5メートルの4段飾りで、子どもの



五月人形を観賞する来場者ら

大将飾りと12種類の小物で構成。ガラスケースに入ったかぶとと飾りは、ねじを

巻くとかいのぼりの歌がオルゴールから流れる。

帯広市から家族で実家に遊びに来た長谷川祐佳さん

(38)は「最近はこのぼりをあまり見なくなった。

こんな立派な五月人形は初めて」と話し、娘の花帆さん(8)、息子(6)と一緒に楽しく観賞していた。

5月5日午後1時から、端午の節句撮影会を行う予定。参加は自由。記念写真1枚をプレゼントする。問い合わせは町立博物館(015・576・2009)へ。(広橋基嗣通信員)

「十勝毎日新聞」 2019年4月29日

アイヌ文化伝える お盆や木綿衣展示

町立博物館

【浦幌】「刺繍(ししゅう)・織物・木彫りから知るアイヌ文化」と題したアイヌ伝統文化作品展(浦幌アイヌ協会、町立博物館主催)が町立博物館特別展示ホールで開かれている。5月14日まで。

浦幌アイヌ協会(差間正樹会長)では、アイヌの伝統文化・技法を継承しようと日頃から制作活動に取り組んでおり、作品展ではその一端を紹介している。



アイヌの伝統文化作品を鑑賞する来場者

マクンベツアイヌ文化伝承保存会の廣川昌嘉会長(音更町)が指導し、浦幌協会の会員など男性6人が制作した木彫りのお盆6点と箸3点の他、アイヌ民族文化財団アドバイザーで廣川会長の妻和子さんの指導で浦幌協会の会員など女性7人が作ったバッグや名刺入れ、木綿衣など約20点を展示した。

会場では、浦幌協会の女性によるルウンペ(着物の制作実演や、伝統工芸品の制作風景を撮影したビデオを上映している。

町内在住の石田亘さん(28)は「アイヌの文様には一つ一つ意味があり、手が込んでいて素晴らしい」と話していた。

作品展は期間中の午前10時から午後5時(5月7、13日は休館)。入場無料。

(広橋基嗣通信員)

「十勝毎日新聞」 2019年4月30日

道東だけの白い花 ウラホロイチゲ見頃

【浦幌】道東に自生するウラホロイチゲが、町内統太にある防風林の土手で咲き始め、かれんな白い花が風に揺れている。

キンボウゲ科の多年草で、学名はアネモネ・アムレンシス。氷河期から生き残った種で、ロシア極東地方などに分布し、道内では浦幌から釧路にかけての太平洋沿岸部のみに自生する。国内では1984年に浦幌で初めて確認された



防風林の土手で白いかれんな花を咲かせるウラホロイチゲ

ため、和名に「浦幌」が付いた。環境省のレッドリストで絶滅の危険が増大している「絶滅危惧Ⅱ類」に分類されている。

今年は3月末から花が確認され、5月上旬ごろまで見頃という。町立博物館の持田誠学芸員は「ウラホロイチゲの群生地があるのは、豊かな自然が残っている証」と話している。

(岩瀬貴弘)

「北海道新聞」 2019年4月30日

ウラホロイチゲ ルーペで観察

【浦幌】町立博物館の移動講座「ウラホロイチゲ観察会」が4月29日、町内の



案内役を務めた。坂下さんは「通常は花びらがくちが5〜8枚」と説明。参加者たちはうなずきながら白い花びらを数え、ルーペでおしべとめしべを観察していた。写真。

同館の持田誠学芸員は「日本では最初に浦幌で発見されたのでウラホロの名

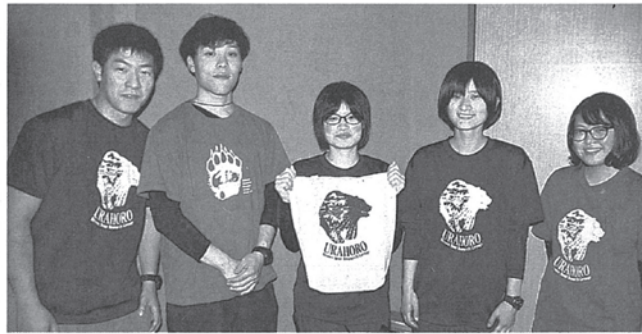
自生地3カ所で開かれた。参加者らは現地でウグイスのさえずりを聞きながら、満開のウラホロイチゲを観察した。

町内外から12人が参加。町内在住の坂下禮子さんが

前が付けられた」などと解説。岐阜農場跡(町養老)では青いエゾエンゴサクの群落の中に純白のエゾエンゴサクもあった。愛知県から移住体験で町を訪れている川地徹さん(68)、美都子さん(68)夫妻は「本州では見られない花を見ることができてよかった」と喜んでいた。(田子紳一通信員)

「十勝毎日新聞」 2019年5月3日

クマTとトートバッグをPR
する調査会メンバーの学生ら



学生のクマ研究
今年の活動を確認
酪農学園大など

【浦幌】酪農学園大学（江

別市）の学生を中心に十勝
釧路の両管内でヒグマの生
態を研究している「浦幌ヒ
グマ調査会」（佐藤芳雄代
表）の定期総会が3日、町
内のレストラン大和で開か
れた。

総会には35人が出
席。佐藤代表が昨年
の同会設立20周年記
念講演会に触れ、「こ
れまで築き上げた人
的ネットワークや研
究成果を基に、ヒグ
マの生態管理、共生
の具体的な行動指針
を示してほしい。事
故のない調査活動を
展開して」とあいさ
つ。

今年度の事業計画
では、道有林での「背
こすりトラップ」と
自動カメラの設置、
豊平川河畔（札幌市）
での下草刈り、同大

「十勝毎日新聞」 2019年5月9日

の実習受け入れなどを確認
し、予算とともに承認した。
活動の貴重な財源となっ
ているオリジナルTシャツ
（クマT）を1枚2000
円で発売。20周年記念で製
作したトートバッグも1個
1000円で販売する。販
売店は「道の駅うらほろ」

（町北町）、「花と野菜のス
タンド」（町共栄）、帯広市
内の衣料店「カルフォルニ
アハーベスト」（西1南9）
など。
問い合わせは町立博物館
（015・576・200
9）へ。

（田子紳一通信員）

マルミノウルシ 間近で植生観察

町立博物館
移動博物館

【浦幌・豊頃】浦幌町立
博物館の移動博物館「マル
ミノウルシ観察会」が3日、
豊頃町内の山林で開かれ
た。参加者は、実際に咲い
ている花を間近に観察し
た。

管内外から9人が参加。
マルミノウルシを発見した
豊頃町在住の池田守さん
（67）、順子さん（69）夫
妻が案内役となり現地に到
着。同博物館の持田誠学芸



員が講師を務めた。

持田学芸員は、マルミノ
ウルシが池田夫妻によつて
昨年5月に十勝管内では初
めて確認されたことを紹
介。マルミノウルシは山の
斜面の下方に生えていて、
上部は造林地で生えてい
ないなどと解説した。

斜面に1平方メートルの枠を置
き、参加者たちが地上部の
茎と土中の塊茎を数えたど
ころ、茎は23本あるのに塊
茎は2個だった。マルミノ
ウルシの根を観察した髭右
近孝子さん（帯広市）は「大
きな根が、茎の生
えている方向と違
っていた」と驚い
ていた。

持田学芸員は
「十勝の春植物に
新しい仲間が加わ
った」と話し、こ
れからも調査を続
けることにしてい
る。

（田子紳一通信員）

マルミノウル
シを観察する
参加者

「十勝毎日新聞」 2019年5月17日

浦幌町120年の歴史に触れて

町博物館 明治期の貴重な資料も



明治時代の貴重な資料も並ぶ「浦幌開町120年展」

【浦幌】「浦幌開町120年展」が、町博物館で開かれている。写真や資料など150点が展示され、明治から令和にかけての町の歴史をたどることができる。1900年（明治33年）

に作られた生剛村時代の公文書のつづり、開拓期の銃保管用トランク、91年に町内で発見され、昨年に新種であることが分かった海生哺乳類「アロダスミス」の骨の化石などを展示。明治時代の中浦幌駅通所の壁板

「北海道新聞」 2019年5月28日

には、石川啄木が小樽日報で書いた記事が載った紙面が防寒用に張られている。

同博物館の持田誠学芸員は「たくさんの方が関わり町が発展してきた。120

山菜採りや炭坑跡散策

東十勝ロングトレイル協

【浦幌】東十勝ロングトレイル協議会（松原敏行会長）が主催の『森のルート』旧浦幌炭鉱と山菜採りツアー」が25日、町炭山と留真で行われた。十勝管内外から参加者30人とガイド、スタッフ9人が参加。65年前に閉山した浦幌炭鉱跡を訪ね、留真の森を散策して山菜採りを楽



炭鉱病院跡の正面玄関を見る参加者

しんだ。町立博物館の持田誠学芸員が炭鉱跡を、浦幌野鳥倶楽部の武藤満雄会長が山菜採りをそれぞれガイドした。

炭山では、廃屋となったアパートから尺別へ向かう電車の鉄橋跡までの約2・5キロを散策。参加者は植林されて成長した林の中に旧炭坑病院の正面玄関跡などを確認。廃屋となったコンクリート製2階建てのアパート3棟、太平坑の通風口から流れ出る水のかすかな硫黄臭などに、在りし日の炭鉱の町に思いをはせていた。

4回目の参加となる音更町の桑原美知子さん（69）は「毎回楽しめ。今回はさわやかに歩いてとてもよかった」と話していた。

留真の森では、武藤会長がミツバ、コゴミ、フキなどの山菜を紹介。留真温泉のコテージで、ヨブスモンウやハンゴンソウ、コゴミなど山菜の天ぷら5種類の堪能し、留真温泉でツアーの疲れを癒やした。

（田子紳一通信員）

「十勝毎日新聞」 2019年5月28日

年の歩みに触れてもらえれば」と話している。6月12日までの午前10時～午後5

時。無料。問い合わせは同博物館 ☎015・576・2009へ。（岩瀬貴弘）

浦幌の120年を紹介

町立博物館で企画展

5日には式典

【浦幌】町の開町120年を記念した企画展「浦幌開町120年展」(町、町立博物館共催)が、同館の1階特別展示ホールで開かれている。12日まで。

町では、1900年に当時の「大津村ほか6カ村戸長役場」から十勝村、生剛(おべつこうし)村、愛牛村が分離・独立し「生剛村外二カ村戸長役場」が置かれた年を「開町」と定めている。

展示では、松浦武四郎が浦幌沿岸を通過した「開町以前」、開町以降の「生剛から浦幌へ」など五つのコーナーで町の変遷を紹介。



中浦幌駅通所の壁板に見入る来場者ら

生剛村発足時の公文書、石川啄木の記事が掲載されている1908年1月24日付の「小樽日報」が貼られている中浦幌駅通所の壁板、十勝唯一の炭鉱だった「浦幌炭鉱」など、写真やパネル、書籍など約160点を展示。ロビーでは、開町70年を記念して69年に制作された記録映像「伸びゆく浦幌」が上映されている。同博物館の持田誠学芸員は「ものと写真で浦幌の120年を紹介しているのでぜひ来場を」と呼び掛けて

「十勝毎日新聞」 2019年6月3日

いる。同展の開館時間は午前10時～午後5時。問い合わせは同博物館(015・576・2009)へ。町では5日午前10時から中央公民館で、開町120年記念式典を行う。(田子紳一通信員)

29日に武四郎ツアー第2弾

東十勝ロングトレイル協議会(事務局・豊頃町商工会)は29日、『海のルート』松浦武四郎を辿(たど)るツアーPART2を行う。参加者を募集している。

北海道を命名した松浦武四郎がオホーツクから十勝入りした際に辿ったと思われるルートを、ガイドの説明を聞きながら、バスや徒歩で当時を振り返る。今回は十勝太、大津、旅来ルート。浦幌町立博物館の持田誠氏らがガイドを務める。

昼食は当時あったと思われる食材を調理する。持ち物は飲料水、タオル、帽子。帯広から参加の場合、午前8時に帯広建設会館を出発し、会費は3000円(バス代、昼食代、保険料込み)。豊頃町茂君、浦幌町商工会からも出発できる。申し込みは24日まで。問い合わせは事務局(015・574・2206)へ。

「十勝毎日新聞」 2019年6月13日

浦幌の文化や歴史学ぶ

十勝女性大会に150人



歓迎のあいさつをする
浦幌町女性連絡協会の出口
会長（中央）

【浦幌】第68回十勝女性大会（十勝女性団体連絡協議会主催）が6月30日、町中央公民館で開かれた。開道150年・わが町120年・歴史に学び、新たな未来へ」をテーマに、管内の1市6町の女性団体から約150人参加し研さんを深めた。

毎年、参加団体が持ち回りで担当し、今年は浦幌町女性団体連絡協議会（出口和枝会長）が主管を務めた。開会式では十勝女性団体連絡協議会の大西康子会長と道女性団体連絡協議会の中田和子会長があいさつし、十勝教育局の大橋則之局長（代理）と開催地・浦幌の水沢一広町長が祝辞を述べた。

講演では、町立博物館の持田誠学芸員が「歴史と自然から知る浦幌・十勝」と題して、「トカチ」命名の由来や浦幌町の変遷と十勝の歴史を紹介。

原生花園には高山植物のガンコウランやコケモモが生育していること、十勝坊主の発見など自然の魅力が伝えられた。

町の無形文化財「開拓獅子舞」や郷土芸能「上浦幌開拓太鼓」「千人踊り」が披露され、音楽グループ「Grazie（グラッチェ）」の「なつぞらコンサートinうらほろ」も開かれた。（田子紳一通信員）

「十勝毎日新聞」 2019年7月6日

学生が民泊体験 農家の苦労知る

【浦幌】道教育大釧路校の地域・環境教育専攻地域教育分野の2年生18人が町内で民泊体験をした。

地域に根差した教員の育成を目的に2011年にスタート。町内の小学5年生が毎年、1次産業を営む家庭に泊まり町の産業の大切さを学んでいることから、学生たちには同様の体験を通して、児童が感じること



花苗の管理作業
をする道教育大
釧路校の学生ら

今年6月27、28日に実施。学生の受け入れには「うらほろ子ども食のプロジェクト」（山岸嘉平会長）が協力した。

学生たちは農家など5戸に分かれ、農作業などを体験。町万年で畑作経営を営む石原英之さん宅には、根室管内別海町の岡野勝治さん（21）、青森市の中島響さん（20）、北見市の荻原峻さん（20）、岩手県洋野町の林下健吾さん（19）の4人が宿泊した。

学生たちは石原さんの妻由美さんが運営する「花と野菜のスタンド」で販売している花苗の管理作業などを学んだ。学生たちからは「子どもたちに教えることは勉強だけじゃないと再確認した」「食べ物が作られるのはたくさんのおかげ」と感謝などの感想があり、由美さんは「この経験が新しい気付きにつながればうれしい」と期待していた。

また、町立博物館の持田誠学芸員の案内で、旧浦幌炭鉱跡と旧常室小学校を訪問し、町の歴史と文化に触れた。（田子紳一通信員）

「十勝毎日新聞」 2019年7月7日

人物像作り込む 小説書き方伝授

博物館夜学講座

【浦幌】町立博物館の夜学講座「小説ができるまで」が3日、同館学芸員室で開かれた。

町内外から20人が参加。町立図書館の杉山未樹司書が小説の作り方や、自身の作品「霧の島」を例に具体的な書き方を伝授した。小説の作り方では、登場人物の性格や趣味などストーリーに関係ないことも作

小説の書き方を解説する杉山さん



り込む、最初からうまく書こうとせず書きたいことは全部書く、添削は直す所がなくなるまで何回もやるなどコツを紹介した。

杉山さんは「(作品の)

最後は決めていても変わることがある。迷路を進んでいるようなもの」と話し、「最後まで書き切ると、マラソンを走り終わった後のようにスッキリして、達成感がある」と小説を書く面白さを伝えた。

小学校1年生から創作「ねこねこものがたり」を書いている浦幌小5年生の浅利香南(かな)さんは「作者の先生に会えてうれしい。帰ったら、たくさん書こうと思う」と目を輝かせていた。

(巴子紳一通信員)

「十勝毎日新聞」 2019年7月13日

24日に浦幌史探訪

【芽室】めむろ歴史探訪会とバスで行く浦幌町歴史探訪が24日、開かれる。町民参加者を募集している。

浦幌町立博物館の持田誠学芸員をガイドに迎え、十勝開拓の出発点「十勝川本流の河口」や閉山から六十年がたった「旧浦幌炭鉱跡地」などを訪ねる。午前7時50分までに芽室町中央公民館前に集合する。

参加費1500円、昼食代は別途。締め切りは17日。申し込み、問い合わせはめむろ歴史探訪会事務局の土岐さん(0155・62・7705)へ。

「十勝毎日新聞」 2019年7月13日

アイヌ遺骨返還へ

来月にも 浦幌博物館保管で初

浦幌町立博物館が、管状・返還意向調査
保管するアイヌ民族の
遺骨1体を浦幌アイヌ
協会（差間正樹会長）
に返還することが23
日、関係者への取材で
分かった。博物館が地
域のアイヌのグループ
に遺骨を返還するのは
初めて。8月にも返還
し、同協会が町内の墓
地に再埋葬する。
同博物館によると、
遺骨は江戸時代のアイ
ヌ女性とみられ、19
74（昭和49）年に町
が十勝太若月遺跡（縄
文時代早期～江戸時
代）から発掘した。同
館は文化庁が今年4～
5月に全国の博物館を
対象に実施した遺骨保

「毎日新聞」
2019年7月24日

管状・返還意向調査
同協会は今年6月に
札幌医科大学とも和解
8月に同大から返還さ
れる遺骨1体ととも
に、計2体を再埋葬す
る。
遺骨管理権は、国連
先住民権利宣言に基
づくもので、サケ捕獲
権や土地の権利などと
同じく先住民にとって
重要な権利だ。これま
で博物館が所有する文
化財としての遺骨を発
掘地域のアイヌに返還
した例はなかった。
差間会長は「遺骨が
地元の土に返ってまら
うのはうれしい。博物
館に感謝している」と
歓迎した。

博物館アイヌ遺骨返還

浦幌町が初 協会、来月に再埋葬

【浦幌】浦幌町立博物館
（高橋慎館長）が保管して
いるアイヌ民族の遺骨1体
を、浦幌アイヌ協会（差間
正樹会長）に返還すること
が24日までに分かった。博
物館が地域のアイヌ団体に
遺骨を返還するのは初め
て。
返還されるのは、197

4年8月に十勝太若月遺跡
で行われた第3次発掘調査
で出土したアイヌ民族の女
性の遺骨1体。頭蓋冠左半
分と左右の側頭部、下顎の
小片、歯、大腿骨を含む下
肢長骨片。出土直後は旧郷
土資料館で保管され、20年
ほど前に町立博物館に移管
した。

文化庁は2月に全国の博
物館を対象にアイヌ民族の
遺骨の保管状況、返還意向
調査を実施。これを受け、
町は同協会と協議し返還す
ることを決めた。その後、
4月に町が文化庁に返還す
ることを回答した。
町立博物館の持田誠学芸
員は、「今後、遺骨を分析
調査する可能性が極めて低
いことや、アイヌ協会の遺
骨の受け入れ環境が整って
いることを総合的に判断し
た」としている。
同協会に対し、北海道大
学は研究のために埋葬地か
ら持ち去った遺骨76体（再
埋葬済み）を昨年までに返
還した。さらに、今年6月
には、町内で発見されたア

イヌ民族の遺骨を保管する
札幌医科大学との間で争わ
れた遺骨の返還を求めた訴
訟が和解している。

同協会によると、札幌大
から返還される遺骨と、町
立博物館で保管する遺骨を
8月17日に町営浦幌墓地に
再埋葬する。同協会の差間
会長は「これまでの協会の
地道な活動が認められ、先
祖が古里の土に帰ることが
できるようになり、うれし
く思う」と話している。

（内形勝也）

「十勝毎日新聞」 2019年7月24日

アイヌ遺骨博物館も返還

浦幌、来月にも6施設は白老集約

十勝管内浦幌町の町立博物館が、保管するアイヌ民族の遺骨1体を浦幌アイヌ協会に返還することが23日、分かった。博物館や研究施設から地元のアイヌ民族団体へ遺骨が返還されるのは初めて。アイヌ民族の遺骨を保管している他の12施設のうち、少なくとも6施設は、来年4月に胆振管内白老町に設けられる「民族共生象徴空間（ウポポイ）」内の慰霊施設に遺骨を集約する方針であることも明らかにした。

遺骨は近世以降の女性の

北海道博物館	△
市立函館博物館	●
網走市立郷土博物館	●
苫小牧市美術博物館	●
室蘭市民俗資料館	●
釧路市埋蔵文化財調査センター	△
とくろ埋蔵文化財センター（北見市）	●
いしかり砂丘の風資料館（石狩市）	△
胆振管内豊浦町中央公民館	●
上之国館調査整備センター（檜山管内上ノ国町）	○
伊達市噴火湾文化研究所	○
東京国立博物館	★

●慰霊施設に集約、○引き続き保管、★地元団体への返還を視野に調整、△検討中
※北海道新聞の聞き取りによる

難しいことなどから返還を決め、8月に再埋葬する。同協会の差間正樹会長は「自分たちの手で埋葬でき、うれしく思う。遺骨を地元で受け入れる流れができれば」と話す。

同博物館以外で、遺骨を保管していることが明らかになっているのは、道内外の博物館や研究所など12施設。北海道新聞が各施設に今後の遺骨の取り扱いについて聞いたところ、室蘭市

民俗資料館など6施設が地元アイヌ協会などと合意の上でウポポイ内に納めると回答。伊達市噴火湾文化研究所と上之国館調査整備センター（檜山管内上ノ国町）は、それぞれ納骨や慰霊できる環境を備えているとして今後も保管を続けると答えた。

また樺太のアイヌ民族の遺骨を保管するいしかり砂丘の風資料館（石狩市）は、樺太アイヌ協会の意向を踏

まえ、ウポポイには納めない方針で、今後の対応を協議中。東京国立博物館は地元アイヌ関係団体への返還も視野に調整している。

ウポポイへの遺骨の集約を巡っては、一部のアイヌ民族から「遺骨が出土した土地に戻すことが尊厳ある慰霊だ」という異論もある。博物館などが保管する遺骨について、文化庁は4月から各施設の返還意向などを調査していた。（斉藤千絵）

「北海道新聞」 2019年7月24日

アイヌ民族の遺骨 町立博物館返還へ

浦幌来月、地元協会に

研究目的などとして全国の大学や博物館などに保管されているアイヌ民族の遺骨に関して、浦幌町立博物館に保管されている1体が、8月に地元の浦幌アイヌ協会に返還されることが24日、分かった。文化庁によると「博物館から地元のアイヌ団体への返還は初めてではないか」という。

同博物館によると、返還されるのは同町内の十勝太若月遺跡の発掘調査で1974年に見つかった遺骨。近世以降の女性のものと見られる頭骨の一部や大腿骨を含む足の骨の破片などだ。和解により札幌医科大学からの返還が決まった別の1体と合わせ、8月に慰霊の儀式を行い、町営墓地に再埋葬するという。

アイヌ民族の遺骨については、来年4月に白老町に

完成する「民族共生象徴空間（ウポポイ）」に、集約して埋葬する慰霊施設が設けられる。これを受けて文化庁が今年2月から、全国の博物館や研究施設を対象に遺骨の保管状況を調査。象徴空間への集約、地元への返還、保管継続のいずれかについて回答を求め、結果の取りまとめを進めている。

同博物館では調査をきっかけに、4月末に浦幌アイヌ協会への返還を決定した。同協会は2017〜18年、北大から計約90体の遺骨の返還を受けて町営墓地に埋葬しており、受け入れ環境が整っていると判断したという。同協会の差間正樹会長は「先祖の遺骨を自分たちの手で埋葬できることになり、うれしい」と話している。（芳垣文子）

「朝日新聞」 2019年7月25日

アイヌ遺骨博物館が返還

来月、浦幌の協会に1体

浦幌町の町立博物館が保管しているアイヌの遺骨1体が来月、浦幌アイヌ協会（差間正樹会長）に返還されることが決まった。大学が保管する遺骨が地元のアイヌ団体に返還された例はあるが、博物館からの返還は初めて。

遺骨は1974年に、町内の十勝太若月遺跡で出土した頭骨や大腿骨の一部。17世紀末以降の女性のものとみられる。

浦幌町立博物館では文化庁の調査を受けて、保管する遺骨の取り扱いを検討することになり、浦幌アイヌ協会に打診。埋葬施設や祭祀の継承など受け入れの環

境が整っていると判断し、返還を決めた。副葬品の刀子については、いったん協会に返却し、寄贈を受ける形で館内での展示を継続する。

協会に対しては、札幌医大が保管している遺骨1体も返還されることになっており、8月17、18日にも同に再埋葬する予定。差間会長は「祖先の遺骨を再埋葬するのが子孫の務めなので、返還されるのは喜ばしい」と話している。

「読売新聞」 2019年7月25日

「浦幌にはたくさんの可能性」

中学バス学習 炭鉱跡や常室ラボ訪問

【浦幌】浦幌中学校（池田哲校長、生徒75人）の3年生を対象にした「町内バ



常室ラボを見学する生徒ら

加。総合学習の一環で10月に行う「町活性化案発表会」に向けて、町の歴史や町内企業の代表者から考え方を学んだ。

一行は、浦幌炭鉱跡や旧常室小学校敷地内の町教育発祥の地などを訪れた他、「TOKOMURO Lab（常室ラボ）」では町内で起業した3人から話を聞いた。町立博物館の持田誠学芸員から浦幌炭鉱の歴史や、旧常室小学校敷地内にある教育発祥の地では寺子屋が必要だった理由と常室集落の盛衰などについて聞いた。

常室ラボでは、常室カフェを運営する「KIZUKI（キズキ）」の三村直樹代表、木材を販売する「BATON PLUS」の北村昌俊代表、総合旅行業務を手掛ける「リペリエンス」の小松輝代表の3人から、会社設立の思いやそれぞれの仕事の可能性などについて聞いた。同中の山田千彩さん（15）は「浦幌はたくさんの可能性を秘めていることが分かった」と話していた。

学校に戻った生徒らは、午後から意見交換会に臨んだ。（田子紳一通信員）

「十勝毎日新聞」 2019年7月30日

学校や映画館も 浦幌の炭鉱を知る

めむろ歴史探訪会

【芽室】めむろ歴史探訪会（田村精悟会長、会員23人）の第74回例会が24日に行われ、「浦幌十勝川と旧浦幌炭鉱跡地の巡検」をテーマにバスツアーを楽しんだ。

21人が参加。浦幌町十勝太の堤防に立ち寄り、加藤公夫副会長が「十勝川は豊



持田学芸員の案内で浦幌炭鉱跡地を見学する参加者

頃町旅来の下流で左右に分かれていたが、河川改修で経緯を話した。

一行は浦幌町立博物館を見学し、持田誠学芸員の説明を聞きながら1954年に閉山した常室川上流の炭鉱跡地を訪れた。朽ちた住宅や病院の門、映画、芝居を催した会館、小学校跡地などを見学した。

参加した丹代眞理子さん

「十勝毎日新聞」 2019年7月31日

（69）は「住宅の残骸を見て、炭鉱のまちとして栄えていたことを知った」と話していた。（吉田政勝通信員）

ルーテル帯広教会池田礼拝堂 25日閉鎖

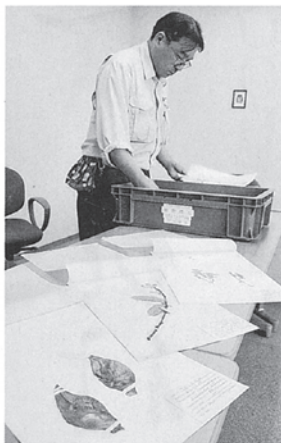
25日で閉鎖される日本福音ルーテル帯広教会池田礼拝堂



「押し花教会」62年の歴史に幕

【池田、浦幌】ルーテル派の日本福音ルーテル帯広教会池田礼拝堂（旭町3）が、少子高齢化による信者減少に伴う教会の帯広集約などのため、25日に閉鎖し、62年の歴史に幕を閉じる。礼拝堂は、当時の故吉田康登牧師が自作の押し花を販売した利益などで建立したユニークな教会。吉田牧師が作った植物標本は浦幌町立博物館に保管されており、今冬にも一般公開を計画している。

（岩瀬貴弘）



浦幌町立博物館で保管される吉田康登牧師の植物標本。丁寧に作られているという

同教会や同博物館によると、吉田牧師は長崎県出身で、1945年に浦幌に移り農業に従事した。家庭集会を通じ信者が増え、57年5月に池田伝道所が開設され、池田へ赴任した。教会の建物は浦幌炭鉱にあった旧映画館別館を移築し、活用したという。その後池田町内の道路整備に伴い、68年に現在地に移転した。

吉田牧師は当時の営林署から十勝管内の植物調査や標本作成を依頼されており、68年に教会を建てる際、この特技を活用。自ら「押し花色紙」を制作し資金を捻出した。

同博物館に68年に寄贈された植物標本107点は、吉田牧師

浦幌で今冬 故吉田牧師しのび植物標本展

によるものであることを、道東のキリスト教史を研究し現在は同博物館学芸員の持田誠さんが2011年に突き止めた。博物館には17年に新たに発見された93点と合わせ牧師の作品200点が保存されている。

持田学芸員は「標本の作り方が丁寧で、学名もしっかり書かれている。趣味で作ったレベルではなく、牧師さんとして驚いた」と振り返る。

さらに「押し花以外にもお茶や卵を売り、資金造成に10年かかった。珍しい歴史がある」と解説する。礼拝堂の歴史をしのび、博物館は今冬にも吉田牧師の植物標本展示を企画している。

一方、礼拝堂では6月30日に最後の合同感謝礼拝を実施。8月25日に最後の礼拝を行う。閉鎖後は建物を取り壊し、土地は売却の方針だ。2枚のステンドグラス（縦180センチ、横65センチ）は帯広教会に移転する。

礼拝堂の現牧師も務める帯広教会の岡田薫牧師は「いろんな人の苦勞があり、歩みがあった。最初の建物ができて62年。皆さんに支えられた歴史に感謝します」と話している。

「北海道新聞」 2019年8月10日

アイヌ遺骨1体返還

和解後初 札幌医大、浦幌協会に

札幌医大が保管していたアイヌ民族の遺骨1体が9日、遺骨が出土した十勝管内浦幌町の浦幌アイヌ協会（差間正樹会長）に返還された。同協会は同大を相手取り、返還を求める訴訟を札幌地裁に起こしていたが、6月に和解が成立した。同大からの裁判による遺骨の返還は初めて。

同日、差間会長ら4人が札幌医大に出向き、同大の遺骨返還後、取材に応じる差間正樹会長（左から2人目）



三浦哲嗣医学部長から骨箱を受け取った。三浦学部長は「これまで（返還の）希望に応えられず、申し訳ない」と陳謝。差間会長は「早く自分たちの土地に帰してやりたいと思っていた。和解に賛同いただき、感謝している」と話した。

遺骨を巡っては、同大が浦幌町教委から寄託されたものだとする町の意向に従うとした一方、町は「町内で出土したアイヌ遺骨だと確認できない」と主張。地裁が2月、「遺骨は浦幌町で出土したアイヌ遺骨」との見解を出したことで、浦幌町が同協会への返還を求め、同大が受け入れた。

遺骨は、町立博物館から返還される別の1体とともに、17日に町内の墓地に再埋葬される。

「北海道新聞」 2019年8月10日

ヤチボウズ 学び毛糸で製作

子ども博物館



毛糸でヤチボウズ作りに挑戦する子どもら

【浦幌】夏休み子ども博物館「毛糸でヤチボウズづくり」（町立博物館主催）が5日、同館ロビーで開かれた。町内の児童37人が参加。同館の持田誠学芸員が

講師を務めた。

スゲ類の植物が盛り上がった株を形成するヤチボウズが出来上がる過程や、アイヌに伝わるタクツペ（ヤチボウズ）伝説を学習した。ヤチボウズ作りは、毛糸をCDケースに60回巻き、ケースから外して真ん中から少し下を輪ゴムで結んで長い方の輪をはさみで切り分ける。さらに毛糸を折り下げて形を作り、最後に目を付けて完成させる。

大小7個のヤチボウズを作った浦幌小2年生の松田彩音さん（8）は「楽しかった。（ヤチボウズの）7人家族みたい」と話していた。子ども博物館は、2、6の両日も別のテーマで開か

れ、延べ136人が参加した。（田子紳一通信員）

「十勝毎日新聞」 2019年8月10日



道東の博物館・資料館

いち押し 収蔵品

12年8月、博物館が毎年開いている地層観察会で、町内の茂川流布川近くで露出した黒い塊が見つかった。

最後のアンモナイト（浦幌町立博物館）

珍しい形をしたアンモナイト。見慣れぬ形に「タイヤの化石が浦幌町立博物館にある。その名も「最後のアンモナイト」。

発見は偶然だった。2012年8月、博物館が毎年開いている地層観察会で、町内の茂川流布川近くで露出した黒い塊が見つかった。

化石は白亜紀に生息していた「ディプロモセラス・シンドラセラム」。渦巻き状にならずU字形をした「異常巻き」で長さ約50センチ、最も太いところで約15センチ。

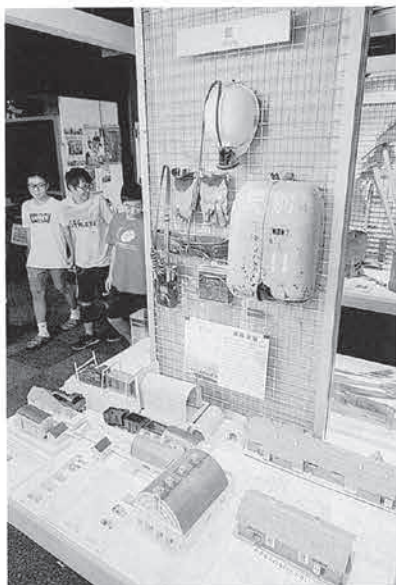
発見された場所は、巨大隕石が衝突した影響で恐竜やアンモナイトを絶滅させた約6600万年前の「K-Pg境界」（中生代と新生代の境目）と6800万年前の地層との間。6680万年前と推定され、北太平洋地域では最も新しいア

発見は偶然 発掘にも苦勞

△メモ▽浦幌町校16の1、町教育文化センター「らぼろ21」1階。入館無料。午前10時～午後5時。月曜休館（祝日の場合は翌日休館）。☎015・576・2009。最盛期には3千人が暮らし、1954年に閉山した浦幌炭鉱の資料も展示している。在館している場合、持田学芸員が解説などに応じる。

「アンモナイトは貝ではなく、イカやタコの仲間。貝の化石も展示しているのので、違いを観察して」と持田学芸員は話している。

（岩瀬貴弘）



④浦幌町立博物館に展示されている「最後のアンモナイト」化石⑤浦幌炭鉱で使われていた道具や当時の様子を再現した模型（いずれも井上浩明撮影）

「北海道新聞」 2019年8月14日

返還アイヌ遺骨再埋葬

浦幌町立博物館、札幌医大の2体

【浦幌】十勝管内浦幌町立博物館が保管していたアイヌ民族の遺骨1体が17日、浦幌アイヌ協会（差間正樹会長）に返還された。博物館や研究施設から地元アイヌ民族団体への遺骨返還は初めて。9日に札幌医大から返還された遺骨1体とともに、同町営墓園に再埋葬された。

同町教委の久門好行教育長らが墓園を訪れ、同協会に引き渡した。久門教育長は取材に対し、「地元のアイヌ協会で受け入れる環境が整っており、いい形で再埋葬でき安心している」と話した。



丁寧に遺骨を再埋葬する浦幌アイヌ協会のメンバーたち
浦幌町営墓園（井上浩明撮影）

「北海道新聞」 2019年8月18日

同博物館から返還された遺骨は、近世以降の女性の頭骨や大腿骨の一部。町が1974年、町内の十勝太若月遺跡（縄文早期）擦文

時代）で発掘した。同博物館に納骨、慰霊できる環境がないことから返還を決めた。
（岩瀬貴弘）



返還された遺骨を墓地に再埋葬する浦幌アイヌ協会の関係者＝浦幌町で

浦幌 アイヌ2遺骨再埋葬 町博物館と札幌医大が返還

浦幌町の浦幌アイヌ協会（差間正樹会長）は17日、町立博物館と札幌医大から返還されたアイヌ民族の遺骨計2体を町内の浦幌墓園に再埋葬した。アイヌ民族の遺骨が同協会に返還されるのは2017年、18年に続き3回目、過去2回はいずれも北海道大だった。同博物館の遺骨1体は1974年、町内の遺跡発掘調査で発見、保管されていた。同協会が北大から返還され

た計約90体の遺骨を同墓園に再埋葬していることなどから、同博物館は受け入れ環境が整っていると判断し、返還を決めた。札幌医大の1体は79年に町内の工事で見つかり、町から大学側に移管されていたが、同協会による返還訴訟が札幌地裁で6月に和解した。遺骨2体はこの日、それぞれ木箱に納められた形で返還。同協会が北大から返還され

「毎日新聞」 2019年8月18日

再埋葬に万感の祈り

浦幌アイヌ協「感慨ひとしお」

【浦幌】浦幌アイヌ協会 町立博物館と札幌医大から（差間正樹会長）は17日、それぞれ返還された遺骨計



遺骨の再埋葬の前に、浜厚内生活館でカムイノミを行う浦幌アイヌ協会関係者（井上浩明撮影）

2体を町営墓園に再埋葬した。立ち会った協会関係者ら約40人は、万感の思いを込めて祈りをささげた。

同協会は再埋葬に先立ち、祈りの儀式「カムイノミ」を浜厚内生活館で行った。その後、町営墓園に移動し、町教委の久門好行教育長から受け取った遺骨1体と、9日に札幌医大から返還された1体を再埋葬した。差間会長は「私たちの習慣にない再埋葬は、あつてはならないこと。先祖を地元の土に返すことができ、感慨ひとしお」と述べた。

久門教育長は「長い間、博物館で保管していたが、地元の土に戻るのが一番だと思っている」と話した。刀子と漆片の副葬品2点は同博物館で展示される。同協会は18日午前10時から、浜厚内生活館で先祖供養の儀式「イチャルパ」を行う。

また、同協会は9月にも東大を相手取り、同大が保

管する遺骨の返還を求める訴訟を釧路地裁に起こす方針だ。

（岩瀬貴弘）

「北海道新聞」 2019年8月18日

返還アイヌ遺骨再埋葬

浦幌の協会 札幌医大、博物館からの2体



再埋葬される遺骨（17日、浦幌町営墓園で）

浦幌アイヌ協会（浦幌町）は17日、研究目的で墓地から持ち去られ、札幌医大と町立博物館から返還された遺骨計2体を、町営墓園で再埋葬した。札幌医大の遺骨1体は、1979年に道路工事に見つかり、町から同大に移譲された。同協

会が同大に遺骨返還を求めた訴訟で、6月に札幌地裁で和解が成立し、8月9日に返還された。

同館の遺骨1体は、74年に町内の遺跡で、副葬品の刀子と一緒に出土した。埋葬施設などの環境が整って

残る6体返還
東大を提訴へ

東大が保管しているアイヌ民族の遺骨6体について、浦幌アイヌ協会（浦幌町）は17日、同大を相手取

り、9月にも返還を求める訴訟を釧路地裁に起こすことを明らかにした。

同協会によると、研究機関に保管されている浦幌由来の遺骨は、東大の6体を残すのみという。これまでに約90体を再埋葬しており、差間正樹会長は「少しでも早く（遺骨が）地元に戻ることができるよう努力したい」と話した。

「読売新聞」
2019年8月18日

アイヌ遺骨 浦幌の土に

札医大と博物館返還の2体



浦幌由来のアイヌ民族の遺骨を再埋葬する差間会長（手前右）ら（町営浦幌墓園）

に入れて手渡された。

博物館が地域のアイヌ団体に遺骨を返還したのは初めて。久門教育長は「地域の土に帰るのが一番。地元協会の手で尊厳ある慰霊を執り行い、安らかに眠りにつくことを願う」とした。

17日は午前中、参列者が見守る中、差間会長や同協会員ら約20人が町営厚内生活館前で祈りの儀式「カムイノミ」を執り行い、午後から同墓園で2体の遺骨を再埋葬した。墓穴（深さ1.5m、縦横1.2m四方）に木箱ごと安置され、供物を置き、着物を掛けて土をかぶせた。差間会長は「私たちの祖先を、私たちのやり方で地元の土に帰すことができた」と話した。

【浦幌】浦幌アイヌ協会（差間正樹会長）は17日、札幌医科大学と浦幌町立博物館（高橋慎館長）から返還されたアイヌ民族の遺骨各1体を町営浦幌墓園に再埋葬した。浦幌由来のアイヌ民族の遺骨が地元で再埋葬されるのは、一昨年、昨年の北海道大学からの返還を含め約80体を数える。今回再埋葬されたのは、1979年の浦幌町内道路

工事の際に発見され、札医大が研究目的で所持していた頭蓋骨の一部1体分と、74年に十勝太月遺跡で行われた第3次発掘調査で出土した、町立博物館が保管していた頭蓋冠左半分などの遺骨1体分の計2体。浦幌由来のアイヌ民族の遺骨は東京大学でも6体を保管しており、同協会は返還を求めて9月中旬にも提訴する考え。（内形勝也）

「十勝毎日新聞」 2019年8月19日

かく乱跡地の植生 現地で変化を調査

浦幌博物館

【浦幌・豊頃】浦幌町立博物館で開催中の企画展「浦幌に生きる植物はいま」の関連事業「かく乱跡地の植生観察会」が11日、浦幌町と豊頃町にまたがる豊北海岸で開かれた。参加者は、海岸への漂着木処理作業による植生の変化などを学んだ。町内外から6人が参加。同博物館の持田誠学芸員が



講師を務めた。戦争遺産のトーチカ近く

で、参加者たちがコドロート法による植生調査（1m四方の枠内）を行い、かく乱されていない場所とかく乱跡地の種類数を比較した。かく乱されていない場所でも6種類、かく乱跡地では12種類となり、後者では裸地化で多くの植物が侵入したことを確認した。浦幌十勝川河口近くでは、集積された漂着木を見ながら、ウシノケグサ群落がかく乱2年目にメマツヨイグサ群落となり、3年目にハチジョウナが増加している状況を学んだ。持田学芸員は「一見すると無用の原野に見える草原が、希少な植物を守っていることを知ってほしい」と話している。（田子紳一通信員）

「十勝毎日新聞」 2019年8月23日

博物館と社会科 授業の連携模索

【浦幌】町立博物館の持田誠学芸員を講師に招いた社会科の授業づくりの在り方を考察する講座（十勝教育研修センター主催）が26日、同博物館などで開かれ

た。管内の小・中学校で社会科を担当する教職員ら15人が参加。持田学芸員が博物館と連携した社会科授業の



浦幌町発祥の地で持田学芸員（右奥）の説明を聞く教職員ら

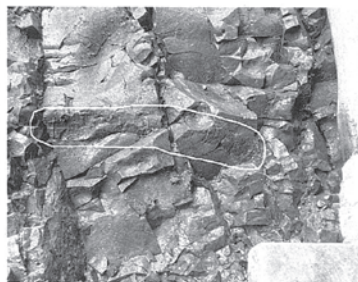
「十勝毎日新聞」
2019年8月31日

事例を紹介した。意見交換では、帯広百年記念館の大和田努学芸員ら3人の学芸員も加わった。参加した教職員からは、「どうやって授業と博物館をつなげばいいのかわからない」との声があり、大和田学芸員が「まずは帯広百年記念館に相談してほしい」とアドバイスした。浦幌中学校の松林一彦教諭は

「博物館などの教育施設とさらに連携できると感じた」と話していた。この他、浦幌発祥の地（町正剛）や鉄道敷設が幻に終わった十勝太地帯を見て回った。また、同博物館では十勝初のアンモナイトなどの展示物やバックヤード（収蔵庫）を見学した。（田子紳一通信員）



採集したアンモナイト化石が入った泥岩を持つ佐藤准教授（手前）



発見されたアンモナイト化石（白線内、佐藤准教授提供）

【浦幌】町茂川流布の「K/P境界」露出地点の近くで行った調査で、クビナガリユウの研究で知られる東京学芸大の佐藤たまき准教授が、アンモナイトの化石を発見した。アンモナイトの化石が

十勝2例目のアンモナイト化石 浦幌町茂川流布白亜紀層で発見

十勝管内で発見されるのは、2012年に同じ茂川流布で見つかった以来2例目。調査は8月29、30日、佐藤准教授、足寄動物化石博物館の澤村寛館長、穂別博物館の胆振管内むかわ町の西村智弘学芸員、むかわ町職員の太田忠さんの4人で行った。29日に茂川流布川流域で脊椎動物の化石を探そうとサントニアン期（8600万〜8300万年前）ごろの地層を調べていたところ、「K/P境界」の下流域で、佐藤准教授がしま模様が付いた泥岩を発見した。アンモナイト化石はむかわ町で数多く発見されており、同町で研究する西村学芸員らがアンモナイトと確認、2日間かけて採集した。発見したアンモナイトの化石は異常巻きと呼ばれる種類。12年に発見したものより約200万〜400万年ほど前、6800万〜7000万年前の白亜紀のものと思われる。佐藤准教授は「道内は白亜紀の化石が多く見つかったおり、この時代にどういった生き物が存在したかを知る資料になる」と述べていた。（折原徹也）

「十勝毎日新聞」 2019年9月2日

野生動物の保全考える

浦幌で酪農大生が技術実習

【浦幌】酪農学園大学環境共生学類野生動物学コースの3年生による野生動物保全技術実習が8月28～31日の4日間、町内の森林や河川、海岸で行われた。ヒグマの生態調査を中心に、自然と人の営みを理解し野生動物の保全を考えるのが目的。実習は今年で7年目。同大の佐藤喜和教授ら4人と学生11人が訪れた。宿泊や食事の準備などは、浦幌ヒグマ調査会（佐藤芳雄会長）が協力した。野生鳥獣管理では、北海道有害鳥獣対策コンサルタ



ニホンザリガニの生態調査を行う学生ら

横浜市出身の森田暖々（のの）さん（20）はコンパスがうまく使えなかつたけど、浦幌が自然に満ちた。

ント（浦幌町）の原啓之さんからエゾシカやヒグマの

農作物被害防止対策などを、浦幌シビエでは池田亮一さんからエゾシカ解体施設の説明を受けた。クマスプレーを携帯した林道調査では、ヒグマの生態調査方や地形図とコンパスの使い方などを実践した。

「十勝毎日新聞」 2019年9月5日

あふれていることが分かった」と話していた。浦幌川支流のオベトン川では、浦幌の自然を楽しむ会（堀川真一会長）の会員指導で、ニホンザリガニの生息調査、特定外来生物

のウチタザリガニの駆除を体験した。豊北海岸では町立博物館の持田誠学芸員が、海岸草原の現状を説明。1畝四方の植生を調査するコトラード法を指導した。（田子紳一通信員）

道端だけで60種 町内の雑草観察

町立博物館

【浦幌】町立博物館の「まちなか雑草観察会」が14日、JR浦幌駅前を発着点とした約1・5キロの範囲で開かれた。



JR浦幌駅前「路面間隙雑草」を観察する参加者

町内外から7人が参加。同館の持田誠学芸員の案内で、普段は何気なく歩いている町中で、歩道に敷き詰められたブロックの間や空き地に生えている雑草を観察した。

持田学芸員は「雑草とは、人間の許可なく生えている草」と話し、歩道の隙間などに生える植物を「路面間隙（かんげき）雑草」と呼ばれることを紹介。スベリヒユやカタバミなどの在来種とセイヨウタンポポ、アメリカオニアザミなどの外来種の計約60種を観察した。

釧路市から参加した茂手木勸さん（71）、純子（68）さん夫妻は「路面の隙間の雑草という視点が面白い」と興味深げに話していた。（田子紳一通信員）

「十勝毎日新聞」 2019年9月21日

児童ら「虫さがし」 捕獲法や特徴学ぶ

浦幌小

【浦幌】浦幌小学校（横山利幸校長）の3年生20人を対象にした「虫さがし」が18日、うらほろ森林公園で行われた。

理科の授業の一環で、町立博物館の持田誠学芸員と帯広百年記念館の伊藤彩子学芸員が指導した。

児童たちは、捕虫網の使い方や木を揺るがす網で受けるビーティング法に挑戦した。あらかじめ地面に仕掛けてあったピットフォールトラップ（プラスチックのコップ）にはセンチコガネなどが入っていた。

捕まえた虫を「目」で分類し、コウチュウ目、バツ

タ目など七つの仲間に分けた。伊藤学芸員は「ハエの羽は2枚」「セミやアメンボもカメムシの仲間」など昆虫の特徴を説明。児童たちは「ガは何を食べるの」などと質問していた。
（田子紳一通信員）



児童たちに捕まえた虫の説明をする伊藤学芸員（右）

「十勝毎日新聞」 2019年9月22日

標本の発見秘話を紹介 浦幌町立博物館で企画展



「ウラボロイチゲ」の標本を見る来館者ら

【浦幌】町立博物館の企画展「浦幌に生きる植物はいま」が、同館特別展示ホールで開かれている。同館の自然誌（自然を記録する作業）に関する取り組み、町の植物の話題や現状を紹介している。29日まで。

境「変わる浦幌の植生」など五つのコーナーで構成。写真や解説パネル、植物標本など60点余りが展示されている。

町の名前が冠せられた「ウラボロイチゲ」の発見秘話では、1903（明治36）年にロシアで新種として発表されたが、1895（明治28）年に浦幌川で採集された「ウラボロイチゲ」は「キクザキイチゲ」として同定されていた標本があり、間違えていたならば浦幌が新種発見地になった可能性を紹介している。

町民らが参加する同館の豊北植物調査会による、植物の季節変化を調べるフェノロジー調査（生物季節観測）の取り組みも解説。浦幌・豊頃の間町に広がる豊北原生花園は、豊頃側の一部が「トイトツキ原生花園」として北海道指定天然記念物となっており、浦幌側も貴重な海岸草原であることを紹介している。

同館の持田誠学芸員は「北海道大学総合博物館から、明治時代に札幌農学校の学生が採集したウラボロイチゲの標本を特別に借りて展示しているので、ぜひ見てほしい」と来場を呼び掛けている。

同展示は入場無料。開館時間は午前10時～午後5時。問い合わせは同博物館（015・576・2009）へ。（田子紳一通信員）

「十勝毎日新聞」 2019年9月24日

シカ屋は河畔林 夜は農地に出没

大熊さん講座

【浦幌】町立博物館の夜学講座「シカ、出沒注意。」対策すべき畑と林」が18日、同館常設展示室で開かれた。

町民7人が参加。「まちなか生きものガイド しぜんたい」の大熊勲代表が、いつどこにシカが出やすいかなど十勝での研究を紹介。「シカは農作物を餌にすることで頭数が増える。多すぎるとシカは植物とそ



シカの生態を解説する大熊さん

の利用者の昆虫などを減少させる。農業被害対策（駆除）は生物多様性の保全に寄与している」と解説した。また、十勝のシカを観察した結果、日中はうっそうとした河畔林、夜は作物のある農地に出没していることが多いとした。対策として、樹木下の草刈り、シカ柵の設置などを提案した。

参加者から「（シカの）ケーンと聞こえる鳴き声は何」との質問があり、大熊さんは「警戒して、仲間知らせる声」と答えていた。（田子紳一通信員）

「十勝毎日新聞」 2019年9月25日

浦幌に生きる植物に光

町立博物館が企画展 標本など75点



「ウラボロイチゲ」発見秘話などを紹介する企画展

【浦幌】町立博物館は企画展「浦幌に生きる植物はいま」を20日まで開いている。

展示は「原野が農地に」「変わる浦幌の植生」など

五つのコーナーに分かれる。国内では1984年に浦幌で初めて確認され和名に町の名前が付いた「ウラボロイチゲ」、豊北原生花園のコケモモやガンコウ

ンなどのパネルや写真、標本など75点を展示している。

ウラボロイチゲの発見秘話では、1903年（明治36年）にロシアで新種として発表される前に、1895年（明治28年）に浦幌川で採集された状況を紹介。「当時新種と気づき発表していれば、浦幌が新種発見地になっていた可能性がある」（持田誠学芸員）という。

入場無料。問い合わせは同博物館 ☎015・576・2009へ。（岩瀬貴弘）

「北海道新聞」 2019年9月27日



1903年、開業当時の浦幌駅前。旧生剛村の市街地は同駅の開業によってわずか数年で姿を消すことに（町提供）

開町120年 浦幌町

数年で消えた「^{せいごう}生剛村」



旧生剛村の市街地があったことを今に伝える「浦幌町発祥の地」の記念碑を紹介する持田学芸員

浦幌町の前身の旧生剛（せいごう）村は、大津村外六カ村戸長役場から分離し、1900（明治33）年に「生剛村外二村戸長役場」が設置されたことに始まる。十勝の開墾の最前線地であった大津地区（豊頃町）に近く、中継地点として発展。だが、03（明治36）年に鉄道が開通し、浦幌駅が開業したことで、旧生剛村にあった官公庁などの施設は同駅の付近に次々と移転した。旧生剛村市街地があった場所（町生剛）には「浦幌町発祥の地」の記念碑があり、その存在を今に伝えている。浦幌町立博物館の持田誠学芸員（46）は「生剛村は短期間のうちに市街地が出来上がり、浦幌駅の開業によってわずか数年で姿を消した」と話している。

12（明治45）年に旧生剛村は旧浦幌村に改称。54（昭和29）年の町制施行で浦幌町となり、翌年、旧大津村の一部を編入して今日に至っている。

「十勝毎日新聞」 2019年9月27日
創刊100年特集号

演奏と読み語り 文学の表現学ぶ 昔ばなシアター

【浦幌】生演奏をBGMにして文学作品を読み語る「昔ばなシアター」(オープンガク堂cafe、オープンガクうらほろ制作委員会主催)が11日、町立図書館で開かれた。



続。30人が来場した。音更町出身の演出家で俳優の左藤慶さん(東京)が、妻の真世さんのピアノ演奏をBGMにして、66年前に29歳で亡くなった児童文学者、新美南吉の「牛を繋(つな)

「牛を繋いだ椿の木」を読み語る左藤さん

とフルート、チェロ

によるアイルランド民謡などの演奏も行われた。帯広市在住の三浦将宏さん(52)は「普段は触れることのない文学に触れられた。素晴らしい」と話していた。(広橋基嗣通信員)

「十勝毎日新聞」 2019年10月26日

地域の自然を 授業に反映へ

高校理科研究会

【浦幌】管内の高校教員らでつくる北海道高等学校理科研究会十勝支部は10月24日、地域の自然環境を学び授業に反映させるための研修会を町内のK/pg境界層や炭山地区などで開いた。

教職員7人が参加。町立博物館の持田誠学芸員が講師を務めた。6600万年前にメキシコのユカタン半島に隕石(いんせき)が落



カニの爪が入ったノジュールを探す参加者ら

下し、恐竜が絶滅したとされる痕跡のK/pg境界(町川流布)付近では、8月に十勝2個目のアンモナイト化石が発見されてい

出英次教諭は「一度は見たいと思っていたK/pg境界を見られてよかった」と話していた。

(田子紳一通信員)

る。参加者は「3個目」を探したり、エゾシカによる食害で林床植物が減少している状況を観察したりした。炭山地区では常室川の河原で木の葉の化石などを採取。カニの爪の化石が入っているノジュールを崖で探した。参加した帯広柏葉高校の井

「十勝毎日新聞」 2019年11月7日



青空を舞うハウガンの群れ。十勝川流域で羽を休めている

【浦幌】町立博物館の移動講座「秋の渡り鳥観察会」が3日、町下浦幌地区で開かれた。

町内外から6人が参加。町内の野鳥愛好家の春日基江さんが案内役を務めた。浦幌十勝川と十勝川の両流域は渡り鳥の重要な中継地となっており、本州各地に南下する数千羽の渡り鳥を観察できる。

この日は、十勝川左岸の堤防上か

渡り鳥2千羽 浦幌で羽休め

ら収穫後の畑に、オオハクチョウや天然記念物のヒシクイとマガモ、環境省レッドリスト2019で絶滅危惧1A類に掲載されているハクガンなど2000羽ほどが集まっていた。

観察会では、渡り鳥5種類と、タンチョウ、天然記念物のオシロワシなど20種類の野鳥を観察。ハクガンの初確認から観察している春日さんは「まだまだ見られるので楽しんで」と話していた。（田子紳一通信員）

「十勝毎日新聞」 2019年11月7日

世界的学者 西里さんの足跡展示



「西里静彦のしごと展」に会場した同窓生ら

【浦幌】町立博物館のコーナー展示「西里静彦のしごと展」が同館常設展示室で開かれ、来館者の興味を引いている。来年3月末まで。西里さん（84）は浦幌で育った、世界的に知られる行動計量学者。同展では書画や同窓生への手紙などが展示している。

浦幌育ち 手紙や寄稿文

西里さんは1935（昭和10）年に札幌市で生まれ、和10年に札幌市で生まれ、西里さんは、2000年小学校、中学校時代を浦幌村（当時）で過ごした。61年に北海道大学文学部修士課程を修了し、米国のノースカロライナ大学に留学。67年にカナダのトロント大学に勤め、76〜2000年（特別功績賞）の称号を贈られた。日本行動計量学会に勤め、76〜2000年の名誉会員で、同学会の林

町立博物館 同窓生・飯山さんら訪れ懐かしむ

知己天賞（功績賞）など多数の受賞歴がある。1992〜95年に国際計量心理学会の英語の学術研究誌「サイコメトリカ」編集長、95〜96年には同学会の会長を務めるなど、計量心理学の発展に尽力した。

展示されているのは、浦幌中学校第3期同窓生の飯山祐敏さん（83）や同館に贈られた著書など24点。展示されている著書は「応用心理尺度構成法―質的データの分析と解釈」「質的データの数量化―相対尺度法とその応用」などで、計量心理学での「相対尺度法」は西里さんが命名した。

飯山さん宛ての手紙や十勝毎日新聞に掲載された今年6月に参加した同期会の記事、2002年の「広報うらほつ」6月号「頑張るうらほつ子」への寄稿文などもある。

7日には同窓生6人が同館を訪問した。「中学時代の担任が『あいつ（西里さん）の頭は別物』と話していた」などと懐かしんでいた。

展示は午前10時〜午後5時。休館日は月曜、祝日の翌日、年末年始など。問い合わせは同館（015・576・2009）へ。

（田子紳一通信員）

「十勝毎日新聞」 2019年11月12日

**十勝開拓当時の
日記や写真展示
百年記念館移動展**

【浦幌】帯広百年記念館運営連絡協議会（松井由孝会長）と同記念館（山原敏朗館長）が主催する移動展「十勝開拓日記巡回展」が、町立博物館・特別展示ホールで開かれている。

開拓事業やバター工場などの産業の発展を記した、

さまざまな日記などの写真や解説パネル約40点が展示されている。13日午後7時から同館で「十勝開拓日記」と題して帯広百年記念の大和田努学芸員が講演する。

晩成社の依田勉三日記「備忘」には1892（明治25）年7月23日に晩成社の土地の範囲を内定してもらったこと、新田長次郎が運営した新田牧場（幕別）の「育牛日誌」（1923～24年）には、牧場から牛が16頭脱走したとあり、当



「十勝開拓日記巡回展」を鑑賞する来館者ら

時の様子が分かり興味深い。

町立博物館が収蔵する1921年の上浦幌灌漑溝（かんがいこう）組合規約や37年に水路の監視員（水番）を廃止し、組合員が持ち回りで巡視することを決めた灌漑組合決議案の決議録なども展示されている。

同館の持田誠学芸員は「浦幌の資料もあるので、十勝の中での浦幌の位置付けを感じてほしい」と来館を呼び掛けている。

同展は15日まで午前10時～午後5時。入場無料。
（田子紳一通信員）

「十勝毎日新聞」 2019年11月12日

十勝開拓歴史振り返る

浦幌で大和田さん講座

【浦幌】町立博物館の夜学講座「十勝開拓日記」が13日、同博物館の特別展示ホールで開かれた。参加者は、十勝開拓の始まりから近代までの人々の生活の移り変わりを通して「十勝らしさ」などを考えた。

町内外から26人が参加。帯広百年記念館の大和田努学芸員が講師を務めた。同博物館で15日まで開かれていた同記念館の移動展「十勝開拓日記巡回展」の関連講座として行われた。

大和田さんは、「北海道」や「十勝」「河西郡」の名付け親である松浦武四郎が農業に向いていると報告した開拓使・札幌農学校員が農業者の生活を安定したのは今から100年ほど前で、豆の高騰、製糖工場の進出などがあつたとし、劇場や映画館、野球などの娯楽が広まり「十勝らしさ」が生まれてきたと解説した。

その上で、「十勝という地域が歴史的にどのような歩みをみせたのか、古い記録や写真にはその手掛かりが潜んでいる。開拓期からのさまざまな課題を解消する線り返して今につ



講演する大和田さん

ながっている」と話した。

移動展は、音更町生涯学習センター（12月9日まで）、池田町田園ホール（12月11～21日）、足寄町民センター（同23～29日）、本別町中央公民館（来年1月7～18日）、士幌町総合研修センター（同20日～2月3日）、大樹町生涯学習センター（2月5～27日）で開かれる。問い合わせは同記念館（0155・24・5335）へ。（田子紳一通信員）

「十勝毎日新聞」 2019年11月24日

浦幌町立博物館、図書館

開館20年8日に記念講座

【浦幌】町立博物館と町立図書館は8日、両館の「開館20年記念講座」を同博物館で開く。

同日は両館の開館記念日。第1部は午後2時半から、「町立博物館を考える」をテーマに、本別町歴史民俗資料館の田野美妃館長が講演し、同博物館の持田誠学芸員が報告する。

第2部は同6時半から、帯広大谷短大の吉田真弓特任教授が「町民とともに育つ図書館」浦幌町立図書館をテーマに講演する。

参加無料。希望者は直接会場へ。問い合わせは同博物館 ☎015・576・2009へ。(岩瀬貴弘)

「北海道新聞」 2019年12月5日

図書館と博物館
あす20年記念講座

【浦幌】町立図書館（高橋慎館長）と町立博物館

（同）は8日、本別町歴史民俗資料館の田野美妃館長と、帯広大谷短大副学長の吉田真弓特任教授を講師に招き、「開館20年記念講座」を同博物館2階視聴覚ホールで開く。入場無料。

両館は開町100年を記念して1999年12月8日に開館し、同日を開館記念日としている。今回の講座は節目の年を刻んだ両館の将来を考える場とする。

講座は2部構成。第1部は「町立博物館を考える」をテーマに田野館長が講演。その他、浦幌町立博物館の持田誠学芸員の報告や、質疑・討論を含め約2時間半の内容。

第2部は「町立図書館を考える」をテーマに、吉田特任教授が「町民とともに育つ図書館」浦幌町立図書館を考える」を演題に講演する。質疑・総合討論を含め約1時間半の内容。

第1部が午後2時半から、第2部は同8時半からとなっている。

問い合わせは、町立博物館（015・576・2009）へ。

「十勝毎日新聞」 2019年12月7日

浦幌「信仰の灯は永遠に」展に寄せて

持田 誠

2019年8月、ひとつの
キリスト教会が十勝から姿を
消した。日本福音ルーテル池
田教会（日本福音ルーテル池
田礼拝堂、プロテスタント・
ルター派）である。

教会の歴史を地域の人々に
知ってもらうと、現在、浦
幌町立博物館（桜町16）で開
催している企画展が「信仰の
灯は永遠に・福音ルーテル池
田教会と吉田康登牧師の足
跡」だ。本展では、池田教会
の歴史と地域との関わりをテ
ーマとしているが、実はもう
ひとつ、地方史におけるキリ
スト教史の位置づけについて
問題を提起している。

北海道に限らず、日本のキ
リスト教史は、近世以前のキ
リシタン時代、それに禁教解
除後の明治開拓期を中心に記
述されている。一方、その後
各地方にどのようにキリスト
教が定着していったのか？
自治体編さんの市町村史に
は、ほとんど記述がない。キ
リスト教の地域における実情
を知るすが、ほぼないのが
実情なのである。

地域教会の歩み 史料化期待



展示室に再現した
池田教会＝浦幌町
立博物館



初代池田伝道所の前に立つ吉田
康登牧師（右端）＝1959年ころ

もちだ・まこと 1973年
横浜生まれ。酪農学園大卒。
博士（農学）。浦幌町立博物館
学芸員。北大総合博物館資料部
研究員。

成・発達過程におけるキリス
ト教（会）の役割を、なかつ
たことにしてしまふのと同じ
である。

一時的にでも教会が存在し
た地域は、一定の人々にとつ
ては神社や寺院と同じく、キ
リスト教会が、精神的支柱と
しての役割を果たしていたは
ずである。歴史に教会の記述
がないことは、その地域の形

市町村史におけるキリスト
教史の問題については、『札
幌キリスト教史の研究』（2
019・北海道出版企画セン
ター）のなかで著者の鈴江英
一さんが述べているように、
歴史学者から指摘がある。で
は、モノから地方史を記録す

この教会は、思いあつて戦
後入植で北海道へ渡った、元
牧師の吉田康登さんと、彼を
とりまく人々との交流から生
まれた。彼の真摯な姿勢に心
を動かされ、やがて地域に信
仰の輪が広がって、教会を作
ろうという動きに発展すると
いう、戦後の北海道キリスト
教会史上、特筆すべき稀有な
事例なのである。

ここには、キリスト教の

る博物館ではどうだろうか？
残念ながら、これがまた欠
落しているのである。

博物館では、教会建築など
文化財的な観点から、地域の
キリスト教会を扱うケースは
多い。ところが、教会の形成
や消滅について、資料収集や
調査研究を展開している博物
館は、非常に少ない。

見地からは開拓伝道の本質的
な姿を、地方史の観点からは、
戦後の新時代に、人々が新た
な精神的支柱を求めたという
実相を見るに違いない。それ
は、北海道農村におけるキリ
スト教史の一断面として、記
録するに値するものと確信し
ている。

本展では、吉田さんの足跡
を中心に、教会の誕生から廃
止までを紹介する。展示は、
教会解体時に収集した資料
と、吉田牧師の「子息への聞
き取り、池田教会の後継とな
る常広教会の岡田薫牧師はじ
め皆さまへの取材資料によつ
て構成した。

マルティン・ルターによる
宗教改革から500余年。いま
日本の農村は、キリスト教
衰退期に入っている。このま
までは、キリスト教が根付き、
教会が存在した時代があると
いう歴史が記述されないいま
ま、地域から忘れ去られてし
まう危険がある。本展がきつ
かけとなり、各地の博物館で、
地域のキリスト教会史の資料
収集へ目を向ける動きが生ま
れてくることを期待したい。

*

企画展「信仰の灯は永遠に
ー福音ルーテル池田教会と吉
田康登牧師の足跡」は1月19
日まで。月曜、30日～1月
6日休館。無料。

「北海道新聞」 2019年12月13日

運営は地域密着で

浦幌図書館博物館 20周年講演会

【浦幌】町立図書館（高橋慎館長）と町立博物館（同）は8日、本別町歴史民俗資料館の田野美妃館長と、帯広大谷短大副学長の



講演する田野館長

吉田真弓特任教授を講師に招き、「町立図書館・博物館の開館20年記念講座」を同博物館2階視聴覚ホールで開いた。町民約30人が聴講した。

講座は2部構成で行われた。第1部は「町立博物館を考える」をテーマに同資料館の田野館長が講演した。田野館長は、同資料館について「ふるさとの歴史を知り、理解を深め、未来の創造をテーマに、ふるさとに密着した地域志向型である」と紹介。その上で「資料館も図書館も運営はボランティアなぞして成り立たない」と説明した。続いて、同博物館の持田誠学芸員が、町立博物館の現状と課題を報告。資料のデータベース化が課題とした。

「十勝毎日新聞」 2019年12月20日

礼拝堂再現し 賛美歌を披露

町立博物館

【浦幌】「クリスマス賛美歌コンサート」(町立博物館主催、日本福音ルーテル帯広教会共催)が21日、同



礼拝堂を再現した空間で賛美歌を歌う参加者

博物館ロビーで開かれた。8月に歴史の幕を閉じた福音ルーテル池田教会と吉田康登牧師の足跡を紹介する同博物館の企画展「信仰の灯は永遠に」の関連事業。

お話しぴあの会(西田祐子代表)が、西田さんのオルガン伴奏と合唱で協力し、ルーテル教会ゆかりの歌やクリスマス賛美歌など25曲を歌った。町内外からの来場者約30人は、同教会の礼拝堂を再現した空間で、厳かな雰囲気の中、賛美歌に聴き入った。

企画展関連事業として、29日午前10時から持田誠学芸員が随時解説する「展示解説」、来年1月11日午後2時から講演会「植物研究家としての吉田牧師」が同博物館で開かれる。問い合わせは同博物館(015・576・2009)へ。

(田子紳一通信員)

「十勝毎日新聞」 2019年12月28日

新種巻き貝化石里帰

ウラホロ
ミガキボロ
7日から一般公開

【浦鏡】2014年夏に町での活字周辺の約6000万年前（晩新世）の地層「笠置層」から発見された、国内に近縁種がない巻貝目の新属新種化石「ウラボロミカキナギ」が昨年12月上旬に約5年ぶりに里帰りした。発見者の上野教育大学（新潟県上越市）の天野和孝名誉教授が町立博物館に寄贈したもので、7日から一般公開する。

目の新属・新種。体長43ミ、最後のひと巻きが太大きく、目の表面に光沢を持つのが特徴。天野名誉教授は米国の研究者と論文を共同執筆し、米国の学会誌で発表。5700万年前には地球見果の温暖化が起き、深海

この化石は、学名を *Urahorosphaera kanekoi*、和名を「ウラホロミカギボウ」と命名。当時は同大副学長だった天野名誉教授らの研究グループが発見したもので、バイガイやツブガイな

の酸素が減少し、深水性微生物（有孔虫）の多くが絶滅したことが知られている。天野名誉教授らは、こ

一つ。実物を多くのの人に「てもらいたい」と話している。（内形勝也）

里帰りした「ウラホ
ロミガキボラ」

 **活平層（浦幌）** 恐竜が絶滅した中生代白亜紀末期に続く、新生代第1期の地層。晩新世の地層は他の年代の地層に比べ世界的にも少なく、国内でまとまった化石が出るのは活平層が唯一とされる。



一般公開される巻き貝の新属新種化石「ウラホロミガキボラ」と持田学芸員

の時の温暖化で、深海性の貝類がどんな影響を受けたのかを研究しており、その過程で発見した。北米西岸からカムチャツカ、南極に生息した巻き貝と似ている。

「ウラホロミガキボラ」

の基準樹木は東京大学で保管されており、町立博物館に寄贈されたのも、上越に教育大で天野名誉教授が保管していた。天野名誉教授が定年退職を機に、町立博物館に保管管理を委ねた。町立博物館の持田誠学芸員は「活平の象徴的な化石の一つ。実物を多くの人に観てもらいたい」と話している。

(内形勝也)

「十勝毎日新聞」 2020年1月4日

池田礼拝堂と牧師しのぶ160点



閉鎖された池田礼拝堂と吉田牧師をしのぶ企画展

浦幌町立博物館で企画展

【浦幌】 池田公会池田礼拝堂（池田町）と、建立に尽力した故田中康孝牧師をしのぶ「顕英」の同灯は永遠に、が浦幌町立博物館で展示されている。同礼拝堂は、浦幌から池田に移った吉田牧師が、自作の押し花を販売した利益などで建立したユニークな経緯があり、会場では吉田牧師が制作した植物標本も初めて一般公開している。（岩瀬貴弘）

同礼拝堂は、1957年 始まりで、68年に建立された。開設された池田伝道所が、少子化、高齢化で信者

昨夏閉鎖 聖書や初公開の植物標本

が減少したのに伴う教会の
帯広集約などのため、昨年
8月に閉鎖された。

吉田牧師は、当時の営林署から十勝管内の植物調査や標本制作を依頼されており、押し花制作にも取り組んだ。その後、標本は同博物館に寄贈され、現在201点が収蔵されている。

0点を展示し、礼拝堂の様子を再現。吉田牧師と浦幌や池田の関わりをパネルで紹介した。これに加えて植物標本は内容を変えながら約30点展示している。

同博物館の持田誠学（まけだ まこと）氏は「浦幌に母体があり、池田で生まれた教会の歴史や吉田牧師と地域との関わりを知ってほしい。植物標本を見ると、マメで研究熱心だった人柄が伝わってくる」と話す。礼拝堂に関する資料の提供も呼び掛けている。

2017年から礼拝堂の牧師を兼務してきた帯広教会の岡田薫牧師は「いろいろな方々の助けがあつて池田に教会ができた。吉田牧師を知る人など、たくさんの方が訪れてくれてうれし」と感謝している。

企画展は19日まで。入場無料。問い合わせは同博物館☎015・576・2009へ（6日まで休館）。

「北海道新聞」 2020年1月5日

吉田牧師の足跡紹介

浦幌町立博物館で企画展

【浦幌】日本福音ルーテル池田教会（日本福音ルーテル帯広教会池田礼拝堂）と吉田康登（やすなり）牧師の足跡を紹介する企画展「信仰の日は永遠に」が19日まで町立博物館ロビーで開かれている。



企画展を鑑賞する来館者

ロビーには、聖書や説教壇、吉田牧師の聖書、信徒が座る長椅子などを置いて教会内部を再現し、オルガンの賛美歌を流している。

吉田牧師の生い立ち、浦幌での布教、池田教会の誕生などをパネル6枚で紹介。教会日誌や献堂式のパログラムなど約80点を展示している。同博物館の持田誠学芸員は「浦幌にゆかりの深い教会が存在したことを知ってほしい」と多くの来館を呼び掛けている。

同展覧には、吉田牧師の「植物コレクション」のコーナーがあり、ザゼンソウやスズランなど6点の標本を展示。標本には採集情報や丁寧な書かれたラベルが付き資料性が高い。礼拝堂を建設するときに資金集めのために作成した「押し花色紙」やブドウを描いた植物画もある。

この他、関連事業講座「植物研究家としての吉田牧師」は11日午後2時から同博物館で開かれる。参加無料。問い合わせは同博物館（015・576・2009）へ。（田子紳一通信員）

「十勝毎日新聞」 2020年1月6日

十勝で植物研究 故吉田牧師知ろう

【浦幌】町立博物館は、十勝管内の植物調査や標本制作に携わった故吉田康登牧師に関する講座「植物研究家としての吉田牧師」を11日午後2時から、同博物館で開く。

19日まで開催中の企画展「信仰の日は永遠に」の関連事業。吉田牧師は自作の押し花を販売した利益などで、ルター派の日本福音ルーテル帯広教会池田礼

浦幌町立博物館

11日に学芸員が講座

拝堂（池田、昨年8月閉鎖）を建立したユニークな取り組みを行った。講師は同博物館の持田誠学芸員で、寄贈を受けた植物標本を紹介しながら、植物研究家としての吉田牧師の足跡などを解説する。

参加無料。希望者は直接会場へ。

問い合わせは同博物館 ☎ 015・576・2009 へ。

「北海道新聞」 2020年1月9日



地方教会の歩み 記録したい

浦幌町立博物館学芸員の持田誠さん(46)は、道内の地方教会が歩んできた歴史を掘り起こし、地域住民に知らせる活動に力を入れている。

「道内のキリスト教史は、明治開拓期の記述が中心で、その後の歴史がきちんと残されていない。当時を知る人がある今こそ記録しないと、地域の歴史から消え、やがて人々の記憶からも消えかねない」と危機感を募らせる。自治体編さんの市町村史にも教会に関する記述は少なく、中には明らかに間違っているものもあるという。

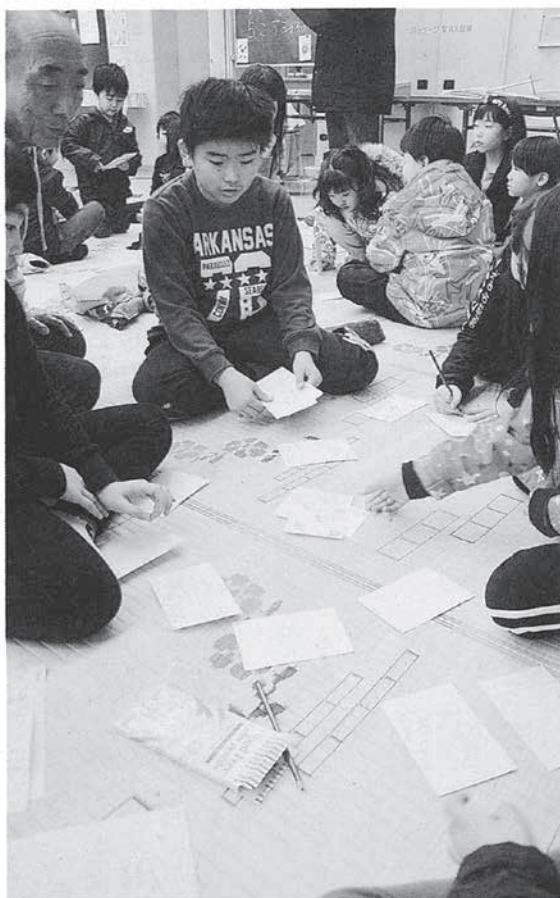
「神社も合祀などでルーツをたどるのが難しくなっている。神社や寺、教会は人々の精神的支柱の役割も果たしている、その足跡を残していくことは大事」と訴える。

(岩瀬貴弘)



「北海道新聞」 2020年1月10日

地域 の 話題



アイヌ語ゲームで学習

■浦 幌

小学生31人が参加した。

子どもたちは6班に分かれ、紙に一つから五つの星

や月、太陽の絵を描いた。

町立博物館で開かれ、参加

者はカードゲームで遊びながらアイヌ語を学んだ。写真。

帯広百年記念館の長谷仁

美学芸調査員らを講師に迎えて9日に行われ、町内の

上の数字に挑戦するグループもあり、盛り上がった。

(岩瀬貴弘)

「北海道新聞」 2020年1月15日

ザゼンソウの「押し花色紙」を
手に解説する持田学芸員（右）

浦幌町立博物館 企画展で講座



同館の持田学芸員が講師を務めた。同館で開催中の同教会と吉田牧師の足跡を紹介する企画展「信仰の日は永遠に」の関連事業として行われた。

吉田牧師は池田町を中心に全国各地で植物を採集しており、同館には201点の標本が収蔵されている。この日は約50点の標本と礼拝堂を建設するときに資金集めのために作製した「押し花色紙」などが展示された。

持田学芸員は「植物標本はとても丁寧に作製されていて、ラテン語の種名、和名、採集年月日、採集地が書かれたラベルが貼られている。普通種が多いが、その時々自然を記録することとはとても大切なこと」と

吉田氏手製の標本間近で

旧池田教会牧師 植物研究家の顔学ぶ

【浦幌】福音ルーテル旧池田教会の吉田康登牧師が作製した植物標本を紹介する博物館講座「植物研究家としての吉田牧師」（町立博物館主催）が11日、同館の特別展示ホールで開かれた。町内外から26人が参加し、関心の高さをうかがわれた。

解説した。大雪山で採集したタカネナナカマドの標本は「いま取ると逮捕される」、標本ラベルの採集地に「花屋」と書いてあるものがあることなどユーモアを交えて紹介している。

ジュズダマの標本を前にした町内の女性は「子ども

のころ、種を集めてお手玉や種の穴に糸を通してネットクレスを作った」と懐かしんでいた。

企画展「信仰の日は永遠に」は19日まで開かれている。入場無料。問い合わせは同館（015・576・2009）へ。

（田子紳一通信員）

「十勝毎日新聞」 2020年1月16日

自作アイヌ語カードで遊ぶ

浦幌町立博物館 冬休みの児童、工作も



【浦幌】町立博物館主催の「冬休みの児童、工作も」が7、9の両日、同館で開催された。休み中の児童らがプラスチック板でチョウを作ったり、自作のアイヌ語のカードゲームを楽しんだ。

7日の「プランちゃんちよづくり」には児童36人が参加。同館の持田学芸員が講師を務めた。児童たちは町立図書館でチョウの図鑑を見て、チョウのイメージを膨らませた。プラスチック板（A6判）に描かれたアゲハチョウの形に色鉛筆で模様を塗り、周囲をハサミで切り取った。オーブントースターで数秒加熱すると6分の1ほどに縮小されたチョウが出来上がった。

（田子紳一通信員）

アイヌ語を書いたカードゲームを楽しむ児童らが、ストラップを付けてキーホルダーを完成させた。赤や緑、黄色など6色の鮮やかなチョウを作った浦幌小学校3年生の坂本春樹君（8）は「きれいにできてよかった」と笑顔だった。

9日の「アイヌ文化であそぼう」には児童31人が参加。帯広百年記念館の長谷川美奈子調査員が講師を務め、アイヌ語の数字カードを作りゲームを楽しんだ。

浦幌小学校3年生の池田英優佳（まゆかさん）（9）は「アイヌ語で数字を覚えたと話していた。」

（田子紳一通信員）

TOKACHI
ワイド
19

「十勝毎日新聞」 2020年1月18日

全国からの孔版画 年賀状色彩豊かに 5日まで展示

【浦幌】うらほろ孔版画

サークル（経堂一代会長、
会員11人）主催の「2020



サークルのメンバーと
千葉代表（前列中央）、
経堂会長（同右）

〇全国孔版画年賀状展が、
町立博物館特別展示ホール
で開かれている。2月5日
まで。

同サークルを指導する十
勝孔版画の会の千葉定是代
表（幕別町在住）が、全国
の孔版画愛好グループに呼
び掛けて毎年実施しており
15回目。町内の会員を含む
十勝管内や道内、茨城、宮
城の両県など全国11グルー
プ2個人の66人から寄せら
れた98点の年賀状を展示。
作品は一筆書きを思わせる
ネズミの輪郭や米俵をかじ
る姿など、色彩あふれる図
案が見る人を楽しませている。

十勝孔版画の会の会員で
池田町在住の関口美代子さ
んが「第18回なんと版画年
賀状公募展」（富山県南砺
市、南砺市立福光美術館主
催）で、福光美術館長賞（4
席相当）を受賞した作品も
展示している。

経堂会長は「手作りの孔
版画年賀状を作るのは幸
せ」と話し、来場を呼び掛
けている。午前10時～午後
6時（最終日は午後3時ま
で）。入場無料。

（田子紳一通信員）

「十勝毎日新聞」 2020年1月25日

手のひらで性齢判別／種散布のヤマブドウへの影響



浦幌 酪農学園大・院生ら9人

【浦幌】町内をベースに白糠丘陵の道有林などでヒクマの調査
研究を行っている大学生、大学院生の成果発表会「卒業論文大発
表会2020 in 浦幌 浦幌のヒクマこんなに調べました！」（町
立博物館主催）が8日、町教育文化センター2階視聴覚ホールで
開かれた。

ヒクマの研究成果発表

研究成果を地域にフィ
ードバックすることを目的に
2016年に始まり、今年
で5回目。今回は町内外か
ら約60人が来場した。酪農
学園大学野生動物生態学研
究室の4年生6人、同大生
質化学研究室の4年生1
人、同大学院修士課程の
2年生2人の計9人が発表
した。

高山寛司さん（4年）は
「カメラトラップの映像解
析によるヒクマの性齢クラ
スの判別方法」と題して発
表。ヒクマの手のひらの幅
の違いで雌成獣と雄亜成獣
の識別ができると考え、十
勝総合振興局森林室が管理
する道有林（浦幌町ほか）

卒業論文を発表した大学
生、大学院生。前列右か
ら3人目は佐藤教授

「十勝毎日新聞」 2020年2月13日

などで撮影されたヒクマの
手のひらの幅を測った。
雌の成獣、亜成獣は共に
17センチ以下だったが、雄亜成
獣は値が大きくばらついた
ことから、映像の手の向き
や背擦り木の傾きによる誤
差が生じる可能性を指摘。
計測条件の絞り込みなど誤
差を小さくする方法を検証
する必要があるとした。

また、村田明弥さん（修
士課程2年）が「ヒクマに
よる種子散布がヤマブドウ
個体群の遺伝的空間構造に
与える影響」、上田健太さ
ん（同）が「カメラトラッ
プを用いた札幌市に生息す
るヒクマの生息実態の解
明」と題して報告した。

同研究室の佐藤喜和教授
は「私たちは浦幌をメイン
に調査している。町中で赤
いジャンパーの学生を見た
ら調査が始まったと感じて
ほしい」と話していた。
1階ロビーでは、同大の
協力で開催してきた「ヒク
マの学校」の教材を展示。
自動撮影カメラに映った迫
力あふれるヒクマの映像や
等身大の毛皮、頭骨などが
来場者の注目を集めてい
た。（田子紳一通信員）

毎週水曜日掲載

あの顔 この顔

掲載写真をご希望の方は
かちまいフォトサービス
☎0120-25-9410
(土・日・祝定休)

※著作権の関係上、販売できない
写真もあります。



昔を体験

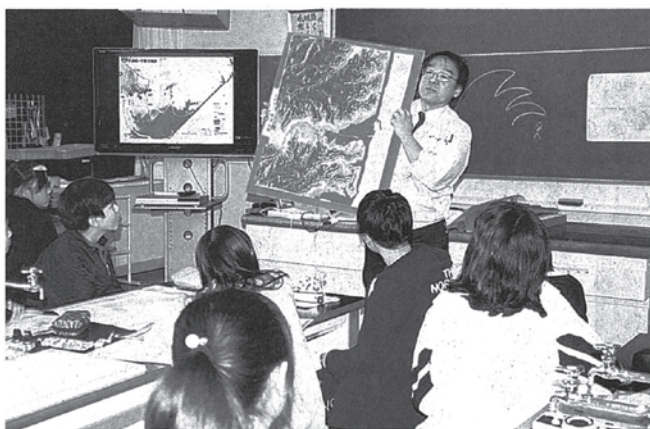
おいしくな〜れ。昔の暮らしぶりを学ぶ授業で大豆を使って煎り豆を作る(浦幌小学校3年生の社会科授業で)

「十勝毎日新聞」 2020年2月19日

地震と津波仕組み学ぶ

博物館の持田学芸員 浦幌小で解説

【浦幌】浦幌小学校(横山利幸校長)の6年生35人が18日、地震と津波の仕組みなどを学んだ。理科の授業の一環で町立博物館の持田誠学芸員が講師を務めた。持田学芸員は地球の構造を説明し、「海溝型地震は海のプレートが陸のプレートの沈み込む時のひずみを解消することが原因」と地震が起こる仕組みを解説。津波発生のメカニズムも紹介し、「津波はとても速い。地震が起きたらすぐに逃げること」呼び掛けた。



厚内地区のジオラマで浸水域を説明する持田学芸員(中央)

町厚内地区の地形模型(ジオラマ)や町のハザードマップで津波がどこまで達するかを示し、浦幌川の洪水では町の中心市街地全体が浸水することを伝えた。災害時には「身の回りのことを普通

にできることが大切」と話した。

児童らは、災害の種類や十勝沖地震(1952年3月4日)など町の災害の歴史も学んだ。浦幌では約400年に1度の割合で大津波が起きていることを知り、「(前回の津波から)もう400年もたっている」と心配していた。

(田子紳一通信員)

「十勝毎日新聞」 2020年2月26日

XV. 条例、教育委員会規則、教育委員会規程

○浦幌町教育文化センターの設置及び管理等に関する条例

(平成11年9月20日条例第20号)

(目的)

第1条 この条例は、地方自治法（昭和22年法律第67号）第244条の2の規定に基づき、浦幌町教育文化センター（以下「センター」という。）の設置及び管理等に関し、必要な事項を定めることを目的とする。

(設置)

第2条 センターは、町民の教育文化の振興発展と学術の向上を図るため設置する。

(名称及び位置)

第3条 センターの名称及び位置は、次のとおりとする。

名称 浦幌町教育文化センター

位置 浦幌町字桜町16番地の1

(教育機関)

第4条 センター内に次の教育機関を置く。

- (1) 浦幌町立図書館（以下「図書館」という。）
- (2) 浦幌町立博物館（以下「博物館」という。）

(図書館奉仕)

第5条 図書館は、おおむね次の各号に掲げる奉仕を行う。

- (1) 図書、記録及びその他必要な資料（以下「図書館資料」という。）を収集し、町民の利用に供すること。
- (2) 図書館資料の目録を整備すること。
- (3) 図書館資料について、その利用のための相談に応ずること。
- (4) 読書会及び研修会等を開催するとともに、その奨励を行うこと。
- (5) 時事等に関する情報及び参考資料を紹介し及び提供すること。
- (6) 学校、博物館、公民館等と緊密に連絡し、協力すること。

(図書館の職員)

第6条 図書館に館長及び司書、その他必要な職員を置く。

(図書館協議会)

第7条 図書館に浦幌町立図書館協議会（以下「図書館協議会」という。）を置く。

- 2 図書館協議会は、図書館の管理運営に関し必要な事項について調査審議するものとする。
- 3 図書館協議会の委員（以下「委員」という。）は、10名以内とし、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者のうちから教育委員会が委嘱する。
- 4 委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。
- 5 補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(博物館の事業)

第8条 博物館は、おおむね次の各号に掲げる事業を行う。

- (1) 実物、標本及びその他必要な資料（以下「博物館資料」という。）を収集し、保管し、展示すること。
- (2) 博物館資料を博物館外で展示すること。
- (3) 博物館資料の利用に関し必要な説明及び指導等を行い、又は研究室等を利用させること。
- (4) 博物館資料に関する専門的、技術的な調査研究及び保管、展示等の技術的研究を行うこと。
- (5) 博物館資料に関する案内書及び解説書等を作成し、頒布を行うこと。
- (6) 博物館資料に関する講演会及び研究会等を開催するとともに、その奨励を行うこと。
- (7) 浦幌町にある文化財保護法（昭和25年法律第214号）の適用を受ける文化財について、解説書及び目録を作成し、町民の文化財の利用の便を図ること。
- (8) 学校、図書館、公民館等と緊密に連絡し、協力すること。

(博物館の職員)

第9条 博物館に館長及び学芸員、その他必要な職員を置く。

(博物館協議会)

第10条 博物館に浦幌町立博物館協議会（以下「博物館協議会」という。）を置く。

- 2 博物館協議会は、博物館の管理運営に関し必要な事項について調査審議するものとする。
- 3 博物館協議会の委員の定数及び任期等については、第7条第3項から第5項の規定を準用する。

(報酬及び費用弁償)

第11条 委員が会議等に出席したとき又は公務により旅行したときは、非常勤特別職の職員の報酬等に関する条例（昭和31年浦幌町条例第19号）に定めるその他の委員会、協議会に相当する報酬及び費用弁償を支給する。

(利用の制限)

第12条 館長は、次の各号の一に該当する場合は、利用を禁止し、制限し、又は退館させることができる。

- (1) 公の秩序又は善良な風俗を乱すおそれがあると認められるとき。
- (2) 建物又はその設備を滅失し、損傷するおそれがあると認められるとき。
- (3) 集団的に又は常習的に暴力的不法行為を行うおそれがある組織及びその構成員の利益になると認められるとき。
- (4) その他管理運営上支障があると認めたとき。

(損害賠償の義務)

第13条 利用者が建物及び設備又は図書館資料若しくは博物館資料をき損、汚損又は滅失したときは、教育委員会が定める損害額を賠償しなければならない。

(規則への委任)

第14条 この条例に定めるもののほか、必要な事項は教育委員会規則で定める。

附 則

- 1 この条例は、平成11年12月1日から施行する。
- 2 浦幌町郷土博物館設置条例（昭和44年浦幌町条例第21号）は、廃止する。

○浦幌町立博物館の管理、運営等に関する教育委員会規則

(平成11年12月1日教育委員会規則第4号)

(目的)

第1条 この教育委員会規則は、浦幌町教育文化センターの設置及び管理等に関する条例（平成11年浦幌町条例第20号。以下「条例」という。）第4条第2号に規定する浦幌町立博物館（以下「博物館」という。）の管理、運営等について必要な事項を定めることを目的とする。

(博物館協議会)

第2条 浦幌町立博物館協議会（以下「協議会」という。）の組織等については、浦幌町立図書館の管理、運営等に関する教育委員会規則（平成11年浦幌町教育委員会規則第3号）第2条の規定を準用する。

(開館時間)

第3条 常設展示室の開館時間は、午前10時から午後5時までとする。

2 前項の規定にかかわらず、館長が必要と認めたときはその時間を臨時に変更することができる。

(休館日)

第4条 常設展示室の休館日は次のとおりとする。

- (1) 月曜日（月曜日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日（以下「国民の休日」という。）の場合は、その翌日）
- (2) 国民の休日の翌日。ただし、土曜日、日曜日及び国民の休日に当たるときを除く
- (3) 年末年始
- (4) その他館長が必要と認めた日

2 前項の規定にかかわらず、館長が必要と認めたときは休館日を臨時に変更することができる。

(常設展示室利用者の遵守事項)

第5条 利用者は、この教育委員会規則及び館長の指示に従うほか、次の各号に掲げる事項を遵守しなければならない。

- (1) 許可なく博物館資料を撮影し、又は複製しないこと。
- (2) 許可なく展示資料に手を触れないこと（特に指定した展示品を除く。）。
- (3) 音読、高談その他騒がしい行為をしないこと。
- (4) 飲食又は喫煙をしないこと。
- (5) 展示品の近くでインク、墨汁等を使用しないこと。

(博物館資料の寄贈等)

第6条 博物館は、博物館資料の寄贈又は寄託を受けることができる。

2 博物館に博物館資料を寄贈又は寄託しようとする者は、浦幌町財務規則（昭和60年浦幌町規則第12号）第158条の規定にかかわらず館長に博物館資料寄贈（寄託）申込書（別記様式第1号）を提出し、承認を受けなければならない。

3 館長は、前項の提出があったときは遅滞なくその取扱いについて決定し、寄贈を受ける場合はその資料と引換えに博物館資料受領証（別記様式第2号）を寄贈者に交付しなければならない。また、寄託した者に対しては博物館資料受託証（別記様式第3号）を交付するものとする。

4 寄贈された博物館資料は理由のいかんを問わず返還しない。

(寄託博物館資料の返還)

第7条 寄託博物館資料は、博物館資料受託証と引換えに返還しなければならない。

(寄託博物館資料の損失責任)

第8条 博物館は、寄託された博物館資料が滅失若しくは紛失又は破損してもその責は負わないものとする。

(館外利用)

第9条 館長は、教育長の承認を得て、博物館の所蔵する博物館資料を他の博物館その他館長が適当と認めた者に館外貸出しをすることができる。ただし、寄託を受けた博物館資料については、原則として貸し出さないものとする。

(貸し出し期間)

第10条 前条に規定した博物館資料の貸し出し期間は、90日以内とする。

2 前項の規定にかかわらず、特に必要と認めたときは、博物館資料の貸し出し期間を延長することができる。

3 館長は、必要があるときは、貸し出し期間中であっても、博物館資料の返還を求めることができる。

(館外貸出しを受けた博物館資料の遵守義務)

第11条 博物館資料の貸出しを受けた者は、当該博物館資料を、承認を受けた利用の目的又は場所以外の目的又は場所以外で利用してはならない。

2 貸出しの許可を受けた者は、次の各号に掲げる事項を遵守しなければならない。

- (1) 当該博物館資料が滅失し、又はき損したときは、当該博物館資料を原状に回復し、及びそれによって生じた損害を賠償すること。
- (2) 当該博物館資料等の運搬及び維持管理に要する経費を負担すること。
- (3) 承認を受けた利用目的又は利用の場所を変更しないこと。
- (4) 貸出し満了期間までに指定された場所に返納すること。
- (5) 前各号に掲げるもののほか館長が指示する事項。

(博物館資料の特別利用)

第12条 博物館資料を学術上の研究その他の目的のため撮影、複写、模写又は模造（以下「特別利用」という。）を行おうとする者は、あらかじめ、特別利用申請書（別記様式第4号）又はそれに類する書類を館長に提出し、承認を求めなければならない。

2 前項の規定により特別利用を承認したときは、特別利用承認書（別記様式第5号）を交付するものとする。

3 前項の場合において、当該博物館資料が寄託を受けたものであるときは、文書により寄託者の承諾を得なければならない。

4 特別利用は、館長の指示に従って行わなければならない。

(模写品等の刊行等の承認)

第13条 博物館資料を模写し、模造し、撮影し、又は複写したもの（以下「模写品等」という。）を刊行し、若しくは複製し、又は研究発表等に使用しようとする者は、あらかじめ、模写品等使用申請書（別記様式第6号）又はそれに類する書類を館長に提出し、承認を受けなければならない。

2 館長は、模写品等の使用を承認したときは、模写品等使用承認書（別記様式第7号）を交付するものとする。

(委任)

第14条 この教育委員会規則に定めるもののほか必要な事項は別に定める。

附 則

- 1 この教育委員会規則は、平成11年12月1日から施行する。
- 2 浦幌町郷土博物館設置条例施行規則（昭和44年浦幌町教育委員会規則第1号）は、廃止する。
- 3 旧教育委員会規則により現に、収集、保管及び館外貸出し等されている博物館資料は、この教育委員会規則に基づき収集、保管及び貸出し等されているものとみなす。

別記様式第1号

博物館資料寄贈（寄託）申込書		
年 月 日		
浦幌町立博物館長 様		
住所 _____		
氏名 _____ 印		
次のように、博物館資料を寄贈（寄託）したいので申し込みます。		
記		
1 寄贈、寄託資料		
資 料 名	数量	摘 要
2 寄託の場合、寄託期間 年 月 日 から 年 月 日		

別記様式第2号

博物館資料受領証		
年 月 日		
(申 込 者) 様		
浦幌町立博物館長 印		
寄贈の申込みのあった次の資料を受領します。今後は、申込みの趣旨を尊重し、 学術資料として有効に活用させていただきます。		
記		
1 寄贈資料		
資 料 名	数量	摘 要

別記様式第3号

博物館資料受託証		
年 月 日		
(申 込 者) 様		
浦幌町立博物館長 印		
寄託の申込みのあった次の資料を受託します。今後は、申込みの趣旨を尊重し、 学術資料として有効に活用させていただきます。		
記		
1 受託資料		
資 料 名	数量	摘 要
2 受託期間 年 月 日 から 年 月 日		
※寄託資料の返還は、この受託証と引換えに行います。		

別記様式第4号

特 別 利 用 申 請 書		
年 月 日		
浦幌町立博物館長 様		
申請者 住所 _____		
氏名 _____ 印		
次のように浦幌町立博物館資料を特別利用したいので、申請します。		
記		
利用目的		
利用期間	年 月 日 ～ 年 月 日 (日間)	
利用方法	閲覧・複写・模造・撮影・複写・その他 ()	
利 用 資 料 名	点数	備 考

別記様式第5号

特 別 利 用 承 認 書		
年 月 日		
(申 請 者) 様		
浦幌町立博物館長 印		
年 月 日申請の浦幌町立博物館資料の特別利用を、次のように承認します。		
記		
利用目的		
利用期間	年 月 日 ～ 年 月 日 (日間)	
利用方法	閲覧・模写・模造・撮影・複写・その他 ()	
利 用 資 料 名	点数	備 考
注意 1 利用時間は、午前10時から午後5時までとする。 2 利用に当たっては、係員の指示に従うこと。 3 前項に違反したときは、承認を取り消すことがある。		

別記様式第6号

受付番号		第 号
模 写 品 等 使 用 申 請 書		
年 月 日		
浦幌町立博物館長 様		
申請者 住所 (法人又は団体にあつては主たる事務所所在地)		
氏名 (法人又は団体にあつては名称及び代表者氏名) 印		
電話		
次のように浦幌町立博物館資料の模写等をしたので、申請します。		
記		
使 用 目 的		
模 写 等 区 分	模写・模造・撮影・複写	
製 作 等 区 分	刊行・複製・研究発表等	
作 品 名		
製 作 数		
予 定 価 格	有料 (円) ・ 無料	
製作予定年月日	年 月 日	
模 写 等 資 料 名		
注) 刊行企画書、複製仕様書、研究発表会の開催要項等の参考資料があれば添付して下さい。		

別記様式第7号

承認番号		第 号
模 写 品 等 使 用 承 認 書		
年 月 日		
(申 請 者) 様		
浦幌町立博物館長 印		
年 月 日申請の浦幌町立博物館資料模写等を、次のように承認します。		
記		
使 用 目 的		
模 写 等 区 分	模写・模造・撮影・複写	
製 作 等 区 分	刊行・複製・研究発表等	
作 品 名		
製 作 数		
予 定 価 格	有料 (円) ・ 無料	
製作予定年月日	年 月 日	
模 写 等 資 料 名		
注) 1 上記使用目的以外に使用しないこと。 2 使用に際しては、浦幌町立博物館所蔵の旨を明記すること。		

○浦幌町立博物館処務規程

(平成11年12月1日教育委員会規程第2号)

改正 平成13年6月29日教委訓令第5号

平成15年6月30日教委訓令第3号

(目的)

第1条 この教育委員会規程は、浦幌町立博物館（以下「博物館」という。）の機構と事務処理上必要な事項を定めることを目的とする。

(職員の職)

第2条 博物館に館長及び学芸員を置き、必要に応じて係長、主任、主査、主事その他の職員及び学芸員補を置くことができる。

(任免)

第3条 前条に規定された博物館の職員の任免は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第34条の規定に基づき、教育長の推薦により、教育委員会が行う。

(服務)

第4条 博物館の職員の服務は、別に定めるものを除き、浦幌町教育委員会事務局職員の例による。

(職務の分掌)

第5条 館長は、上司の命を受けて、館務を掌理し、所属職員を指揮監督する。

2 学芸員は、上司の命を受け、博物館法（昭和26年法律第285号。以下「法」という。）第4条第4項に規定する職務を行う。

3 係長は、上司の命を受け、係の事務を処理する。

4 主任は、上司の命を受け、館長が定める特定の事務を処理する。

5 主査は、上司の命を受け、担当事務を処理する。

6 主事及びその他の職員は、上司の命を受け、事務をつかさどる。

7 学芸員補は、法第4条第6項に規定する職務を行う。

(係の設置)

第6条 博物館に博物館係を置く。

(事務の分掌)

第7条 博物館係は、次の事務をつかさどる。

- (1) 公印の管守に関すること。
- (2) 人事、経理、文書その他庶務に関すること。
- (3) 浦幌町立博物館協議会に関すること。
- (4) 予算及び決算に関すること。
- (5) 物品の出納及び管理に関すること。
- (6) 施設設備の管理に関すること。
- (7) 博物館資料の収集、保管及び展示に関すること。
- (8) 博物館資料の説明及び助言等に関すること。
- (9) 博物館資料の調査研究に関すること。

- (10) 博物館資料の案内書、解説書、目録、図録、年報、調査研究の報告書等の作成及び配布に関すること。
- (11) 博物館事業の広報に関すること。
- (12) 博物館事業の企画運営に関すること。
- (13) その他博物館運営及び博物館資料に関する専門的事項に関すること。

第8条 削除

第9条 削除

(専決)

第10条 館長は、他に定めのあるものを除き、次の各号に掲げる事務について専決することができる。

- (1) 施設設備の使用及び管守に関すること。
- (2) 専用公印の管守に関すること。
- (3) 関係団体の育成及び指導等に関すること。
- (4) 博物館の行う恒例又は軽易な事業の企画運営に関すること。
- (5) 前各号に準ずる軽易な事務処理に関すること。

第11条 前条各号に掲げる事項であっても、特に重要な事項又は取扱上異例に属する事項若しくは疑義のある事項の処理については、教育長の承認を受けて処理しなければならない。

(事業計画及び事業実績報告等)

第12条 館長は、当該年度に実施すべき年間の事業計画を教育長が別に定める日までに届け出るものとする。

第13条 館長は、当該年度に実施された年間の事業実績報告等を教育長が別に定める日までに報告しなければならない。

(帳簿)

第14条 博物館には、次の各号に掲げる簿冊を備え付け、常に適正に記帳、整備しなければならない。

- (1) 博物館日誌（別記様式第1号）
- (2) 備品台帳（収蔵されている博物館資料を除く。）
- (3) 図書台帳
- (4) 旅行命令簿
- (5) 経理簿
- (6) 会議日誌
- (7) 出勤簿
- (8) 公文書綴り
- (9) 沿革史
- (10) 博物館資料寄贈申込台帳
- (11) 博物館資料寄託申込台帳
- (12) 博物館資料受入台帳（別記様式第2号）
- (13) その他館長が必要と認めた簿冊

(合議)

第15条 館長は、事務執行上異例又は重要と認められるものは、教育委員会事務局の関係課長等と合議しなければならない。

(公印)

第16条 博物館の文書に用いる印章（以下「公印」という。）は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 浦幌町立博物館協議会長の印
- (2) 浦幌町立博物館の印
- (3) 浦幌町立博物館長の印

2 前項の公印は、館長が保管する。

3 公印の規格、定位置及び定数は、別表のとおりとする。

4 公印の刻字面の様式は、別記様式第3号のとおりとする。

(文書の記号)

第16条の2 文書の記号は、教育委員会名及び博物館名をもって構成する。

2 前項の記号は、次のとおりとする。

浦博物

(博物館資料の受入れ)

第17条 博物館で受け入れた資料は、博物館資料受入台帳に所定の事項を記入し、その資料の由来等を調査後、速やかに博物館資料記録票を作成しなければならない。

第18条 前条の博物館資料には、その由来等を明らかにするために博物館資料整理カード（別記様式第4号）を貼付しなければならない。ただし、それによりがたい場合は、その他適当な方法でその由来等を明らかにしなければならない。

(準用規定)

第19条 この教育委員会規程に定めるもののほか、必要な事項は浦幌町教育委員会事務局処務規程（平成13年浦幌町教育委員会訓令第2号）を準用する。

(読替え規定)

第20条 浦幌町教育委員会事務局処務規程を準用する場合、「課長」とあるのを「館長」と読み替えるものとする。

附 則

1 この教育委員会規程は、平成11年12月1日から施行する。

2 この教育委員会規程施行の際に現に使用中の別記様式は、当分の間、従前のものを使用することを妨げない。

附 則（平成13年6月29日教委訓令第5号）

この教育委員会訓令は、公布の日から施行する。

附 則（平成15年6月30日教委訓令第3号）

この教育委員会規程は、平成15年7月1日から施行する。

別表（第16条第3項関係）

種 別	規 格	定数	定 位 置	個数	摘 要
浦幌町立博物館協議会長の印	18ミリメートル四方	1	博物館管理係	1	古天（横書き）
浦幌町立博物館の印	30ミリメートル四方	1	博物館管理係	1	古天（横書き）
浦幌町立博物館長の印	18ミリメートル四方	1	博物館管理係	1	古天（横書き）

別記様式第1号

決裁	館長	回	議	係	合	議
年 月 日 () 天 候						
寄贈等	博物館資料の寄贈		寄贈者	住所	品名数量等	
	博物館資料の寄託		寄託者	住所	品名数量等	
	博物館資料の返還		受領者	住所	品名数量等	
事業等	事業名			～	特記事項	
	事業名			～	特記事項	
来館者	所属氏名			所属氏名		
	所属氏名			所属氏名		
団体入館者	団体名			人数	特記事項	
	団体名			人数	特記事項	
	団体名			人数	特記事項	
職員動静	氏名	旅行先	目的			
備考						

浦 幌 町 立 博 物 館

別記様式第2号

要 摘									
収蔵番号									
分類番号									
寄贈者等住所・氏名									
受入方法									
受入年月日									
品名									
受入番号									

浦 幌 町 立 博 物 館

別記様式第3号

1 浦幌町立博物館協議会長の印



2 浦幌町立博物館の印



3 浦幌町立博物館長の印



別記様式第4号

○	
浦幌町立博物館	
受入番号	—
収蔵番号	—
分類番号	
受入年月日	年 月 日
資料名	
寄贈者等名	
寄贈者等住所	
受入方法	寄贈・採集・発掘・寄託 製作・購入・複製・その他
摘要	

注) 1 年号は西暦で記載すること。
2 「受入方法」は、適当なものを○で囲むこと。

XV. 令和元年度予算

10款 教育費 5項 社会教育費 3目 博物館費

(単位:千円)

当 初 予算額	補正額	計	節		説 明
			区 分	金 額	
1,637	34	1,671	1 報 酬	25	委員報酬 25
			8 報償費	160	報償金 160
			9 旅 費	139	費用弁償 2
					普通旅費 137
			11 需用費	1,269	消耗品費 475
					燃料費 7
					印刷製本費 737
					光熱水費 0
					修繕料 50
					賄材料費 0
			12 役務費	45	通信運搬費 0
					手数料 45
			13 委託料	0	その他委託料 0
			14 使用料及び賃借料	0	その他借上料 0
			15 工事請負費	0	工事請負費 0
			16 原材料費	10	原材料費 10
			18 備品購入費	0	備品購入費 0
			19 負担金、補助及び交付金	23	北海道博物館協会負担金 15
					帯広百年記念館運営連絡協議会負担金 3
					道東3管内博物館施設等連絡協議会負担金 5
					研修会参加負担金 0

浦幌町立博物館年報 第21号

発行日 2020年11月30日

編集・発行 浦 幌 町 立 博 物 館
〒089-5614 北海道十勝郡浦幌町字桜町16番地 1
電話 015-576-2009 FAX. 015-576-2452

印刷所 大 同 出 版 紙 業 株 式 会 社
〒080-0017 北海道帯広市西7条南6丁目2番地
電話 0155-23-5107 FAX. 0155-23-9032

